

41 特 232
8 622

皇紀二千六百年記念

團史

京都市實業青年團

始





(昭和二十六年 京都市實業青年團史)

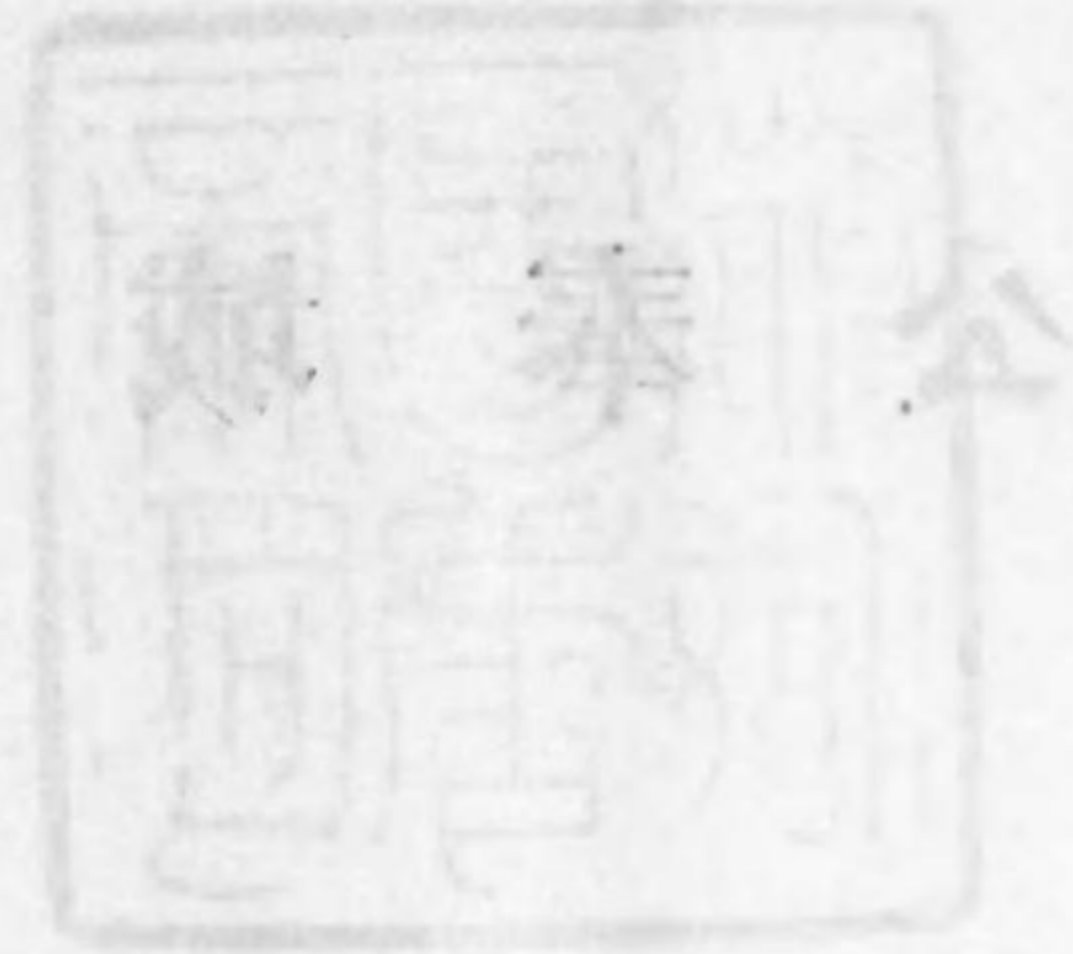
目次

題字「勤儉治産」	官幣大社贈神祇宮司 鈴木松太郎
令 旨	
秩父宮殿下御言葉	
綱領・宣言	
口繪「幹部・事業情況」	
序	川端道一(一)
實業青年團史の發刊に際して	本田喜三郎(四)
記念團史發刊に當りて	辻本庄一郎(五)
所 感	伊吹榮二郎(七)
記念史編纂に對しての偶感	熊木賢一(二〇)
修養部の寸言	大槻庄太郎(二二)
拓け! 大陝	表 宣太郎(二三)
實業青年に告ぐ	
役員一覽表	(二四)
加盟團長名一覽表	(二五)
實業優良模範章授賞者	(二六)
京都市模範章授賞者	(二八)
實業青年團前史	(三〇)
事業概況	(三二)
稻荷神社と青年團	(三四)
加盟單位團沿革並事業概況	(三六)
編纂餘滴	(三八)
發展の解散式	(九九)



勤 侯 活 產

於本行大有裨益



知



令 旨

國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養
ニ須ツコト多シ諸子能ク内外
ノ情勢ニ顧ミ恒ニ其ノ本分ヲ
盡シ奮勵協力以テ所期ノ目的
ヲ達成スルニ勗メンコトヲ望
ム

今上天皇陛下太子御在時
大正九年十一月二十二日
ニハシリノナリ



秩父宮殿下ヨリ賜タル御言葉

第十四回大會開會式直後會場ニ於テ

時局非常ノ此ノ秋元氣潑刺タル全國青年團代表諸子ト一堂ニ相見エ齊シク銃後奉公ニ赤誠ヲ效シツ、アルヲ聞クハ欣快トスル所ニシテ且又朝鮮及臺灣兩聯合青年團新ニ結成加盟シ茲ニ全國一體ノ實現ヲ見ルハ慶賀ニ堪ヘズ

我國ハ不幸ニシテ兵ヲ隣邦中華民國ニ進ムルノ已ムナキニ至リ既ニ年餘ニ及ベリ是レ一ニ東亞ノ安定ヲ確立シ世界平和ニ寄與セントスル不動ノ國是ニ基クモノニシテ前途尙遼遠ナリト謂フベク事變終末ヲ告グルモ更ニ幾多ノ艱難ニ遭遇スベキコト亦覺悟セザルベカラズ而シテ此ノ重大ナル使命ヲ遂行センニハ舉國一致不退轉ノ決意アルヲ要ス念フニ青年團員ハ之ガ中核タルベキモノニシテ國運ノ將來ハ實ニ其ノ雙肩ニ繫レリ諸子宜シク此重責ニ顧ミ曩ニ賜ハリタル令旨ヲ奉體シ青年團ノ本義ニ遵ヒテ一層ノ精勵ヲ加ヘ直ニ面ノ難局ヲ克服センコトヲ期スベク幹部各位亦青年團ノ實績ガ其ノ指導如何ニ俟ツモノ多キヲ思ヒ必ズ自ラ修メ率先シテ能ク職責ノ達成ニ努メ以テ聖慮ニ副ヒ奉ランコトヲ望ム



京都市實業青年團



川端團長



榎田副團長



伊吹副團長



辻本顧問



比賀江初代團長



本田顧問

大日本青年團綱領

一、我等ハ大日本青年ナリ 肇國ノ皇
 謨ニ則リテ忠孝ノ精華ヲ發揮シ
 同心團結以テ國運ノ進展ヲ期ス
 一、我等ハ大日本青年ナリ 養正大和
 ノ精神ヲ一貫シテ 隣保協同厚生
 ノ實ヲ擧ケ 共勵切磋道義世界ノ
 建設ヲ期ス
 一、我等ハ大日本青年ナリ 心身ヲ鍛
 鍊シテ進取明達力ヲ研究創造ニ效
 シ 勤勞奉公各自職分ノ遂行ヲ期
 ス

宣 言

皇國出師以來茲ニ年餘、武漢攻略將ニ成ラントシテ
 事變ハ今ヤ新段階ニ入レリ、然レドモ時局解決ノ前途
 尙遼遠、全國青年相率キテ愈々團結ヲ強化シ、赤誠ヲ
 傾ケ長期建設ノ決意ヲ新ニセザルベカラズ。
 茲ニ劃期的ナル第十四回大會ニ當リ、畏クモ
 秩父宮殿下ノ御台臨ヲ辱ウシ、特ニ有難キ、御言葉ヲ
 賜リ、現下青年ノ踐ムベキ道ヲ明示シ給フ、定ニ恐懼
 感激ニ堪ヘズ。
 惟フニ、今次ノ聖戰ハ蒋介石政權ノ不遜ナル盲動ヲ
 一掃スルノミニ止ラズ、人類共存ノ本義ヲ滅却シ皇國
 ノ進運ヲ阻礙セントスル一切ノ禍根ヲ東亞ノ天地ヨリ
 拂拭シ、日滿支ヲ通ズル物心一如ノ道義體制ヲ確立セ
 ントスルニ外ナラズ、我等ハ今新ニ宣示セラレタル
 綱領ヲ體シテ、ヨク字内ノ大勢ト時局ノ本質トヲ正視
 シ、第一線ニ奮闘スル皇軍將兵ノ心ヲ心トシ、自強淬
 勵誓ツテ
 天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス。
 右宣言ス。

部 幹 團 年 青 業 實 市 都 京



事 幹 上 井



事 幹 場 堀



事 幹 名 山



事 幹 井 平



事 幹 村 西



事 幹 見 大



事 幹 表

部 幹 團 年 青 業 實 市 都 京



長 事 幹 熊 大



事 幹 任 常 崎 浦



事 幹 任 常 槻 大



事 幹 木 熊



事 幹 田 増



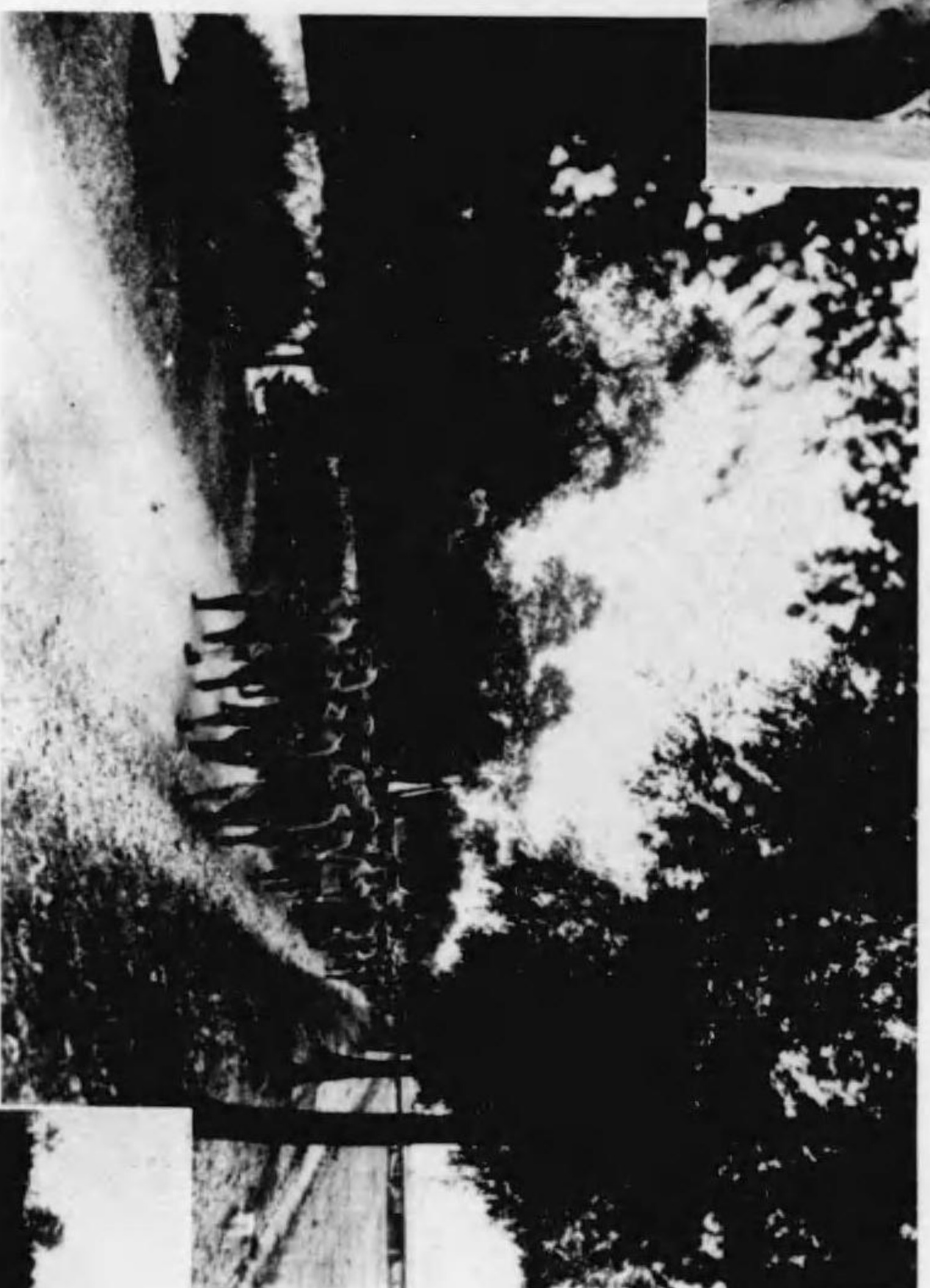
↑ 昭和會館に於ける
竹上名譽團長の訓示



結團式於植樹園內
(昭和八年十月五日)



↑ 幹部鍊成講習會
於天龍寺僧堂



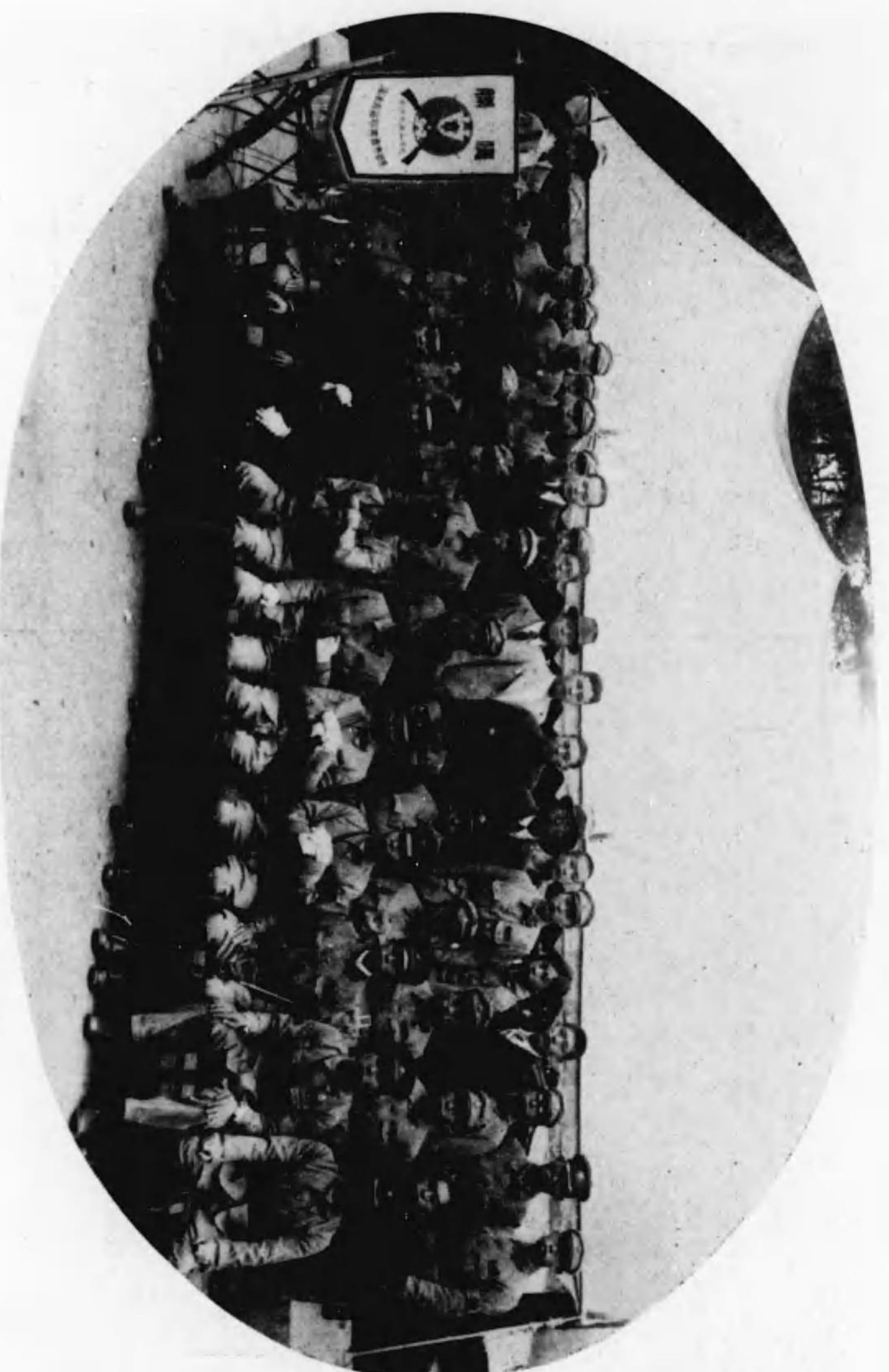
← 夏期行軍



↓ 野球大會



(日三月一年四十和昭) 社神荷稻於 式戴推長團端川



(日一月一十年一十和昭) 場擊射民國於 會大擊射彈實

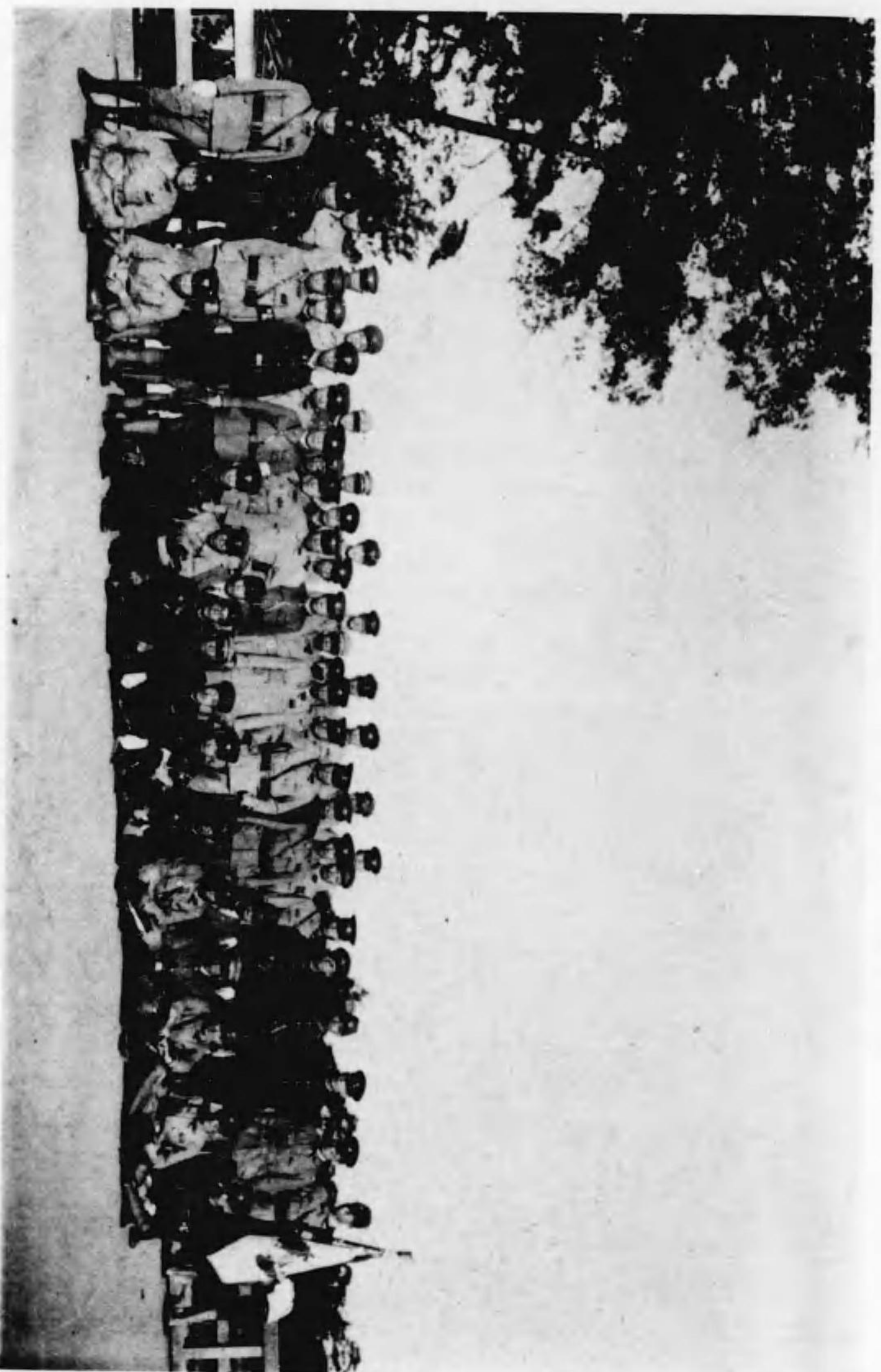
景二隊援救害水縣庫兵
(日四十二月七年三十和昭)



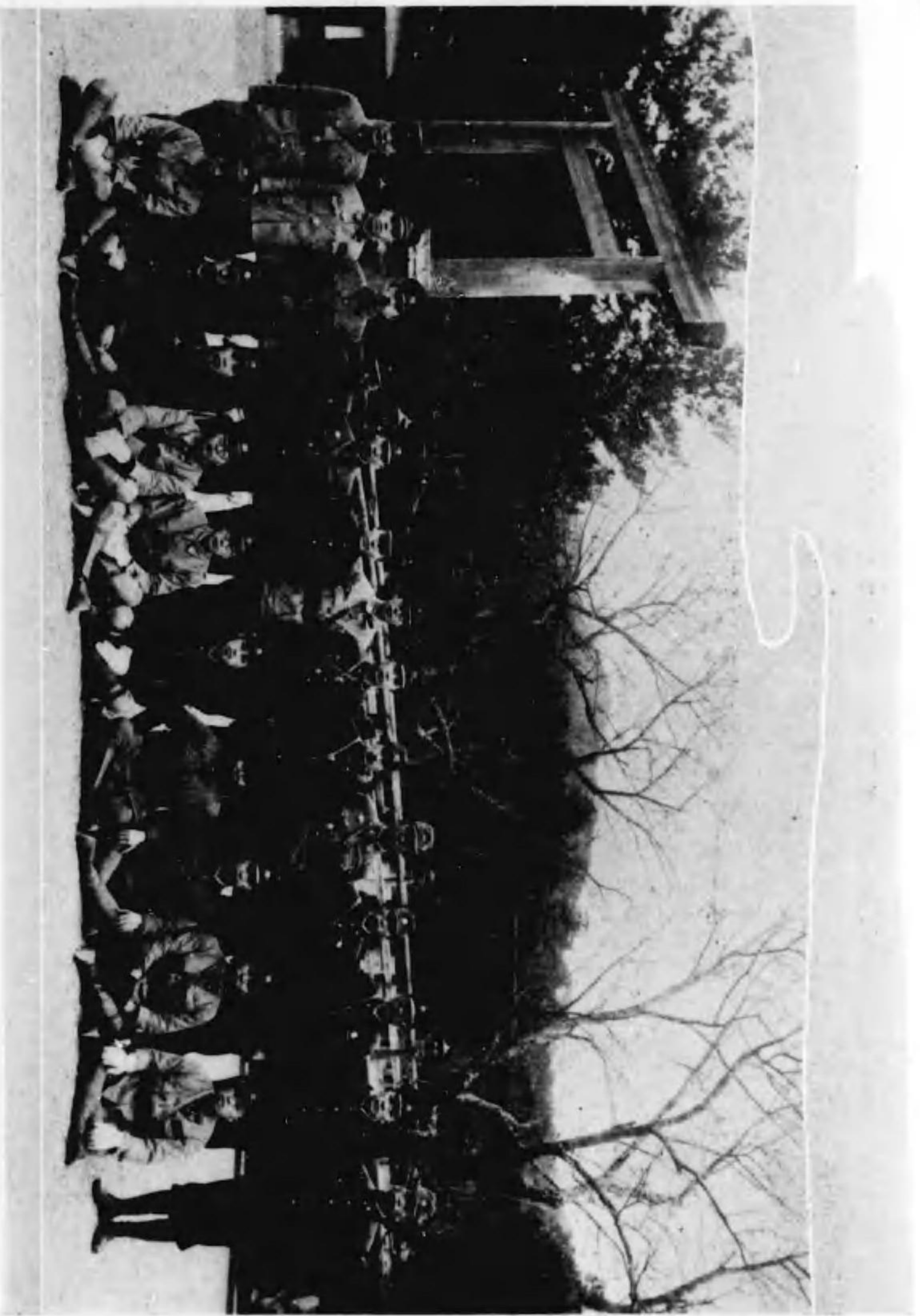
隊仕来るけ於に前驛都京



▶隊仕奉勞勤興復害水方地縣庫兵◀
成編の隊中業實

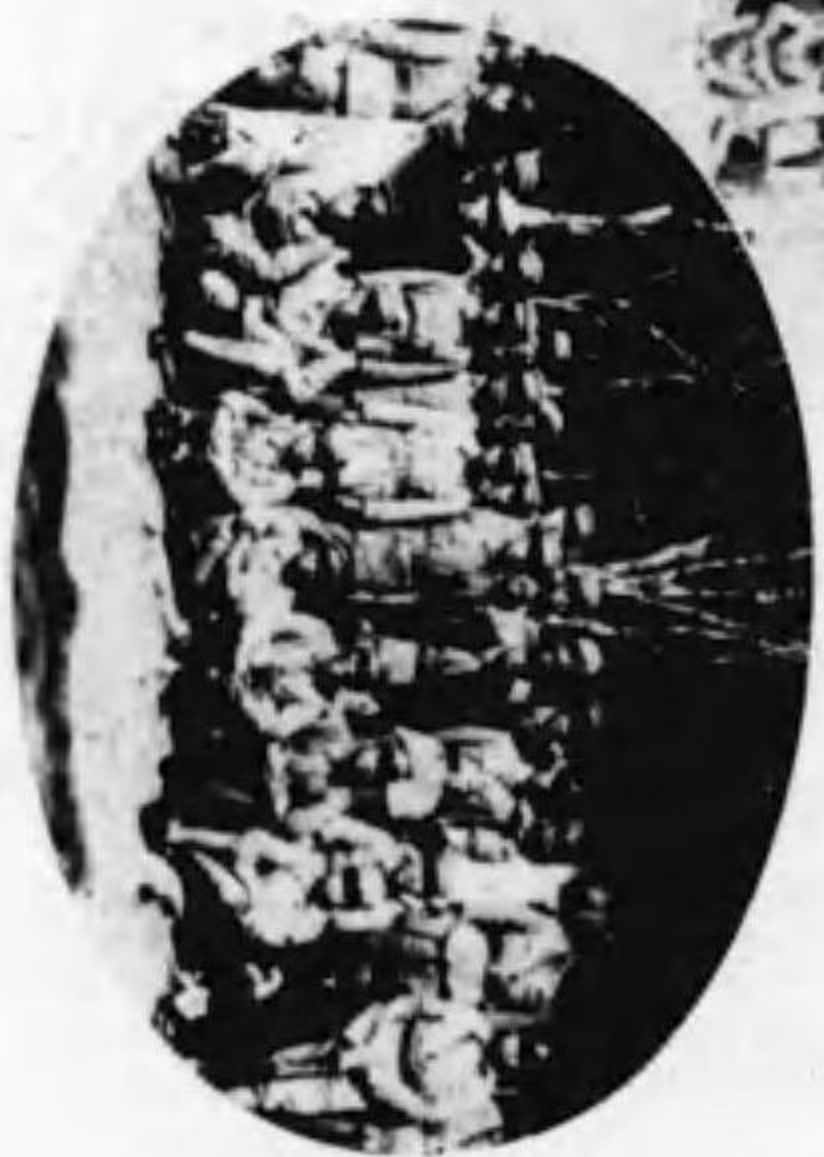
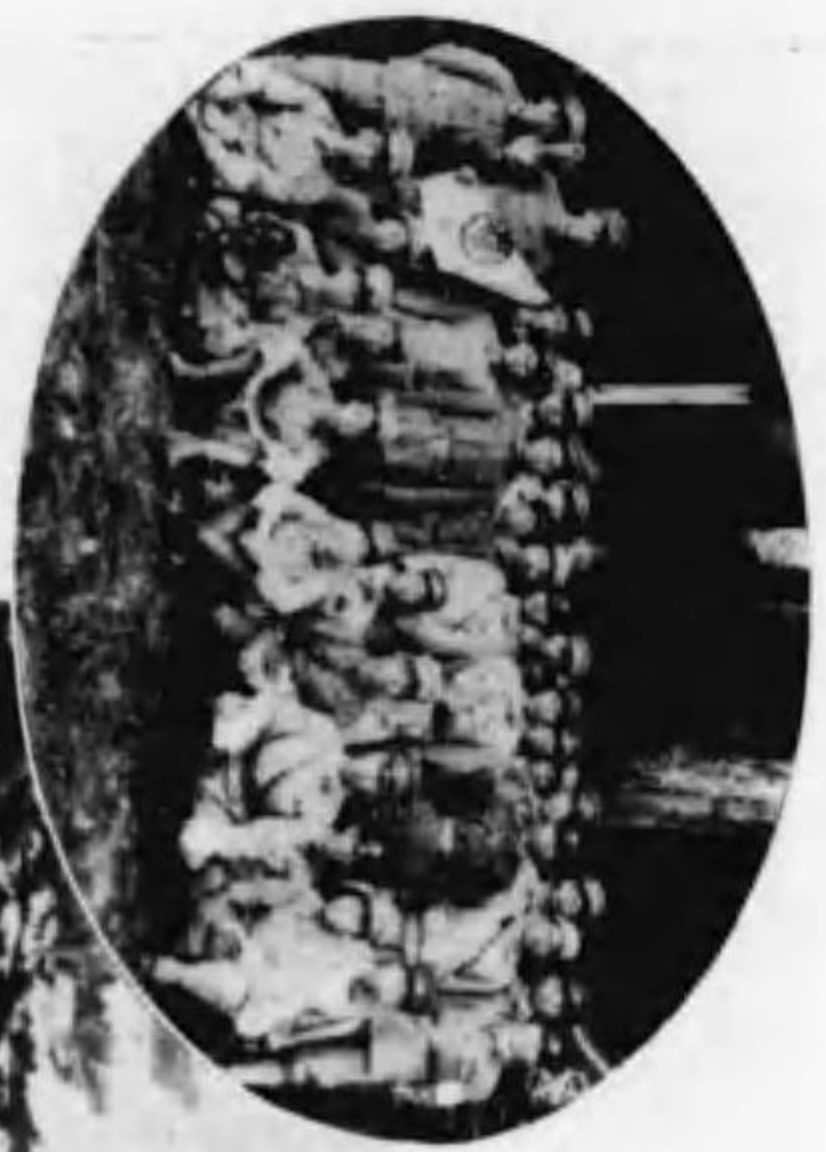


(日九月七年四十和昭) 寺龍天於 會議協に並習講部幹



伊勢參宮各團代表於宇治橋(昭和十六年三月二日)

單位團集錄





團體訓練團 於松原商學校庭々
(昭和十一年八月七日)



拓植講習 於茨城縣內原訓練所
(昭和十四年五月)

序

今や我國內外の諸情勢は益々多事にして、今こそ一億一心、萬民翼贊の誠を以て難局打破に邁進しなければならぬ時であります。特に國運振張の一大原動力たる青年組織の重要性は今更云ふ迄もありません。

今回新たに青少年の高度訓練團體として京都市青少年團の結成發足と共に従來京都市青年團の特殊の存在として健實なる進展を續け來つた我が實業青年團も一切を擧げて發展的解消をなす事と相成り皇紀二千六百年奉祝記念事業として計畫されたる本團小史の出版はことに意義深きものがあります。

我が京都の地は平安奠都以來、御歴代の皇室と因縁淺からざる誇を有し忠誠奉公の念特に深厚なる市民の傳統的精神に立脚し青年の純情と氣魄を以つて育成された大正昭和の二十有餘年間に亘る絢爛たる京都市實業青年團成長發展の跡を顧みて先輩各位の眞摯な努力を偲び感慨胸に迫るものがあります。

本團史の編纂は主として本團幹事たる印刷青年團増田君、文具青年團熊木君、書籍青年團大槻君等の努力に依つて早急の間に上梓されたのでありますが或は資料を提供せられ或は有益なる助言を與へられた各位に對しても共に厚く感謝の意を表する次第であります。

川 端 道 一

實業青年團史の發刊に際して

京都市實業青年團長 川 端 道 一

我が京都市青年團運動の裡に最も古く輝やける歴史を持つ實業青年團こそは生活の據點たる職場に基礎を置き職業を中心として自主的に結集した職業青年自體のもり上る力に依つて生れ、共勵切磋青年相互の自覺から次代の産業人としての修養を積み、職域奉公の精神を以つて一貫せるものである。

大正四年九月十五日の青年團の組織を促す内務文部兩大臣訓令以後大正七年、京都市聯合青年團創立に至る迄の本市青年團運動は全く大商店、會社、工場、組合等の所謂實業青年團のみの活動であり僅かに地域青年團は銅駝、成逸、室町の三學區に限りつてゐた。従つて京都市聯合青年團も又實業青年團に重點を置いて發展擴大されて來たものである。

千差萬別の職業を持つ都市の性格から、殆んど職業を同じくする農村の如く單に地域的組織のみに依つて全青年層を完全に動員する事の不可能であつた事は當然大都市青年團經營に職業別青年團存在の必然性を物語るものであつた。近年大日本青年團も又此の點を取上げ都市青年團を對照とする工商課を設置して職場青年團の組織を考究して居たのである。然るに、我國内外の情勢は急速に全國青少年團體を整理統合して之れを國家機關に移行し強力なる一元的組織の下に新たな大日本青少年團の成立を見る様になつた。大日本青少年團は青年學校と表裏一體の高度訓練團體として地域的に一元化されて、自主的特種青年團體存在の餘地と都市青年組織の特異性を認められなかつた爲に此所に發展的解消の餘儀なきに至つたのであ

る。幸ひ、皇紀二千六百年記念事業として先に本團に於て計畫されたる「京都市實業青年團史」一篇は本團發展の過程を直指す好個の機縁として此所に實業青年團の解散式に當り本市青年團運動史の一資料を永久に残して最後を飾る事となつた次第である。

常に本團に深き御理解を以つて格別なる御援助御協力を賜つた各位には此の機會に深謝の意を表し、新らしき京都市青少年團にも御高庇と御指導を懇願する所である。

私は青年時代より青年團運動に關係を有し京都市聯合青年團參與であつた昭和十三年の冬、實業聯合青年團幹事會の御推舉を蒙り本團團長として迎えられ、素より若輩にして非才其の任に非ずと固辭したのであるが各位の熱誠なる御支援に感激してその重職を汚す事を決意し、比賀江前團長御勇退以來數ヶ月伊吹副團長の團務管掌代行を續けられて居た本團が昭和十四年一月三日、官幣大社稻荷神社の大前に於て私の團長推戴式を舉行され、微力を不顧就任致したのである。以來戦時下青年團運動の重要性を自覺し、團員の協力と關係各位の御指導御庇護に依り青年團本來の使命に邁進すると共に本市産業界に貢獻してその御懇情の萬一に酬ゆるべく魯鈍に鞭打ち努力を續けて参つた心算である。

その間世相は急激に變化して戦時體制の國策に従ひ、平和産業部門中には轉失業問題の必要さへ起り一部の單位團は休止状態となり、他面重工業部門の急激なる膨脹は新設の工場青年團組織を要請する等、多事多難の嵐の裡に立つて今日に到つたが大過なしとは云へ、省みて何等御期待にも副ひ得ず先輩諸彦の偉大なる功績に比し眞に汗顔の至りである。

今京都市實業青年團の終止符を打つに際し、心から御詫と御禮を申上げ、各位の健康にして職域奉公の臣道を實踐されん事を祈念してやまない次第である。

記念團史發刊に當りて

京都市實業青年團顧問 本田喜三郎

我國の青年團は我が日本民族發展の悠久な歴史の中に自然の要求として發生したものでありまして、我が日本民族の行く先が我々青年團の行く先でありまして日本民族が如何にして成立し如何にして發展して行くかといふことが青年團そのものゝ姿であります。而も實業團こそ臣道實踐、職域奉公そのものを青年團として具現したものであります。

いふまでもなく我國の青年團は決して外國の受け賣りではなく萬邦無比の國體を持ち、その中に自然の要求のまゝに生れ出て來たもので日本民族の嵩高な獨創であります。

我が實業團中には既に慶長元年より若中として形成し而も現在盛んに活躍しつゝある木挽町水運青年團を最初として高島屋修徳青年團(明治三十一年)、京都蠶絲商同業組合店員獎勵會青年團(明治四十一年)及び錦之店、新京極等の實業團は京都市聯合青年團設立以前より盛んに發展活動をしてをりました。

今や日本は超非常時に直面してをります、總ての機構は戰時態勢に置かれました。その時我々青年團は此の時局に對して本來の使命に邁進せなければなりません。

考へれば、なつかしき副團長當時、あらゆる苦難の時代とも云へるでせう、實業青年團の過渡期とも云ふべく、多角な試練を重ねました、今こそ、實業青年團の職域理念の大理想は實現されました。眞に喜びに堪へません。益々多幸なる實業青年團の前途を祝福して止みません。

所 感

京都市實業青年團顧問 辻 本 庄 一

私が京都印刷同業組合の副組長在職中印刷青年團の結成と同時に初代の團長に就任以來、市聯竹上副團長比賀江、古川、木田各理事先輩各位の懇切熱誠なる御指導御鞭撻に依り團勢頓に揚り、同八年四月全國に魁け京都實業聯合青年團の結成を見るや、實聯團を以て警備隊の第三大隊を編成せられ、私は其北部中隊長に就任して以來警備隊の任務に従事中、京市青年團獨特の訓練を受けたる所屬隊員たる團員諸君は警察の補助機關として或は交通整理に又は勞力奉仕に活躍して社會的に相當役立つたものである。

殊に昭和八年十月二十二日 天皇陛下が京都へ行幸あらせられた際、御駐轅中は御警衛部隊の補助隊としてステーションホテルに市聯の本部を置き市内各警察署當局指導の下に沿道并に市内要所各方面の警備に任じ大に好果を挙げ得たのである。同十年四月私が實聯副團長に就任して前後七年間微力ながら青年の指導に努めたが其間比賀江團長が常に希望して居られた同業界の子弟の集團である實聯青年團としては各自の従事して居る業務の研究機關を設けて常に技術の向上發達を圖り、小にしては組合毎に團員各自の工作品を出品

して販賣會を開催して漸次發展して市主催の博覽會に實聯青年團の名を以て出品したいと云ふ一念から單位團では其組合毎に各種の會合を利用して展示會をやるとか既製品販賣の業界では時々販賣會に團員工作品として陳列してあるのを見受けたこともある。

然し私の業界は委託工業の如きもので需要家から注文を受けて始めて作業に従事して製作するのであつて他に販賣することが出来ない業務であるが、精密なる印刷物は相當の技術が必要なので組合の總會又は其他の會合を利用して小規模ながらも組合の後援で二、三回競技會を実施して團員各自の技術向上を圖つて業界からも相當の好評を博したが聯合的に行ふが如き大規模なものは未だ實現の域に達せず國家超非常時となり思ひ半にして退任した。

その後間もなく今次事變勃發以來茲に聖戰第五年を迎へ新體制下各種團體の統合に次で大日本青少年團の機構變革に伴ひ指導方針も亦變はることとなり、各青年團も遂に發展的解消を見ることとなりましたが團員諸君は何れも居住學區の青年團に屬して居らるゝのであるから益々複雑となる國際情勢に即應して大東亞共榮圈確立の爲、國家總力戰の忠良なる戰士として臣道實踐、職域奉公に邁進せられんことを切望すると同時に川端團長を始め實聯幹部諸賢并に思ひ出深き固有印刷青年團の増田君を始め各幹部諸君に最大の敬意と深甚なる感謝の意を表し各位の御奮勵を祈る次第である。

記念團史編纂に對しての偶感

京都市實業青年團副團長 伊吹榮二郎

聖戰既に五年に及び、青年の大半は名譽ある帝國軍人として大陸の戰場に於て忠勇義烈、空に、海に、陸に奮戦力闘を續け實に空前の戰果を收めて今や支那本土は勿論のこと、遠く南方の諸地域まで其威力を及ぼすに至りました。然し事變の解決、世界の騷亂は何時止むべしとも思へないのみか、更に一層擴大する氣配さへ窺はれるのであります。此戰時體制下に於て青年の體位體育に關しては一層の關心を要する次第は論を俟たざる事でありませぬ。

我々實業青年團としては團員は殆んど店員級で各日の職能に依り不足する運動に留意して指導者は體位の練成練磨と共に精神の涵養に留意して戴きたいのです。召されては軍人となる其準備の爲には旺盛なる精神氣力ある體力を要求する。軍事教練の實施は最適なるは論を問はざる所であるが、店員級に即應する體育も亦必要であるのです。柔道、劍道、銃劍術、相撲、陸上競技、水上競技、體操等適當なる計畫、教育指導試合は指導者としては自發的欲求をなすべく導かねばならないと思はれます。

武道や競技試合は相當の忍耐力を以て指導するを要し慣習的に次第に興味をいだき且つ亦戰鬥に勝つと云ふ自負心の養成と共に益々熱中し、技術に鍛鍊し遂には自發的欲求の到達となれば最早其域に達するものであり、又或る一面に於て近年青年の大衆娛樂を體育に轉換せしめ體育と娛樂を結實したるスポーツ體育も亦精神修養身心鍛鍊の道場であり、青年に普及發達著しきものがあります。此の體育と娛樂と結實したるスポ

1ツは青年團員の職能に即應する指導目標として容易に實施し得て興味ある體育運動でスポーツ體育を最も獎勵し推奨する次第であります。

スキー、スケート、海水浴、庭球、野球、ハイキング、登山等の如く新體制にふきはしき健全娛樂で終日心より楽しみ愉快に希望に満ちスポーツしておる其れ自體が世上の體育問題と重大なる關係を有し高度國防國家の體育訓練になるのです。苦しみに尙堪へ最後の勝敗を決する其氣力體力を練成するはスポーツ競技に依つてのみ養成せらるゝといつても過言でないと思ひます。近年、急激に普及發達せるものに野球、ハイキング、スキー等あり、休日を待ち早曉より勇躍しグラウンドに微笑ましき野球ゲームに終始する青年や、樂しきグループの下に終日輝く日光の下に新鮮なる清澄無垢な空氣を十二分に吸ひ希望にもゆる山々を征服するハイキングや、吹雪をついて重きリュツクを擔いで雪山を踏破するスキーの如き皆々なんと愉快であり其氣力體力はいかなるものでせう。

元來、體育と云ふ事は健康な體格を得る事のみ目標としてゐない事は周知の事で、體育に依つて立派な健康な身體を造る事は絶対に必要な目標であるが、そのみが唯一の目標でない。それと共に明朗な精神敢爲な氣性、忍耐力に富む精神を涵養し而も器用な巧緻的な耐久力のある。日本人としての身體を作りあげる目標としなければならぬ、且つ亦調和のとれた粘りのある身體は日本人としての理性と徳性とを具備せる人間を造り上げる事が體育の目標であつて、我々はこの身體の調和的發達と身體能力の増進、健全なる精神の涵養の三要素の向上鍛錬に目標をおいて努力しなければなりません。此體育の目標に對しては上述の野球、スキー、ハイキング等のスポーツは極めて好條件を具備するものであり。野球の如き全員が主將の下に服従し獨自のプレーを許さず、全員舉つて責任感念の下に協力し頭腦、視力、腕力、走力を發揮して最高の能力を

以て試合を終始するあたり、何等國防競技と變らない條件をもつてゐます。又、スキーは各自が好むだけ採り得る歩行、登行、忍耐力、耐久力を養はんとすれば無限に得らるゝし巧緻性など凡ゆる運動中最上に位すと言ふも過言ではない。而も此等は速度と平衡とを満足せしむるに充分な興氣を持つてゐる伊吹山や、奥マキノ其崇高なる絶景遠くは日本海、近くは琵琶の湖を眼下に雄大なスロープの征服は青年男女の本懐ではありませんか。

早曉の岡崎運動場の如き皆々誰に起されて來るか待ちに待ち皆樂、娛樂の爲に早起して元氣潑刺と競技して居るので、之れ即ち青年の自發的スポーツ欲求から出發せるものにて總ての體育及スポーツは斯くの如く青年自體から欲求する如く健全に指導する事が指導者の重大なるポイントであります。外部より意思に反して加へられた肉體運動は苦痛と疲勞感のみ多く、體育的效果はむしろ歡喜の感情の下に施行せられたものが最も効果があるのであります。

最後に私自身として二十幾年社會の體育問題に興味を持ちて關係した次第で、スポーツは明朗なり、自分の會社の若い社員もスポーツ精神で訓育し業務に擔當せしめ、スポーツの日常生活化につとめて居ます次第であります。

體育問題も今後盛んに叫ばれると思ひますから、雇主の絶大なる御理解と御熱意ある御後援は若き青年の心身の發育圓滿なる發達に大に關係するものであり、斯くの如く店主や社長の下に青年の意氣や如何でせう。困苦缺乏奮勵努力、誓つて國家有爲の人間となるべく努力するでせう。そして戰時體制下の産業經濟界の若き一人として活躍し以つて共々に共同團結の理念に結びつけられたる實業青年團の使命を、まっとうせられんことをちかつて、記念團史編纂の挨拶にかへる次第であります。

修養部の寸言

修養部長 熊木賢一

皇紀二千六百年の曠古の盛典に遭遇し、聖氣に包まれたこの秋、先輩の威跡を繼承して修養部長を負つたのは丁度二年前、貧馬の重荷で到底縷々として歩めなかつた。残智を絞つて、靜觀すれば過去に於ける愚想も新體制の言辭に、發途するに到つたことは慶賀に堪へません。

それは「奉公の信念と、眞實國民としての價値」であります。國民として各人、益々、愈々、使命を自覺し本分を發揮し宿命を果す爲めに、没我の精神を以つて、各々奉公の理念を忘れず、各種各業、各層各階級、を通じて行動せなければなりません。今までは餘りにも、個人本位であり、強食弱肉の姿であり、外装は整へ嚴然たる状態を爲せ共、阿諛に、追賞に、自己を屈げての心情等、如何に我利の爲めであつたか、……天賦處然の理を忘られんとした時、事變發動となつたのであります。精神的廢退を生ぜんとした時憂國的精神の萌芽となり、これを新體制と叫ばれるのであります。私は國民として、教育勅語、戊申詔書の聖慮を忘れんしたり、實行を怠りたり、只流行の言辭にとらはれたり、したことに就い

て内容の徹底に全心を傾注したのであります。形式的畫一化はやめ、精神を不動の場所に置き、實質的に充實を叫び、外形と虚偽は害ありて益なしと考へたのであります。そして皇國民本來の姿を確認し、我が國體の世界唯一なる唯一を明察したのであり、兵卒の戦場に勇奮する姿に歸れ、唯一を明察し兵卒を追想して皇國民たるの姿を確認し、そこに實業青年團奉公の理念の姿を見い出せると信じたのであります。私は常に

「大君に眞心捧ぐるを忠といふ、親を忘れざるを孝といふ、言約相反せざるを信といふ、應諾不變これを義といふ」
これを指導要素としてまいりました。忠孝信義は人倫の大道であり、これを恪守するなら諸徳自から現はれる、依つてこれを實踐躬行し努力すると共に積小爲大以つて青年團體に仕へ報恩感謝して自己の本命を守り情に偏することなく其の序亂るゝ事なしと確心致して居る所以であります。

拓 げ け ！ 大 陸

拓植部長 大槻庄太郎

今や世界は洋の東西を問はず舊い體制が崩壊し之に代る新しい秩序が樹立されんとして居る轉換期に立つて居る。此の激動の眞只中に我國は東亞共榮圈の建設の大理想の下に聖戰を遂行しつゝあるのである。この東亞共榮圈の建設には軍事的經濟的に重大なる役割を持つ滿洲國の育成に努力し發展を扶けなければならぬのである。

茲に純眞なる青少年が滿洲に渡り大陸の新天地に農業を通じて心身の鍛鍊をなし成長の暁は滿蒙開拓の中堅人物となる事は諸君ら青少年のため有り、大きくは國家のため有り、延いては東洋平和の礎を築くことになるのであつて、これこそ男子の本懐であるのである。

この意味に於いて拓務省は數年前より青少年義勇軍を編成し内地に訓練所を設け（内地訓練所は茨城縣東茨城郡下中妻村内原に加藤完治氏所長の内原訓練所）全國の青年移民採用者は全部此處へ入所し二ヶ月の内地訓練を

經て渡滿するのである、私も昭和十四年五月に五日間、内原訓練所で拓務省滿洲移住協會及大日本青年團主催の拓植講習會に出席致し、義勇軍の諸君と同様の生活致しましたが義勇軍諸君は滿十六歳以上十九歳迄の少年であります。が希望に燃えて熱心に訓練を受け武道を習ひ、農業に従事し、朝は五時半より夜は八時半迄、滿洲大陸を心に描き自分は滿洲建國の主となり以つて國家に御奉公するのであると仕事に勵んで居るのを見て崇高なる其姿に只々頭が下つたのである。

内原訓練所の生活は朝は未明に起きて皇居遙拜、國旗掲揚、教育勅語の奉讀、君が代の合唱、日本體操行ひ學科は滿洲語、日滿の歴史、地理、農業、畜産等、尙ほ武道教練實習を通じて心身の鍛鍊を行ふのである、此様にして二ヶ月の訓練を経て教師附添で渡滿し現地の訓練所に於て約三ヶ月の訓練を受けるのである、そして滿二十歳に

達すると満洲で徴兵検査を受け合格すれば満洲で入營するのである。兵役が終へれば補助金を受け十町歩の耕地と放牧地を若干町歩分譲を受けるのである、かうして三四年もすれば相當の収益を積み妻帯もして立派な經營主

となるのである。どうか大陸雄飛の志ある青年は大日本建設のため一考を乞ふ次第である。

實業青年に告ぐ

騎道隊長 表 宣 太 郎



皇國日本は今や世界の日本として民族的に大使命を帯びて全世界注目の裡に重大な役割を演じつゝある。

しかして皇國興亡を双肩に擔ふ吾人産業青年の責務又重大なりと云はざるべからず、心身の修養練磨、政治、經濟、文化の發揚に務めるは勿論の事、進んで大陸經營に深く留意せねばならない時局に直面した此の秋に當り戰時體制下に於て我が京都市青年團に騎道隊が創設され不肖實業中隊長の重職を汚すに至つた事は其の責務の重大なることを痛感する次第である。

騎道隊乗馬隊乗馬を通じて、いな馬を通じて心身練磨軍事教練をなすことはまことに時宜に適した組織と云はなければならぬ。

實業青年團

單位團長模範章被授與者

昭和九年度	伊吹團長	伊吹榮二郎
同 十年度	丸紅團長	矢守治太郎
同 十一年度	長野團長	長野仙之助
同 十二年度	印刷團長	辻本庄一
同 十三年度	草鞋會團長	山田富三郎
同 十四年度	新京極團長	浦崎松太郎
同 十五年度	木挽町水運團長	笹原茂
同 十六年度	書籍商團長	大槻庄太郎
同 十七年度	加藤伍團長	福田楠士
同 十八年度	草鞋會團長	龜井正吾
同 十九年度	文具團長	石角伊之助
同 二十年度	建具團長	西村新二郎

すなはち大和民族の生存手段と馬の存在價值の見點よりして

左の項目を指摘することが出来ると思ふ、

- 一、國防的意義
 - (イ) 近代戰と馬。 (ロ) 馬は果して活兵器か。
- 二、産業的意義
 - (イ) 勞力不足と畜力利用。 (ロ) 自給肥料と馬。
 - (ハ) 搬送界に於ける馬の現在及將來。
- 三、國民精神振興と馬
 - (イ) 青年鍊成と馬。 (ロ) 日本精神と愛馬精神。
 - (ハ) 國防體育と馬。
- 四、馬事思想
 - (イ) 馬事思想普及の現在と將來。
 - (ロ) 愛馬運動と青年。

等の諸項目を考へるとき高度國防國家建設と馬の役割及吾人青年とは密接なる關係にあり、特に隊員諸兄の決死的訓練を切望する所以である。

事變下軍務御繁忙の折から懇なる御教導下さる軍當局に對し深く感謝の意を表する次第なり。

實業青年團

「優良模範章授賞者」

(次第不同)

本田喜三郎(役員)
 増田芳一(印刷)
 大壽堂太郎(伊吹)
 浦崎松太郎(新京極)
 北村芳五郎(新京極)
 大槻庄太郎(書籍)
 堀田佐一郎(書籍)
 堀場 鋪郎(蠶糸)
 林 萬助(蠶糸)
 熊木 賢一(文具)
 中川 敬三(水運)
 大熊 秀幸(長野)

長野仙之助(長野)
 板倉源次郎(紙商)
 大見文一郎(洋服)
 市瀬 一夫(染料)
 西村新二郎(建具)
 平井 孝藏(株式)
 井上義一郎(草鞋)
 北村 俊藏(草鞋)
 小林 道夫(丸紅)

本章は昭和十一年十月制定、實業
 銀行優良青年に對し授賞、なほ官
 幣大社稻荷神社より副賞(記念品)
 として神鏡を授與されてゐる



優良模範章授賞者

(順序不同)

表彰該當事項

大槻庄太郎
 大熊 秀幸
 熊木 賢一
 増田 芳一
 大壽堂 太郎
 浦崎松太郎
 北村芳五郎
 大槻庄太郎
 堀田佐一郎
 堀場 鋪郎
 林 萬助
 熊木 賢一
 中川 敬三
 大熊 秀幸

右は多年本團役員として團の福機に参畫し其の指導經營に盡瘁せられたる功績洵に顯著なるものあり依て優良模範章を授與。

右は青年團員たるの修養に怠りなく且克く其業に勵み斯業發展に盡す所尠からず、他面常に團務に精勵し銳意其の團の施設經營に力を效して團勢の擴充に努め其の功績顯著なり依て優良模範章を授與。

井上義一郎
 平井 孝藏
 大見文一郎

右は多年、本團役員として常に團務に精勵し銳意本團の施設經營に力を致して團勢の進展に貢獻する所大なるものあり依て功勞表彰のため授與。

浦崎松太郎
 中川 敬三

右は多年團長として經營施設に最善の努力を致し團員の指導統制又宜しきを得、團勢の進展に貢獻する所大なるものあり依てその功勞表彰のため授與。

北村芳五郎
 北村 俊藏
 小林 道夫

右は團員としてその本分を盡し銳意その團の施設經營に力を效し團勢の發揚に努め其の功績見るべきものあり依て優良模範章を授與。

堀場 鋪郎
 堀田 佐一郎
 市瀬 一夫

右は青年團員たるの修養に怠りなく且克く業に勵み團務に精勵、力を經營に致して團勢の擴充に努め其功績顯著なり依て模範章を授與。

西村新二郎

右は多年建具青年團長としてその團の經營施設に最善の努力を效し團員の指導統制宜しきを得、團勢の進展に貢獻する所大なるものあり依て之を表彰し模範章を授與。

京都市青年團の...
模範章授賞者

自昭和八年度至同十四年度

木挽町水運青年團
奥田 善一 (副團長)
小森 丑太郎 (部長)
中川 敬三 (部長)
石村 謙之介 (書記)
平塚 末次郎 (部長)
加納 詮太郎 (同長)
澤田 藤一 (團長)
草鞋會青年團
北村 倭藏 (副團長)
卯瀧 文三郎 (幹事)
古澤 久雄 (幹事)
矢橋 直樹 (幹事)
谷口 喜一 (幹事)

水野 繁雄 (幹事)
同盟一心青年團
木下 榮次郎 (小隊長)
北村 留吉 (幹事)
印刷青年團
渡邊 秀吉 (副團長)
西田 友次郎 (副團長)
増田 芳一 (理事長)
小倉 庄七 (副團長)
關 正和 (副團長)
堀田 佐一郎 (幹事)
一井 玉雄 (幹事)
木下 宗平 (幹事)

若林 正雄 (幹事)
西野 久夫 (幹事)
須藤 傳四郎 (幹事)
清水 弘 (幹事)
建具青年團
山名 松仲 (幹事)
柴田 幸作 (副團長)
吉岡 敬之助 (會計係)
吉田 七之助 (副團長)
下村 德 (分團長)
木村 勝次郎 (分團長)
露絲青年團
富田 健治 (幹事)
堀場 鋪郎 (副團長)

林 萬助 (幹事)
竹内 力 (幹事)
小島 精一 (副團長)
市田 五一 (副團長)
錦之店青年團
稻井 勇造 (副團長)
山本 庄一郎 (幹事)
北村 源三 (副團長)
岩崎 孫一 (副團長)
山本 富三 (副團長)
福田 六郎 (幹事)
文具商青年團
黒川 二郎 (副團長)
原田 音一 (副團長)
松川 信一 (副團長)
松森 良介 (幹事)

伊吹商店青年團
高山 彦二郎 (幹事)
大壽 堂太郎 (幹事)
市田 青年團
日置 四郎 (幹事)
今井 正彦 (指導員)
染料青年團
吉岡 徳藏 (理事)
田中 重太郎
坂口 萬佐夫 (小隊長)
高橋 幸治 (理事)
市瀬 一夫 (理事)
高島屋修徳青年團
塩見 實三 (幹事)
加藤 伸治郎
中川 敏造 (團員)

疊商青年團
奥村 誠一 (副團長)
田中 幸太郎 (副團長)
菓業青年團
河野 金四郎
杉浦 又市 (理事長)
新京極青年團
河原 理市 (副團長)
松井 文二 (副團長)
加藤伍商店青年團
榎友 逸 (幹事)
株式青年團
吉田 菊雄 (理事)
長野青年團
大熊 秀幸 (本部長)

(註) 氏名下()内ハ表彰當時ニ於ケル其ノ團トノ關係役職ヲ表示セルモノナリ。

(實) (業) (青) (年) (團) (前) (史) ●●●

物質文明の發達と共に自由個人主義的な歐米思想の影響を受けて、一時重大な危機に直面せるかに見へた、日本精神文化も、支那事變と共に奮然として本來の面目に復歸しつゝある事は偉大なる我が大和民族の誇を痛感する處であります。然し乍ら長年月に互つて培れたる自由個人主義の影響を受けて來た感、舊思想的存在を認めざるを得ません。現代の青年、殊に我々商業青年は個人主義的物質文明の爛熟期に成長し、物質的にも精神的にも常に「過去の經驗と実績」と云ふ壓制的倫理に依つて敗壞的な氣分を持つて來ました。

けれども、昨日の日本は今日の日ではありません。殊に現代の新體制の過渡期にあつては、あらゆる部門に於て青年は常に一步前進して指導して行く強き信念を保持して行かねばなりません。然して共存共榮の商道確立する爲め、商業青年を打つて一丸とした團體運動を展

開しなければなりません。これこそ實業青年團本來の正しき使命を社會大業に認識させたいと念願してやみません。

たまく二六百年記念の團史編纂となり、京都市實業青年團が昭和八年十月十五日より京都市實業聯合青年團として、規約改訂實施せられる以前の事業を、本團顧問本田喜三郎氏の記録をこゝに記載する事に致しました。何分長年の事業經過を記する故、多少の誤りはあるかと存じます。又講演、年中行事、送迎會、研究會、講習會等は一切削除されてあります。

以下その概況を記して今日に至る經過を見ること、致します。
(修養部 熊木)

實業青年團結に至るまでの經過

〔大正七年 昭和八年〕

大正七年度

十二月六日 市會議事堂に於て今回新たに本市小學校創立五十年記念事業として設立を見たる各學區及び商店、會社、工場組合其他既設の實業團等百三十二の各青年團代表者參集、鷺野助役登壇し聯合青年團設立の要を説き規約草案を附議し満場一致可決。

大正八年度

四月十五日 午前八時平安神宮に於て雨中發團式舉行。
同 十六日 午前九時岡崎運動場に於て市聯合團創立第一回運動會開催、快晴、全競技回数六十四回極めて秩序整然、敏活に進行午後四時終了。優勝競走に於て染料商青年會原田武一郎君優勝し京都實業組合聯合會寄贈の優勝旗を受く。
六月十五日 午前七時桃山參院參加團四十有餘總數八百餘名、豐國神社前耳塚附近

に集合長蛇の如く縦隊を成して伏見街道を南下し途中桓武帝陵を拜し桃山兩院參拜す此時、比賀江前團長大聲を張り上げて演説さる。

大正九年度

十一月一日 午後七時、御苑内に於て明治神宮鎮座祭執行記念提灯行列開催、建禮門前にて天皇陛下の萬歳三唱順次始御門を出で鳥丸通を四條通を東へ圓山公園に至りて解散。參加約二千中に種々の地車を曳出す者ありて頗る盛況なりき。
同 二十日より三十日まで十日間 明治神宮鎮座祭代參として京都市より我が本團副團長參列の光榮に浴す。其期間中青年團として特筆大書すべきは、二十二日東宮殿下に於せられては高輪御殿に於て我等青年に拜謁を差し許され優渥なる令旨を賜はりました事と、全國代表として實業青年團副團長本田喜三郎氏が奉答の

光榮に浴した事であります。

十二月十一日 午後一時市議事堂にて本田副團長令旨傳達、明治神宮鎮座祭代表狀況報告を爲す。
大正十年度

二月二十四日 午後七時 皇太子殿下御入洛歡迎、今般の御渡、歐の一路平安を祈る爲、二條離宮正門前に集合、提灯行列開催さる雨天を冒し參會する者約一千名、錦之店青年會より普樂隊出演君ヶ代吹奏に始まり、殿下萬歳三唱、この時城門前に御名代御附武官陸軍騎兵大佐伯爵壬生基義氏の令旨傳達あり、終つて順次御城の外周を一巡して青年の熱誠を披露す。本團として實に光榮なり。
大正十年度

七月十八日 午後七時、岡崎市公會堂に於て講演會前市副團長鷺野氏より歐米の社會事業と題し講演さる。錦之店青年會樂手團出演來聴者二千餘名。
九月十一日 午後四時四十分 皇太子殿下奉迎同夜提灯行列參加す。
同 十三日 市主催 皇太子殿下御歸朝奉祝會一團より二十名宛。
大正十一年度

四月二十七日 午前九時三十分、英國皇太子殿下御入洛に付奉迎、當夜提灯行列。
大正十二年一月十七日 京都商業會議所に於て本市青年團幹部會開催さる。當時學區六聯合と實業團とに分類せられたり。

大正十二年度

九月一日 關東地方大震災に付慰問並に救急品發送し、大いに青年團の名聲をあげたる。

大正十三年一月二十六日 東宮殿下御成婚に付各加盟團長は市長の案内により市の奉祝會に參列。

二月二十五日より二十八日まで 東宮同妃殿下御同列にて御入洛被遊各團代表者奉送迎なす。

大正十三年度

五月十九日 東宮殿下御成婚奉祝の爲め植物園運動場に於て陸上競技大會を開催參加す。十哩短縮マラソン(薪炭)東堂弘二君一着(五十四分五十九秒)、八百米リレ一優勝、染料青年團(二分四十三秒五分ノ二)。

九月一日 關東地方大震災を追懐すると共に災害防止の大宣傳をなし、市民の注意を喚起せんがため平安神宮へ參集祈願の

後市内目抜の場所を宣傳行列を舉行參加す。本行事は今後毎年本日行ふことなれり。

十月三十日 大日本聯合青年團創立さる。

十一月二十八日 午後四時二十分 國母陛下御入洛に付き御奉迎申上ぐ。

十二月十日 午前八時 國母陛下御歸東につき御奉送申上ぐ。

大正十四年度

四月十五日 引續き三日間名古屋市に於て大日本聯合青年團發團式並に第一回大會舉行さる。

大正十五年度(昭和元年度)

十月二日 平安神宮に於て本府聯合青年團旗入魂式舉行せられ引續き公會堂に於て大會開催さる。

同 三十一日 各青年團員より一錢宛の獻金を以つて本市聯合團旗調製決定。

十二月一日 平安神宮に於て市聯合團旗入魂並に樹立式を舉行せり。

同 二十五日 大正天皇崩御あらせられたるを以て、二十六日各加盟團長錦林小學校に參集、天機奉伺の決議をなし引續き市公會堂に於ける本市の哀悼式に參列せり。

昭和二年二月六日 大葬儀行はせられたるを以て團長は御所内に於ける本市の遙拜式に參列せり。

三月七日 奥丹地方の大震災ありたる爲め救恤金の募集をなし九日より四日間、比賀江前團長團員十五名を率ひ罹災地の救授に従事す。

同 十三日 より四日間百名の團員峰山地方へ救援に従事す。

同 十六日 更らに百名、四日間主として岩瀧町の復舊工事に従事す。

同 十七日 三日間市團より慰問品として自轉車百十六輛を罹災地各青年團に贈る事となり之が配給に従事せり。

昭和二年度

四月十三日 平安神宮に於て奥丹地方震災救援従事の青年團員及義捐金釀出青年團に對し感謝狀授與式を舉行さる。

十月十二日 本市團創立十周年記念のため十二班の各青年團中より代表團員各一名宛を選ばれ滿鮮視察をさる。

十二月六日 本市青年團十周年記念式舉行さる。

昭和三年二月十一日 建國の意義を徹底せしむる爲め團員を集め建禮門前に於て紀

元節遙拜式を挙げ終了後圓山公園市音楽堂に於て土岐市聯團長推戴式に參加す。

昭和三年度

六月十日 時の記念日に相當するを以て本市團加盟各團は正午より市内各要所に於て一般通行人に對し時間觀念鼓吹の爲め宣傳ビラを配布せり。

九月六日 本市團禮式規定を制定さる。

同 二十三日 植物園に於ける御大典奉祝陸上競技大會を開催さる。

十月一日 岡崎武德殿に於て大禮奉祝柔劍道大會に參加す。

十一月三日 平安神宮に於て本市團警備隊編成式並に除旗入魂及授與式に參加す。

同 十七日—十九日三日間 御大典奉祝大日本聯合青年團第四回大會を大日本聯合青年團主催の下に本市に於て開催さる。

昭和四年二月十一日 御苑内建禮門前に於て紀元節遙拜式市團長査閱式並に大禮奉仕感謝狀授與式を舉行さる。

昭和四年度

六月五日 大阪市に於ける御親閱式に參加

同 二十七日 國家總動員實施に就き出動參加。

十一月十日 警備隊檢閲及御即位記念日奉

祝式參加。

昭和五年度

八月七日—十二日 團體訓練實施。

同 十三日 岡崎公園運動場に於て團體訓練終了式舉行參加第十六師團長閣下始め來賓多數の臨場あり。

十一月十三日 天皇陛下大演習行幸に付午前十一時五十八分京都驛に於て各團代表奉迎送をなす。

同 二十二日 午前九時より平安神宮に於て令旨奉戴十周年記念祝典を舉行し令旨巻軸を各團授與さる。

昭和六年度

八月九日 午前九時、岡崎平安神宮に於て團體訓練終了式並に新市域青年團加盟結團式を舉行さる。

昭和七年度

五月九日—十日 兩日に互り六大都市青年團役員會を本市にて開催さる。

同 二十五日—二十八日 出征軍人遺家族の援助實施を開始さる、其方法は各家庭の狀況により慰問金を贈呈するもの、勞力奉仕するもの等に區分し實施せり。

本件は將來十月迄本市從軍者凱旋迄繼續實施さる。

七月十六日 市立第一商業學校に於て武道大會を開催さる、劍道に於て鐘紡青年團優勝。

九月十八日 平安神宮に於て滿洲事變勃發一周年記念青年大會を舉行さる、右終了後非常警備演習あり。

十一月十六日 大阪城東練兵場に於て聖上陛下の御親閱を賜ふ。本團より竹上名譽團長大隊長となり比賀江前團長は旗手本田顧問及び伊吹副團長は中隊長として參加青年團員三百名、此の盛儀に參加するの光榮に浴せり。

昭和八年二月十一日 御苑内建禮門前に於て本市團長推舉式並に紀元節式典舉行さる。終了後國際聯盟に對し國民の決心を喚起する目的を以て市街大行進を爲す。

昭和八年度以降

京都市聯合青年團規約が改訂され昭和八年十一月二十五日より實施さる、事となり之れに依り茲に京都市實業聯合青年團は三十二團の結成を見る事となり、昭和八年十月下加茂神社に於て發團式を舉行されしは諸君の記憶に新たなることであります。自後團則改訂ありて現團長川端道一氏を迎へて今日の盛運に到達したのであります。

京都市實業青年團概況

従来の市單位にて組織されてきた京都市聯合青年團は今般新たに各警察署管内及實業團をもつて單位とする聯合團を組織することとなり。

昭和八年度

一 實業聯合青年團陣容

- 名譽團長 竹上藤次郎
- 團長 比賀江金藏
- 副團長 古川市太郎
- 同 本田喜三郎
- 同 樹田國太郎
- ★ 警備隊長 辻本庄一
- 北部中隊長 松村米次郎
- 南部中隊長 松村米次郎
- 三月二十六日 警備中隊長會議開催
- 各小隊の編成完了す。
- 七月八日 京都市實業聯合青年團正式に結團す。
- 八月十五日 湖畔に天幕生活實施
- 参加者三百有餘名の大編成をもつて三條大橋を出發、琵琶湖畔近江舞子濱天幕地

に到り一泊、翌十六日薄暮歸洛した。

九月十日 陸上競技大會開催

於 植物園グラウンド

九月十四日 實業第一回團體訓練實施

十四日二十一日迄、淳風小學校に於て行ふ。

教官 秋吉、今川兩指導員

十月七日 警備隊長會

新京極「三京」に於て開催、御警備補助員配置の件につき協議。

十月十五日 團旗入魂並結團式舉行

四月に規約改正に伴ひ新しく結成の實業青年團の團旗入魂式は下鴨神社に、結團式は昭和會館に於て舉行した。各團の代表者五百有餘名を得て盛大なる發足をなした。

十月二十一日 御警備隊行演習實施

全補助員の召集を行ひ、當日其のまゝの演習をなし、萬全を期するところがあつた。

十二月二十九日 皇太子殿下御命名奉祝提

檢行列參加。

昭和九年

三月四日 實業青年大會開催

比叡山延曆寺宿院で開かれ、「青年の眞理」と「傳教大師と比叡山」の講演を開いた。

昭和九年度

六月一日 聖恩旗拜禮

國民精神作興旗拜禮の式を市公會堂に於て舉行。

八月十五日 萬蒲濱キャンプ生活實施

参加者二百三十四名、湖東萬蒲濱に設置訓練をなした。

昭和十年度

四月四日 市聯合青年團代議員會開催せらるる本團より出席者比賀江團長外四幹事。

同 十八日 京染吳服悉皆青年團長變更の届出あり、新團長 船橋庄七氏

同 廿二日 大日本聯合青年團神戸大會、本團代表大槻庄太郎出席。

同 二十四日 紋様青年團より加盟休團の届出あり。

同 二十六日 臺灣青年來京し、「八百政」に於て歓迎會、本團より三幹事出席す。

午後七時より三團聯合事業打合懇談會開催さる、本團より出席者辻本團長外四幹事。

打合事項

陸上競技、武道、角力、水泳講習會。

五月十二日 本團役員會、京紙俱樂部に於て開催す、出席者比賀江團長外八幹事。

開會に際して辻本團長より過般三團打合會協議結果の報告ありて後左の事項を議す。

見學、講習會、座談會、野球豫選、事業送行に當りて左の通り部長を設く。

修養部長 大槻庄太郎

訓練部長 大熊秀幸

體育部長 大見文一郎

各委員長は各單位團長若くば代理者を以て八名宛囑託す。

五月十六日 本團副團長古川市太郎氏、市聯合青年團理事並に警備第三大隊長に囑託せらる。

信友會青年團より加盟休團の届出ありたり。

同 十九日 市聯合青年團懇談會開催

本團より出席者西村幹事外四ヶ單位團員懇談會幹事として蠶糸青年團小林賢治氏

當選す。

同 二十二日 三團聯合事業打合懇談會開催、當日出席者 樹田副團長外五幹事。

堀川、中立實聯合より幹部並に兩主事參會。

同 二十五日 雑誌『青年』購讀普及の爲め大日本聯合より熊谷主事並に幹事來京せられ懇談あり、山口主事補參會す。

同 二十八日 市聯合各委員長會開催さる本團より出席者 比賀江團長並に大見幹事。

同 三十日 市聯合團修養部委員會開催さる井上幹事出席。

六月八日 午後早々、河原町「東洋亭」樓上に於て單位團長會議、警備中隊長選舉各委員長打合懇談會を開催す。

警備中隊長 北部 大熊秀幸

同 南部 今西政造

同 十六日 本團野球大會開催 第一高等小學校々庭

出場チーム左の通り

菓業青年團 草鞋會青年團

鐘紡京都青年團 染料青年團

株式青年團(優勝)

同 二十日 市聯合青年團辯論大會開催

本團代表者 印刷青年團田中正夫君。

同 二十一日 三團聯合水泳講習會開催期間二十五日迄。

同 二十二日 本團長比賀江氏が滿蒲本部隊將士慰問使として渡滿せらる。

同日 午後七時より三團聯合主催一夜講習會開催す。

講師 師 第一高等小學校長 折井守次殿

講聽人員 百三十名

同 三十日 午後六時より二十九日大洪水の爲め被害蒙れる方面に向て警備大隊は河原町京紙俱樂部に本部を設置し、各中隊長小隊長團員を召集し警戒に任す。

八月六日 乾小學校に於て三團陸上競技會武道、角力、實施方法打合會開催。

同 十日 京都市長より水害救援作業出動單位團へ感謝狀を受く(聯合團も受く)。

伊吹青年團、株式青年團、建具青年團、錦青年團、印刷青年團。

同 十二日 疊青年團長變更の届出あり、新團長 田殿善造氏。

同 十六日 佐野前主事より申請延引となりたる模範章授與申請を了したり。計十二名。

同 十九日 龍池小學校に於て陸上競技番

組編成に付て打合會を開催。

同 二十二日 午後七時より三團聯合第二

回講習會開催す。

場所 乾小學校講堂

講師 宇野少將閣下

同 二十五日 岡崎グラウンドに於て三團

聯合陸上競技大會を開催す、優勝團鐘紡

京都青年團。

同 二十六日 午後七時より團體訓練實施

に關して委員會開催、當日出席者 古川

副團長外五幹事。

九月一日 武道大會並に角力競技會開催

場所 北野武德殿 龍谷大學土俵

優勝團 武道 菓業青年團

同 角力 一心青年團

九月八日 午後三時より三京食堂別室に於

て幹事會並に各部委員會開催。

同日 午後六時より本團第三回團體訓練

を實施

比賀江團長外各幹事出席指導に當り、受

訓練者百四十名。

場所 松原大宮西人 商務學校々庭

教官 伊吹青年學校 森 少尉殿

同日 團體訓練終了證書及記章授與式

舉行し記念撮影をしたり。

證書授與者 百三十一名。

同 十五日 市聯合青年團主催陸上競技會

本團選手出場す。

同 二十三日 本團副團長古川市太郎氏祖

母美代殿永眠せられ、午後二時より告別

式を施行せらる。

同 二十四日 市聯合青年團主催武道並に

角力競技會開催せらる、本團選手出場。

同 二十八日 府聯合青年大會

参加者

蠶糸青年團 堀 場 飾 郎

建具青年團 西村新二郎

十月六日 府聯合青年團主催、陸上競技會

並に武道、角力競技會開催せらる、本團

より選手出場す。

同 十四日 午後四時より明十五日午前中

の期間、市聯合青年團幹部一夜講習會開

催せらる、

本團より建具、蠶糸、印刷、水運の幹部

受講せらる。

同 二十三日 市聯合模範章篤行者表彰審

査員として本團より樹田副團長詮衡委員

に申告す。

同 二十六日 午後六時より幹事會を開催

出席者 樹田副團長外五幹事。

同 十一月六日 修養部委員會開催

出席者 辻本副團長外三委員。

同 七日 市聯合懇談會幹事として染料青

年團坂口萬佐夫氏を推選したり。

同 十日 警備隊陸兵式午前七時三十分よ

り舉行せらる。本團より出場團

染料、蠶糸、長野、印刷、菓業、一心

伊吹の七團。

古川三大隊長病氣に付今西中隊長代理せ

らる。

同 十五日 植物園内昭和會館に於て建具

青年團十周年記念大會を開催せらる、本

團より比賀江團長、井上、大見兩幹事出

席せらる。

同 十六日 午後七時より昭和圖書館に於

て修養部委員會開催す、出席者 古川副

團長外五幹事。

同 二十二日 柳池小學校講堂に於て本團

雄辯大會並に懇談會開催す。

出席者 丸紅青二名、伊吹青一名。

同日 市聯合青年團主催令旨奉戴十五周

年記念並に青年大會篤行者及模範章授與

式舉行せられ本團授章者、菓業青年團員

河野金四郎氏外九名。

昭和十一年

一月三日 本團役員並に單位團長新年祝賀

會を開催、出席者 比賀江團長外十六團長。

打合事項

伊勢參宮、製作品展覽會出品の件。

同 十日 製作品展覽會出品委員會を開催

出席者 樹田副團長外六幹事。

同 十六日 本團主催伊勢參宮を舉行す。

天氣晴朗にして寒氣強し、午前六時三十

分京都驛廣場集合、編成四ヶ小隊。

同 二十六日 猪狩豫備交渉の爲め大見體

育部長、山口主事鞍馬二ノ瀬村へ出張。

二月二日 本團主催猪狩鞍馬二ノ瀬村にて

舉行す。参加者百三十餘名、團員意氣壯

なりき。

同 十一日 市聯合青年團主催紀元節奉祝

式舉行さる。

本團参加者十一單位團、總人員三百七十

餘名。

同 十四日 府聯合青年團主催製作品出品

展覽會開催せらる、本團より出品刺繡青

年團外五團とす。

三月七日 製作品展覽會出品團並に其團員

に賞狀授與式を舉行し終て幹事會開催。

事務所變更 丸太町板倉幹事宅に設置。

同 二十二日 市聯合主催團長總會開催さ

る。本團より出席者 比賀江團長外七幹

事。

同 二十七日 三團聯合事業打合會開催

出席者 比賀江團長外三幹事。

聯合協定事業左の通り

陸上競技、武道、角力競技、講演會、

辯論大會、團長研究會。

昭和十一年度

四月一日 副團長古川市太郎氏祖父吉兵衛

氏永眠せらる、依て本團より弔花を贈る

告別式は四日午後二時、各團長參列。

同 六日 市聯合青年團代議員會開催、比

賀江團長外幹部、代議員出席。

同日 文具青年團事務所出

中立賣新町 熊木賢一方

同日 浴場青年團長變更屆

新團長 二木 俊 雄

同 十二日 電業會館に於て幹事會開催す。

比賀江團長、樹田、辻本副團長、板倉幹

事長、小笹、堀場、西村、井上、増田、

今西、大見七幹事。

當日打合事項左の通り

野球大會、實彈射擊、團體訓練の實施

其他。

同 二十二日 單位團長會議を開催す。當

日出席者左の如し

染料團長、刺繡團長、蠶糸團長、一心

團長、建具團長、伊吹團長、文具團長

印刷團長、水運團長、草鞋團長。

協議事項 十一年度豫算及豫定案。

五月十日 松原商務學校々庭にて野球豫選

會開催す、染料青年團優勝。

同 十六日 小川小學校に於て三團聯合協

議會開催。當日打合事項左の通り

三團聯合辯論大會、團長研究會の件。

同 十八日 團長及團員模範章授與申告を

なす。伊吹團長以下十四名。

同 二十三日 市聯合團長總會開催せら

れ、本團より出席者左の通り

比賀江團長、染料團長、洋服團長、草

鞋團長、蠶糸團長、水運團長、書籍團

長、印刷團長、伊吹團長。

六月二日 幹事會開催、出席者

比賀江團長、辻本副團長、板倉幹事長、

小笹、大笹、西村、大見、大槻、今西七

氏。

當日打合事項

團體訓練、團報發行、辯論大會の件。
同日 兒玉本部隊凱旋歓迎に付左の通り出陣ありたり。

水運、加藤伍、伊吹、染料、蠶糸、浴場、建具、印刷。
同日 三團聯合團長研究會開催

同日 本團より出席者 比賀江團長外七名
研究事項 團勢發揚に就て

同日 三團聯合辯論大會開催に當り
本團より出席辯士左の通り

同日 丸紅青年團 井上、和田、武内三君。
伊吹青年團 小倉、馬場二君。

同日 六大都市加盟記念大會へ出席
者左の通り

同日 比賀江團長、坂口万佐夫
同日 二十三 城巽小學校に於て三團聯合
辯論大會實施す。當日出席者

同日 丸紅 井上光三君、同 和田五郎君
何れも優勝、二等、三等を得たり。

同日 七月二日 市聯合幹部講習會開催さる、本
團より受講者三十餘名。

同日 十五日 市聯合青年團長推戴式舉行さ
る。本團より出席者比賀江團長、古川、

同日 辻本兩副團長、本田參與、伊吹、水運、
印刷、建具、蠶糸、刺繡各代表者。

同日 本團參加團數一〇。
同日 十七日 幹事會開催す、打合事項左の
通り

同日 一、射擊實施に關して 一、休團の處
分 一、役員辭任表彰の件

同日 二十一日 休團中の單位團へ對し正式
退團届を請求す。

同日 二十七日 市聯合主催青年修養館建設
資金募集映畫會の收支決算報告あり、本
團として觀賞券扱高は二千九百九十二枚。

同日 十一月一日 京都國民射擊場に於て本團主
催實彈射擊を開催す、參加團十一團。

同日 優勝團 一等 吉田忠青年團
役員競技 一等 板倉 幹事長

同日 十七日 京都葉業青年團主催にて全國
葉業聯盟大會開催され、本團より比賀江
團長、山口主事列席す。

同日 二十二日 京都市聯合青年團大會二條
高等女學校に於て開催、二條城前廣場に
於て分列式舉行、當日團長以下團員模範
章受賞者十四名。

同日 模範章表彰者
伊吹青年團長 伊吹榮二郎
丸紅青年團長 矢守治太郎

同日 二十一日 幹事會開催す。打合事項
幹部研究會、キャンプ、團體訓練其他
「キャンプ」實行委員として大槻、大見、
小笹三氏。

同日 二十八日 午前七時發にて「キャンプ」
地及農事産業狀態視察及設備の爲に大槻
委員、山口主事滋賀縣雄松へ出張す。

同日 八月二日 松原商務學校々庭に於て團體訓
練を實施す、受訓人員百三十餘名。

同日 教官 第二中學校教官 秋吉公鎮殿
補助官 伊吹青年學校 森 信一殿
小隊長 小笹、西村、坂口三氏。

同日 六月二日 二日より實施の團體訓練本日を
以て無事終了す。受訓者には終了證書を
授與す。

同日 十三日 本團臨時團長總會を開催す。
協議事項 市聯合青年修養館建設資金
調達映畫觀賞會開催の件。

同日 當日出席團左の通り
伊吹、草鞋、蠶、蠶糸、染料、書籍、
建具、浴場、水運、印刷、比賀江團長

同日 辻本副團長、板倉幹事長、小笹幹事。
同日 十五日 午前七時、農事産業視察及宿
泊天幕行軍の爲め三條京津終點に集合、
出發、參加者百〇五名。

同日 印刷青年團長 辻本庄一
草鞋青年團長 山田富三郎

同日 蠶糸青年團 堀場 鋪 郎
葉業青年團 松浦 又 市
印刷青年團 増田 芳 一
水運青年團 中川 敬 三
錦 青年團 北村 源 三
染料青年團 坂口 万 佐 夫
建具青年團 柴田 幸 作
書籍青年團 木下 宗 平
市田青年團 日置 四 郎
草鞋青年團 古澤 久 男

同日 十二月一日 市聯合青年團主催辯論大會、
伏見第三小學校に於て開催、本團より出
場辯士丸紅青年團和田五郎君、伊吹青年
團馬場茂三郎君。

同日 昭和十二年
一月三日 市聯合主催桃山御陵參拜、本團
より約二百名參加す。

同日 二十七日 幹事會開催、出席者比賀江團
長、古川、樹田、辻本各副團長、板倉、
大見、西村、堀場、大槻、井上各幹事。

同日 打合事項 榎原神宮參拜の件、産業講
習講演會開催の件、終て新年懇親會開
催す。

同日 十六日 宿泊行軍終了し午後六時歸着
す。

同日 二十三日 三團聯合陸上競技大會（第
四回）岡崎運動場に於て實施す。

同日 團體優勝 鐘紡青年團京都工場
引受に關し臨時幹事會開催。

同日 九月一日 三團聯合武道大會を北野武德殿
に於て實施す。

同日 優勝團 鐘紡青年團京都工場
同日 三日 市聯合陸上競技大會出場選手會
を開催す。

同日 同日 去る二日より大日本聯合青年團主
催の公民教育協議會に本團より出席者左
の通り
葉業、一心、紙商、刺繡、草鞋各團長
其他幹部。

同日 十三日 京大農學部運動場に於て市聯
合青年團主催陸上競技會開催せらる。本
團より出場選手三十有五名。

同日 同 二十五日 市聯合主催武角力大會開
催せらる。本團より出場選手鐘京寄木君
一瀬君、葉業松木君、河木君。

同日 十月七日 府聯合主催招魂祭舉行せらる。

同日 二月十一日 紀元節祝典參加
參加團 蠶糸、長野、木挽水運、書籍、
建具、印刷の各團員幹部。

同日 同 二十二日 市聯合團長總會開催せら
る。本團出席者 蠶糸、書籍、印刷、建
具、伊吹、文具各團長。

同日 二月二十二日 全國青年雄辯大會出場權獲
得豫選會選手として本團より丸紅青年團
井上光三君申告す。

同日 三月一日 前記豫選會に於て井上光三君優
勝し之にて全國青年雄辯大會京都市聯選
手として東上。

同日 三月八日 幹事會並に團長會開催す。
打合事項 豫定の産業講演會は講師の
都合に依り軍事講演會に變更の件、
十二年度役員改選の結果左の通り

同日 團長 比賀江 金藏
副團長 本田喜三郎

同日 同 樹田國太郎
同 伊吹榮二郎

同日 幹事 長 板倉源次郎
幹事會計 今西政造

同日 幹事 修養部長 大槻庄太郎
同 體育部長 堀場 鋪 郎

同日 同 訓練部長 西村新二郎

同日 同

同日 同

同日 同

同日 同

同日 同

同日 同

同日 同

同 修養委員 井上義一郎
 同 熊木賢一
 同 大熊秀幸
 幹事 體育委員 大見文一郎
 同 坂口万佐夫
 同 浦崎松太郎
 同 増田芳一
 同 森信一
 訓練部委員は體育部委員と兼任とす。
 同 顧問 古川市太郎
 同 辻本庄一
 を推薦し外參與七名を囑託に決定す。
 三月二十三日 本團主催軍事講演會並に花柳病豫防映畫大會を開催す。
 講師 第十六師團派遣 陸軍歩兵中佐 松田元治 殿
 花柳病映畫 市役所保健部提供
 聽講團員約二百名、趣旨の徹底に努めたり。

昭和十二年度

四月十日 全國青年辯論大會市聯合青年團選手として丸紅青年團員井上光三君出場し第七等に入賞。
 同 十四日 幹事會開催し昭和十一年度決算並に昭和十二年度豫算及事業豫定案の協議、終て警備中隊長詮衡左の通り決す
 北部中隊長 西村新一郎
 南部中隊長 森信一
 同 二十二日 團長總集會開催す、左の通り事項承認。
 昭和十一年度決算及十二年度豫算並に事業豫定案の件
 警備中隊長詮衡承認の件
 同 二十五日 青年團海軍生活講習會參加者錦青年團長岡本榮次。
 五月一日 浴場青年團長届出
 新團長 森澤寅吉
 同 五日 十一年度團長及團員模範章候補者申告。
 同 十日 野球豫選會に就て體育部委員會開催す。
 同 十五日 市聯合青年團各部委員の申告をす。
 同 十六日 松原商務學校々庭に於て野球豫選會を実施す。
 六月三日 滋野小學校に於て三團々長(中立賣、堀川、實業)研究會開催。
 同 五日 煎豆青年團長變更
 新團長 永井興三

同 八日 皇太后陛下京都行幸に付奉迎。
 同 十八日 市聯合青年團加盟各聯合青年團の行政區制度改正に關し本團臨時團長總會を開催す。
 同 二十一日 第七朱雀校講堂に於て三團聯合辯論大會開催。
 同 二十六日 幹事會開催 一、武道角力大會實施の件 一、水泳講習實施の件 一、團體訓練實施の件 一、五周年記念大會開催の件 一、團員表彰の件 一、團報發行の件。
 七月三日 本日より向ふ三日間、市聯合青年團主催幹部講習會實施に付本團員參加す、四十餘名。
 同 七日 市聯合青年團主催野球大會實施 業業青年團チーム出場。
 同 十二日 訓練部委員會開催。本年度團體訓練は非常時に鑑み軍事教練を目標とし十六師團より銃器其他の借用なす事。
 同 十六日 比賀江團長、本田副團長、山口主事、伏見稻荷神社當局に出張し、國威宣揚祈願祭並に五周年記念大會、優良青年表彰式舉行の件に就て協議依頼す。
 同 三十日 北支事變突發に付き建具青年團長西村新一郎君(北部中隊長)へ應召。

同日午後より幹部協議により枚方成田不動尊參拜し戰勝祈願並に武運長久の守札を受け爾後團員應召者に餞別として贈與
 八月一日 北野武德殿に於て武道第五回豫選實施。
 同 三日 本日より向ふ五日間、松原商務學校々庭に於て第五回團體訓練を實施。教官として左の通り囑託す。
 同志社大學講師 北野捨次郎殿
 同 十三日 市聯合青年團非常時召集令發せられ本團より應召二十團、團員數約三百五十餘名。八時より緊急團長會議開催す、五周年記念大會施行細則の件其他被表彰者調査。
 同 二十二日 第五回陸上競技大會を岡崎運動場に於て實施、本年度團體優勝は諒紡京都工場青年團、本年を以て五回連続優勝により副勝旗を永久に授與す。
 同 二十五日 五周年記念大會及優良青年表彰に關し府市商工會議所より各課首腦部を招聘し右に對する高見を聴く。
 伏見稻荷神社當局より大島氏來駕を煩す
 九月二日 市聯合青年團主催武道大會開催せられ、本團選手出場し大日本聯合青年神宮競技會出場権を獲得す。

同 十三日 市聯合青年團主催陸上競技會開催せられ本團選手出場し大日本聯合青年團神宮競技會出場権を獲得す。
 同 二十五日 名譽團長竹上氏の招聘に依り幹部の一部出席す。
 十月八日 五周年記念大會打合により幹事會開催す。
 同 十七日 伏見稻荷神社大前に於て國威宣揚皇軍武運長久祈願祭並に本團五周年記念大會を舉行し、前役員功勞者に感謝狀及記念品贈呈し、優良模範青年表彰式を舉行す。
 同 二十八日 實彈射擊大會に關し訓練部委員會開催。
 十一月四日 市主催市民體育大會に参加。
 同 十日 戰勝並に三國防共協定成立祝賀提灯行列參加、同日午前、奉祝式典記念警備隊檢閱式參加。
 同 十四日 午前八時より實彈射擊大會を舉行す、優勝團 書籍青年團。
 同 十八日 懇親會を開催、文書教育指導普及「ラヂオ」施設に關する大日本青年團派遣員南都氏の講演を聴く。
 同 二十二日 京都市聯合青年團青年大會開催せられ、十一年度團長模範章及團員

模範章を受く、三團長及十一團員。
 十二月一日 市聯合主催辯論大會開催せられ本團選手參加す。
 同 十一日 伊勢參宮舉行に關して幹事會開催。
 昭和十三年
 一月三日 桃山御陵參拜並に伏見稻荷神社參拜す。
 同 十五日 武運長久祈願伊勢參宮、參加者三百七十五名を以て三ヶ中隊編成、神都に堂々の行進を以て參宮す。
 二月一日 本日より稻荷神社代參會を創立し被表彰者並に幹部單位團長交代參拜。
 同 十一日 紀元節式典參加。
 三月八日 緊急幹事會開催、比賀江團長中京聯合團長就任の故を以て本團長辭任。
 同 二十日 朝日新聞社主催驛傳競走豫選會に参加す。

附記
 昨秋、大日本聯合青年團主催飛行機獻納古新聞紙古雜誌蒐集の舉に際しては各團協力一致各學區の後を受けながらも能く本團名譽の爲めに左記の通りの多大なる數量を送附し得たるは欣快とする處なり、蒐集團(十七團)合計壹千貳百六拾九貫五百匁也

又、右賣上金額として送金せし團(六團)合計金六拾圓也。

團名	數量
飛行機獻納古新聞紙蒐集成績表	
蠶糸青年團	一五三貫
草鞋青年團	一三〇貫
墨青年團	九貫
書籍青年團	三〇貫
長野青年團	二九貫
印刷青年團	二〇一貫九〇〇匁
建具青年團	二一貫四〇〇匁
一心青年團	四六貫五〇〇匁
丸紅青年團	六四貫
葉業青年團	三六貫
鐘紡下青年團	一二四貫五匁
新京城青年團	一九五貫
水運青年團	一七四貫
高島屋青年團	一一貫
加藤伍青年團	一八貫
市田青年團	七貫
合計	壹千貳百七拾貫四百匁

次に出征者遺家族慰恤金として醸出せしは十九團合計金百六拾參圓五拾錢也。大阪毎日新聞社右同様醸出金せしは十五團

合計金百八拾九圓九拾八錢也。

昭和十三年度

四月三日 伊太利國派遣フアシスト訪日親善使節團歓迎 午後六時四十分京都驛着の一行と市聯、實聯二千五百名の大交響を行ふ。

同 十三日 京都府下出身支那事變犠牲者慰靈祭執行、於て岡崎公園式場 印刷青年團増田氏以下多數之に參列。

六月一日 稻荷神社參拜。

七月三—四日 幹部講習會開催 於大内小學校

第一日は館少將閣下の「皇軍活動と國民の覺悟」と題し時局講演

第二日 市立衛生試験所長 吉田博士の「都市青年の健康増進に就て」の講演、建國體操等講習あり。

同 七日 事變一周年記念祈願祭執行 於平安神宮、各團よりは代表參列。

同 十日 優良加盟團發表

蠶糸、印刷、建具、伊吹、書籍、草鞋、水運、丸紅の各團を優良と認む。

同 二十四日—二十六日 神戸地方水害復興勸募奉仕隊派遣 救援隊員二百七十餘

名を二ヶ中隊編成とし福住小學校に本部を置き連日炎天下若き全力を盡して作業に従事した。

八月一日 稻荷神社に參拜、産業の發展を祈願す。

同 六日—八日 團體訓練實施

第一日—嵐山方面へ夜間行軍

第二日—洛西粟生光明寺へ耐熱強行軍

第三日—集團訓練、終了式

九月一日 恒例稻荷神社參拜。

同 八日 青谷陸軍療養所建設勸募奉仕、各團より百五十餘名を以て終日尊き作業に従ふ。

同 二十五日 映畫觀賞會開催 於帝國館 文部省推薦映畫「五人の斥候兵」觀賞會を催し映畫教育の實を擧げた。

十月一日 恒例稻荷神社代參。

同 十六日 獨逸青少年派遣團歓迎交響會 於岡崎公園運動場、兩國青年の熱血譜を展開した。

同 二十八日 武漢陥落祝賀提灯行列參加 當夜二條離宮前から御所に至る蠅蠅火の海は皇軍大捷を感謝と感激に埋めた、參加者五百三十餘名。

十一月六日 産業隆昌並に皇軍武運長久祈

願祭執行 於稻荷神社。

同 十日 國民精神作興詔書頒發十五周年御大禮記念奉祝式を御所建禮門前に於て舉行次で模範青年表彰式を擧げる。

十二月一日 優勝辯論大會開催 於翔鸞校

同 十五日 青少年義勇軍激勵慰問袋發送 各團にて作製の慰問袋三十四個それぞれ發送完了。

昭和十四年

一月三日 新團長推戴式舉行

加盟代表者二百九十餘名參加して稻荷神社に於て新團長川端道一氏を推戴、新しき希望への第一歩を發足した。

同 十七日 伊勢參宮

加盟團代表者二十三名之に加はり伊勢大廟に祈願をこめた。

二月十一日 紀元節奉祝式舉行 於御所建禮門前、なほ日出新聞社と共催の榎原神宮參拜自轉車大行進舉行、落伍者なく全員元氣旺盛なりき。

三月八日 役員改選の結果、副團長本田喜三郎氏を顧問に、以下川端新團長を擁しての陣容は左の通りとなつた。

- 團長 川端道一
- 副團長 樹田國太郎

同 伊吹榮二郎

同 板倉源次郎

同 幹事長 大熊秀幸

同 常任幹事 大槻庄太郎

同 浦崎松太郎

同 修養部長 熊木賢一

同 體育部長 堀場鋪郎

同 訓練部長 森信一

同 幹事(修養) 井上義一郎

同 (體育) 増田芳一

同 大壽堂太郎

同 東山秀一

同 大見文一郎

同 山名松伸

昭和十四年度

四月十七日 本團事務所を丸太町より京都市役所社會教育課内へ移轉、即日事務一切を開始せり。

同 二十二日 團長總會(評議員會)を新京極青年團事務所に於て開催。

五月二日 市團、護國神社參拜を實施せられ本團員多數參加。

同 五日 體力檢定實施せり、實施團株式鐘下、伊吹、文具、建具、新京極。

同日 拓務省・大日本青年團主催拓植講習會開かる、本團拓植部長大槻庄太郎受講、内原訓練所に義勇軍と共にその生活をした。

同 二十日 郷土部隊慰問軍役奉仕隊員本團代表西田一郎君(新京極)は竹内團長以下各區代表と共に歸還。

同 二十二日 本日より三日間、本市道路交通情勢調査實施せられ多數出援。

同 二十五日 郷土部隊慰問軍役奉仕隊歸還報告講演會を伊吹商店廣間に於て開催

六月十一日 定例幹事會を開催。

同日 優良青年團調査事項に關し幹事會の推薦に依り新京極青年團を申請せり。

同 十四日 護國開拓青少年義勇軍渡滿部隊壯行會並に市中行進に多數參加。

同 二十日 興亞青年勤勞報國隊員出發、關係者歡送。

七月九日 幹部講習會並幹部協議會を嵯峨天龍寺修養道場に於て開催。(口繪参照)

同 十六日 山野行軍競争實施せられ本團より水運、草鞋、株式各青年團參加せり

同 十八日 同木村清風師

同 八月一日 夏期講習會を一商に於て十四日

間に互り開催せられ本團員支那語を受講せり。

同 七日 幹事會開催。

同 日 體育部、訓練部合同委員會を開催せり。

同 十二日 實業青年相撲大會を京都取引所相撲場に於て開催す。

團體優勝 青年學校部 大橋青年學校

青年團の部 株式青年團

個人優勝 青年學校 原 一夫(大橋)

青年團 山本保夫(新京極)

同 十八日 團體訓練(昭和十四年度)を實施せり、於龍池小學校々庭。

同 十九日 團體訓練第二日 豐國神社前集合、澁谷越行軍後龍池校に於て閉團分列閉講式を舉行せり。

同 二十五日 都市青年團經營研究會を松原商務學校に於て開催せられ本團より株式、加藤伍、印刷、水運、蠶糸、書籍の幹部参加す。

九月二日 岡崎運動場に於て支那事變戰死者慰靈祭執行せられ本團より多數参加。

同 十一日 定例幹事會を新京極青年團事務所に於て開催、終つて第一線より歸還の名譽幹事今西政造氏、南支方面派遣中

歸還の表幹事並青年教育組織狀況調査の爲、滿洲、朝鮮方面出發の川端團長の歡送會を東洋亭に於て開催せり。

同 十三日 第十五回青年大會並日滿支青年交誼會を十六、十七日の兩日朝鮮京城府に於て開催せられ、京都市青年團引率者として川端團長、代表として文具青年團安井鉦治君選拔され参加せり。

同 二十四日 武道大會を午前八時三十分より第一商業學校武道場に於て開催せり、各班優勝者左の如し。

柔道班 濱田 實夫(鐘紡京都)

劍道班 佐々木俊平(鐘紡京都)

銃劍術班 増田 四郎(伊 吹)

同 二十七日 興亞勤勞報國際隊京中隊歸還解散式を京都驛前廣場に於て行はれ本團より多數参加せり。

同 十月一日 榎原神宮外苑御擴張工事勤勞奉仕隊編成せられ、本團二〇七名を以て實業中隊編成参加せり。

中隊長 伊吹副團長、第一小隊長 熊木修養部長、第二小隊長 堀場體育部長、第三小隊長 大槻植植部長。

同 十一日 定例幹事會を開催。

同 二十二日 市青年團主催五十軒強歩行

軍實施せらる、高野一原一堅田一坂本一濱大津一平安神宮着の行程に本團より印刷、染料、加藤伍、株式各青年團参加

同 二十七日 府市會議所主催世界一周機「ニッポン」號乗員歡迎式に本團よりも参加。

十一月十日 國民精神作興男女青年團大會を府市男女青年團共催の下に市中行進及堀川高女に於て開催され本團より音楽隊並團員参加。

同 十六日 幹事會開催。

府市合同青年團振興懇談會を府廳に於て開催され本團員二名出席。

同 十八日 滿蒙開拓青少年義勇軍激勵袋市團經由、大日本青年團宛發送せり、應募團左の通り

新京極二、書籍三、藥業二、建具二、鐘京三、印刷三。

十二月一日 令旨奉戴記念京都市青年大會開催、本團第一回動員訓練召集を實施し之に参加せり。式後平安神宮に行軍解散す。本團關係永年勤續役員被表彰者

○水運笹原茂(十五年) ○水運中川敬三(十五年) ○水運平塚吉太郎(十五年) ○水運奥田善一(十五年) ○新京

極浦崎松太郎(二十三年) ○蠶絲堀場

帥郎(十五年) ○文具石角伊之助(十

六年) ○刺繡樹田國太郎(十七年)

○書籍大槻庄太郎(十六年) ○新京極

堀井文二(十七年) ○草鞋龜井庄吉

(二十四年) ○草鞋井上義一郎(十九

年)

△模範章被授與者(本團關係)

○建具 下村 徳 ○草鞋 水野 繁雄

○水運 加納詮太郎 ○文具 松川 信一

○新京極 堀井文二 ○染料 市瀬 一夫

○書籍 須藤傳四郎 ○蠶絲 小島 精一

△令旨贈本奉戴團

○本團 ○建具 ○印刷 ○同盟一心會

○水運 ○錦 ○酒醬油各青年團。

同 二一三日 大日本青年團、市青年團主

催青年團滿蒙開拓講習會を府下乙訓郡大

枝村香掛本願寺訓練所に於て一泊二日の

日程の下に開催され本團より文具高野甚

造君参加す、川端團長は主催者側講師と

して参加さる。

同 六日 辯論大會を新京極事務所廣間に

於て開催せり、丸紅須戸秀博、一心永田

春雄市團辯論大會に出場に決定。

同 九日 ドイツ文化研究所に於てドイツ

事情講演映畫會開催せられ本團参加。

同 十一日 定例幹事會を開催。

同 二十一日 優良模範章審査委員會を四

條寺町若狭屋に於て開催せり、團長、副

團長、常務幹事、幹事長、各部長出席。

昭和十五年

一月三日 市團吉例桃山御陵參拜實施せら

れ本團員多數参加せり。

同 日 午前十一時より稻荷神社廣場に於

て本團優良模範章青年表彰式を舉行せり。

役員表彰 本團修養部長 熊木賢一

團長表彰 水運青年團長 中川敬三

團員表彰 染料 青年團 市瀬一夫

感謝狀並記念品 前副團長本田喜三郎氏

同 十一日 定例幹事會を開催。

同 十四日 伊勢大神宮參拜を實施

参加者 本團役員並單位青年團長。

同 二十四日 緊急幹事會を開催。

同 二十八日 木炭増産勤勞報國運動山科

安祥寺國有林に於て實施せられ本團より

株式七名、蠶絲十三名第一次出動す。

二月五日 木炭増産勤勞報國運動第二次出

動草鞋六名、水運三名、鐘京三名、鐘下

一名参加せり。

同 十日 幹事會を開催。

同 十一日 皇紀二千六百年紀元節祝式並

市中行進舉行せられ本團より多數参加。

式後、市團、日出新聞社共催の榎原神宮

參拜自轉車隊大行軍に二十七名参加。

同 十二日 青年團經營指導講習會を昭和

圖書館に於て大日本青年團指導部組織課

村岡太三郎氏講師の下に開催せり、各單

位青年團幹部参加せり。

同 十三日 木炭増産勤勞報國運動第三次

出動せり。

同 十八日 神社巡拜行軍を北野一御室一

廣澤池一嵯峨一松尾一四條大宮の約五里

の行程を實施、各團より多數参加せり。

同 二十一日 木炭増産勤勞報國運動第四

次出動せり。

三月一日 木炭増産勤勞報國運動第五次出

動建具四、印刷三参加せり。

同 九日 木炭増産運動第六次出動せり。

同 十一日 定例幹事會開催。

同 十七日 第十二回京阪神三都聯絡驛傳

競走豫選會に本團員八名出動し鐘京井口

光義君本大會に出場資格を得たり。

同 二十一日 恩賜元離宮二條城拜觀並京

都放送局見學を實施せり、参加者百七十

六名。

單位青年團長異動

印刷青年團長 小倉庄七氏
理髮青年團長 細見金八氏
鐘京青年團長 小林國利氏
水運青年團長 澤田藤一氏
錦 青年團長 林治一氏
株式青年團長 中村泰之助氏
其 他

△六月十四日より七月五日迄本團岡村書記
青年團指導者養成講習會に東京市武藏小
金井浴恩館、日本青年館に出張せり、出
張中山口前書記に本團事務を依頼せり。
△本團々員戦死者學區葬に參拜。
△傷病軍人慰問の爲、陸軍病院へ雜誌(恤
兵品)贈呈せり。
△「教養放送」青年テキスト配布せり(三四回)
△滿蒙开拓青少年義勇軍現在通信集第二輯
配布せり。
△大日本青年團第十五回大會並日滿支青年
交聯會報告、滿洲北支蒙疆青年教育調査
報告を配布せり。
△恩賜元離宮二條城拜觀案内を配布せり。
△毎月一日稻荷神社參拜を實施せり。

昭和十五年度

四月十一日 定例幹事會を新京極青年團事
務所に於て開催。
同 二十四日 團長總會(評議員會)を午後
六時より新「みやこ」に於て開催せり。
昭和十四年度歳入出決算承認の件
同 事業経過報告の件
昭和十五年度歳入出豫算の件
等協議決定せり。
五月一日 稻荷神社代參を實施。
同 十一日 定例幹事會を新京極青年團事
務所に於て開催。
同 十二日 紀元二千六百年奉祝第六回日
本體操大會中央大會を櫻原神宮外苑競技
場に於て開催され本團より多數參加。
同 十三日 市役所委員會室に於て市團常
任理事會開催され本團々長出席せり。
同 十四日 比叡山青年鍛鍊道場に
於て一泊二日青年團事務主任者協議會を
開催され本團岡村書記參加せり。
同 十六日 午前九時、京都美術館に於て
市團修養部委員會開催され本團委員出席
午後二時、同市團訓練部委員會開催、本
團部長出席、午後七時、同體育部委員會

開催。

同 十七日 午後二時、京都美術館に於て
市團騎道隊委員會開催され、本團隊長出
席す、午後七時、同市團拓植部委員會開
催され本團部長出席。
同 十八日 午前九時、京都美術館に於て
音樂隊委員會開催され、本團隊長出席せ
り。
同 二十二日 京都靈山護國神社合祀祭執
行せられ本團より蠶絲三名、染料一名、
書籍二名、加藤伍三名、伊吹三名、文具
三名、鐘下三名、浴場三名、水運四名、
印刷二名參拜せり。
同 二十九日 滿洲建設勤勞奉仕隊壯行會
の新願式を平安神宮に於て行はれ市中行
進後、協議懇談會を開催され、本團川端
團長、岡村書記出席せり。
六月一日 京都靈山護國神社清掃奉仕を午
前六時を期し實施せり、竹ホウキ並掛索
を獻納せり。
印刷、草鞋、株式、建具、蠶絲、書籍、
刺繡、文具、染料、新京極、水運の各團
參加せり。
稻荷神社代參實施す。
五月二十八日、六月八日 京都行幸に關し

青年團奉仕者本團代表嚴選の結果

新京極 國枝平三郎、武田定治、中川

勇次

草鞋 福嶋洋藏
蠶絲 竹尾 香
加藤伍 可兒梧郎
浴場 西坂俊夫
文具 安井証治
株式 奥北 要
水運 加納詮太郎
鐘下 三井 允
建具 五十川弟次の諸君に決定奉仕
作業に従事せり。

同 十日 十三日 兩薄團體奉拜に參加せ
る團左の如し

新京極、書籍、株式、文具、葉業、建具
加藤伍、水運、蠶絲、草鞋、長野、染料
伊吹、葉業、印刷各團。

同 十八 十九日 紀元二千六百年令旨奉
戴二十周年奉祝大日本青年團中部動員大
會を奈良縣橿原神宮野外公堂並運動場に
於て畏くも 秩父宮殿下臺臨の下に開催
され本團より伊吹、草鞋、刺繡、加藤伍
文具、新京極、書籍の各團參加、令旨詔
書標本を奉戴せり。

同 二十二日 二十三日 兩日、比叡山延

曆寺青年鍛鍊道場に於て市團主催地方中
堅幹部錬成講習會を開催され本團より岡
(書籍)、河原(新京極)、石角(文具)、平



中堅幹部錬成委員會の委員

井(株式)、山本(酒醬池)、藤田(刺繡)、
加納(水運)、石原(草鞋)、小林(蠶絲)、
松尾(一心)、修養部長熊木幹事、岡村書
記等參加す。
同 二十九日 青年團幹部大陸現地訓練代

表本團一心永田春雄君出發。

七月一日 稻荷神社代參實施せり。

同 二日 滿洲國皇帝陛下御入洛に際し奉
迎送。

同 三日 市役所委員會室に於て市團修養
部委員會開催。

同 四日 同市團音樂隊委員會開催。

同 五日 同市團常任理事會開催。

同 六日 滿洲國皇帝陛下御退洛に際し奉
送。

同 七日 支那事變勃發三周年祈願祭を平
安神宮並護國神社に於て執行せられ本團
より多數參加、市團音樂隊結成式並記念
市中大行進實施。

同 十一日 幹事會を新京極青年團事務所
に於て開催。

八月一日 稻荷神社代參實施。

同 十一日 緊急團長會議を昭和圖書館に
於て開催。

同 十八日 市團防衛隊結成式を護國神社
境内に於て午前七時三十分より舉行せら
れ本團關係隊員參加。

同 二十一日 市團騎道隊委員會を市役所
委員會室に於て開催せられ本團騎道隊長
表委員出席せり。

- 同 二十二日 市團常任理事會開催。
- 同 二十三日 團體訓練を実施せり。
- 同日 柳池小學校に於て午後七時より教育點呼を実施す。
- 同 二十四日 第二日 夜間強歩行軍を実施す午後七時、稻荷神社出發―觀月橋―向島―小倉村―新田―宇治―六地藏―觀月橋の行程約二四キロを伊吹、大熊、堀場、増田、澤田の各幹部指導の下に實施す、降雨の爲、歸路觀月橋上に於て修了式を挙げ午後十一時三十分解散終了。
- 同 三十一日 市團主催五〇キロ強歩行軍實施さる、本團より三名參加せり。
- 九月一日 稻荷神社代參實施せり。
- 水泳大會に本團選出新京極中島清優勝せり。
- 武道相撲大會を京都中學道場に於て上京區青年團と共同主催の下に開催せり本團増田(伊吹)銃劍術に優勝せり。
- 同 二日 滿洲建設勤勞奉仕隊歸還せり。本團長、書記、京都驛に歡迎せり。
- 同 三日 市會議員室に於て青年團新體制に關する協議會を開催、川端團長、比賀江前團長、本田顧問、原社會教育課長、岡本定治郎氏、片山府社會教育主事出席
- 同 七日 市團騎道隊結成式舉行され本團表隊長並隊員參加。
- 同 九日 市團體育部委員會開催され本團堀場部長出席せり。
- 同 十日 〇左京區役所に於て事務主任者協議會を開催され本團書記出席せり。
- 騎道隊委員會開催され表隊長出席。
- 午後七時より公會堂に於て與友會主催座談會開催され本團會長に就任。
- 同 十一日 團長會議を新京極青年團事務所に於て開催。
- 同 十三日 市團防衛隊委員會開催され本團伊吹隊長出席、市團武道相撲大會開催され銃劍術に本團選出増田四郎(伊吹)優勝。
- 同 十六日 〇騎道隊基礎訓練を午前五時中部三十九部隊營内に於て實施せられ本團隊員參加せり。
- 午後七時より田中商店に於て新體制青年團整備案起草委員會を開催、川端團長大槻、堀場、表各幹部出席。
- 同 二十二日 明治神宮國民體育大會陸上班京都市選考會舉行され、本團中島、今井(伊吹)優勝。
- 同 二十四日 午前九時三十分、岡崎公會堂に於て工場青年組織指導協議會開催。午後七時、市團主催の下に堀川女學校に於て京都師團長石原中將の講演會開催せられ本團員多數參加。
- 十月一日 稻荷神社代參實施。
- 同 三日 騎道隊委員會を午前六時より朱雀馬場に於て開催され本團表隊長出席。
- 同 十日 中京區役所に於て事務主任者協議會開催され本團書記出席。
- 同 十二日 騎道隊大綜合訓練を中部第三十九部隊に於て實施せられ本團國枝(新京極)、可兒(加藤伍)班長に任命さる。
- 同 十三日 大政翼贊三國結盟府民大會を建禮門前に於て開催され本團より多數參加。
- 同 二十八日 幹事會開催せり、於新京極青年團事務所。
- 同 三十日 市團主催「新體制と青年團」に關する座談會を岡崎美術館に於て開催され本團川端團長、浦崎幹事出席。
- 十一月一日 稻荷神社代參實施。
- 同 十日 紀元二千六百年奉祝式舉行せられ本團より多數參加せり。
- 同 十一日 團長會議を開催せり、於新京極青年團事務所。



稻荷神社木職作業

- 同 二十七日 臨時幹事會を新京極青年團事務所に於て開催。
- 同 二十八日 滿洲協和會青年團入洛に際し京都市青年團との交雜會を下京區役所會議室に於て開催せられ本團代表五名參加せり。(大槻、増田の幹事等)
- 十二月一日 稻荷神社獻木場所地均勤勞奉仕を実施せり。
- 同 六日 騎道隊班長懇談會を中央ホテルに於て開催され本團より可兒班長參加。
- 同 八日 紀元二千六百年記念事業稻荷神社獻木奉告祭執行せり、午前十時、繪馬堂集合直ちに植付奉仕を行ひ、午後奉告祭を執行せり。川端團長、比賀江前團長、本田顧問、大槻、熊木、平井、西村、山名各幹事、蠶絲、長野、新京極各團代表參加さる。
- 同 十二日 團史編纂委員會を若狹屋菓子店に於て午後七時より開催せり、大槻、熊木、増田委員出席。
- 同 十三日 幹事會開催(於新京極青年團事務所)
- 同 十七日 騎道隊員訓練程度検査實施さる、(於朱雀馬場)本團隊員受檢せり。
- 昭和十六年
- 一月三日 京都市青年團勳員訓練による恒例桃山御陵を京都練兵場に集合の上實施せられ本團より一四八名參加せり。
- 同日 午前十一時三十分より稻荷神社境内に於て京都市實業青年大會を舉行せり、當日表彰を受けたる者左の如し。
- 役員表彰 株式青年團 平井 孝藏
- 團長表彰 建具青年團 西村新二郎
- 團員表彰 草鞋青年團 北村 俊藏
- 午後一時二十分より鳥初に於て懇談會を開催。
- 同 六日 市役所第一議員室に於て六大都市青年團團令發布促進實行委員會開催せられ川端團長出席。
- 同 九日 市役所第二議員室に於て市青年團緊急常任理事會。
- 同 十日 伏見區役所に於て事務主任者協議會開催。
- 同 十一日 幹事會開催せり。
- 青少年團に關する件を協議。
- 同 二十二日 市團常任理事會開催。
- 二月十一日 定例幹事會開催、解體に關し審議。
- 同 十九日 團長總會開催 於東洋亭。
- 同 二十一日 團史編纂委員會開催、増田熊木、大槻の各委員出席。
- 三月二日 解體奉告伊勢參宮、代表者二十五名代參。

單位團長並役員移動

- 訓練部長就任 幹事長 大熊 秀幸
- 防衛隊長就任 副團長 伊吹榮二郎

騎道隊長就任 幹事 表 宜太郎
 音樂隊長就任 常務幹事 浦崎松太郎
 印刷青年團長 増田芳一
 刺繍青年團長 藤田孝一
 錦 青年團長 山本富三
 蠶絲青年團長 山田就將
 其の他

△滿洲開拓青少年義勇隊激勵袋應募團。
 錦一〇個、株式五個、建具五個、文具五個、水運四個、蠶絲五個、書籍三個、新京極五個。



(カッとは京都市實業聯合青年團 第一回陸上競技大會賞皇紀二五九三年)



隨感
 統制の強化

熊木生

青年團結成當時は自由主義的な進展を來しつゝありしも、時世の風潮は大變革の統制的進展を來せり、大體今日迄は團員第一主義でやつて來たもので實に團員其のものを御得意様でも待遇する様な氣持であつた、これでは到底駄目であり、團員としての修養にはならぬ團員自體も今はこのやり方をば喜ばない實情にある、日本人は元來、統制すればする程益々能率の上る國民性を持つてゐる。

統制—これを裏返して云へば團結である、青年團は讀んで字の如く、青年が團結したものである、青年團から團結を抜けば丁度サイダーのキヌケの様なものだ、「團結は青年團の生命」も一度裏返して云へば「統制は青年團の生命だ」今更論議する迄もない。

官幣大社稻荷神社の
 加護を享く實業青年團

顧問 本田喜三郎

今日、皇國は方に未曾有の時局に直面し昭和維新の大業を翼賛するに方つて一億一心皇運の隆昌を期し、彌々敬神の念を固め此の時艱を克服して益々國光の赫輝を圖らねばなりません。

申すまでもなく、敬神崇祖は政教の基本であり祭政一致は肇國の大精神であります。

我が京都市實業青年團は令旨の御主旨を奉戴し青年團本來の目的完遂に邁進するは勿論のこと、實業團としての特異性を發揮して實業青年の育成に全力を盡し來つたのであります、結團當初より敬神奉公の至誠を以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らんとする心志を堅うし、官幣大社稻荷神社御當局と相謀つたところ幸ひ我等が心志を

御了解下され御神徳により自來御指尊御鞭撻を賜はり來つたのであります。

掛けまくも畏きことながら稻荷大神は元明天皇の和銅四年二月七日(初午)山城國紀伊郡三箇峰(後稻荷山)に御鎮座あらせられ、その後約百年 嵯峨天皇の弘仁年中かの名僧空海の如きも、大神の神威を恐みて東寺の鎮護と仰ぎ奉り以つて佛法の弘通を謀つた程で、御鎮座以來、一千二百二十餘年間、歴朝の御崇敬甚だ厚く、縉紳家武將は申すに及ばず庶民の信仰に至つては實に熱烈を極めたるものがあります。今や御神徳は海外に溢れ、凡そ日本臣民の居住する所 天照皇大神と稻荷大神の奉齋せられざる地なく初午といへば、やがて國民的祭日となる

に至りました。

抑々稻荷大神と申し奉る御主神は宇迦之御魂大神にして外四柱の神々に座しますなり。

宇迦之御魂大神は天照大御神の御弟須佐之男命の御子にして御母は神大市比賣命にましますも、此の宇迦之御魂大神は亦の御名を豊宇氣毘賣神、若宇迦賣神、保食神、大宜都比賣神、御饌津神、など、申上げ(御神徳高の御名も数多きこと大名持神が大)伊勢外宮の豊受大神と御國主神の御例にても知らるべし。伊勢外宮の豊受大神と御同體にて五穀を始め總ての食物、及び蠶桑等の事に魂幸ひ給ひ、又その幸魂を屋船命と申して家屋のことをも守り給へり、實に人生一日も缺くべからざる食・衣・住即ち實業萬般の大恩神にて座します。

畏くも貴き稻荷神社の大前に於て京都市實業青年團が毎年優良模範の青年並に功勞ある指導者を表彰するに當り稻荷神社より此等の人士に對し御祝の意味に於て未だ何れへも御下げ渡しにならざる御神寶を賜はり、永世子孫に光榮を傳へ家門の名譽とすると同時に益々皇國の御爲め敬神奉公の至誠を以つて大政を翼賛し奉らんとする心志を堅うせしむるの資たり。

而も宏大無邊の御神徳を日夜景仰し得て誠に有難く慶幸之に過ぐるものなく拜受者は皆々其家庭に於て最も嚴肅に奉安する次第なり。

京都市實業青年團も時代の推移により、形に於ては如何に變化するとも世界に産業の存する限り經濟戰線に立脚し皇國に挺身する有爲なる青年の練成の爲め、集團的修練を行ひ、斯業發達に資する必要は勿論である。

而して、此等實業人は益々稻荷神社の御神徳を景仰し青年團發生の往時に於ける仁俠・犧牲・奉仕・團結・責任感等、所謂庶民階級の「日本魂」と護郷安民のためや相互接觸による練磨の上に更に計畫的指導と教育的陶冶により本來の目的を達成致したいものであります。

京都市實業青年團事務主任(市社會教育課書記)岡村勝造氏には此程現職を辭し今般大連市山縣通二一原田商事株式會社に入社され、去る二月二十七日京都發にて赴任された。

尙その後任としては社會教育課森田秀雄氏が任命されその事務を取扱はれてゐる。

加盟單位團沿革並事業概況

京都印刷青年團

大京都市を記念して昭和六年七月一日結團、團旗入魂、團規制定。同月十月二十九日京都市聯合青年團準加盟。同年十一月十六日 天皇陛下の御親閱の光榮に浴す。同年十一月十八日京都市聯合青年團正加盟。市聯青警備隊京都印刷小隊編成。同八年十月十五日京都市實業聯合青年團結團加盟。同十一年七月一日創立滿五周年。爾來發展の歩を進めつゝ今日に至る。

昭和六年

六月二十四日 團服制定配給
午後七時から昭和圖書館で入團申込者百二十餘名に對する團服の配給と初顔合せを行ふ。意氣と希望に燃ゆる若人が一堂に會した光景は未來の業界に一暗示を與

へすにおかなかつた。

七月一日 京都印刷青年團誕生

創立委員が三ヶ月に亙る懸命の奔走と組合員の熱誠なる後援の實は結ばれて茲に京都印刷青年團は華々しくも亦雄々しく呱呱の聲を上げた。
歡びの日七月一日は夜來の雷雨名残りなく、露れて發團式を擧げんとする式場平安神宮は『京都印刷青年團結團式々場』の文字も鮮やかに神苑の白砂を彩る大極殿の壯麗と相俟つて今日の盛典にふさわしい情景を展開。百三十有餘の業界青年の歡呼と期待は朝來續々參集する其の眉宇に現れ、一方來賓として市長代理西村社會教育課長、竹上市聯合青年團副團長古川紙商青年團長、組合側からは寺本、布部、松崎の三功勞者、須磨、福井、丸毛氏等、其他多數の列席を得て午前十一時團旗入魂の儀を殿上にて諸員最敬禮裡に莊嚴なる式典行はれ、團旗に護符授與あり、引續き結團宣誓に代ふべく辻本團

長令旨を捧讀し以て入魂式を終り、結團式場たる橋殿泰平閣へ全員の移集をなし正午喇叭『君が代』吹奏に依つて開式、團長推戴、挨拶、役員發表、祝辭、増田理事答辭を述べ、経過報告を以て式を閉ち、青年團式野宴を開き、その首途を祝すところあつて、意義ある今日の盛典を閉じた。

初代役員として左の通り就任

團長	辻本庄一
副團長	内藤政一
副團長	渡邊秀吉
經理	布部幸三郎
經理	石原理三郎
理事	大西仁三郎
理事	長谷川三郎
同	西村悦三
同	西田友次郎
同	富永庄太郎
同	富浪彌三郎
同	増田芳一
同	夏地富三郎
同	高田順一
同	古川四郎

右記の如く陣容を整備し終つた本團は正

に破竹の勢をもつて猛進することゝなれり。

八月二日 桃山參陵(結團報告)

結團後第一回の行事として結團報告を兼ねて桃山御陵に參拜す。午前八時京都驛前に集合、全員六十有餘名を二ヶ小隊に編成、途中京都練兵場に於て教練を實施夜來の雨に淨化されし御陵道は灼熱の陽光に輝いて桃山連山の緑は濃やかに莊嚴の氣迫る。梢を渡る神風、明治大帝御陵前に額き結團報告式を舉行す。三伏下の行軍とは云へ辻本團長以下士氣旺盛にして二時、須磨組長別邸にて解散。

八月十五日 近江舞子水泳講習

午前八時三十分三條大橋畔に集合する者一般參加者を交へて六十一名、大津より京阪丸に乗船湖岸絶勝の地雄松崎に直行雄大なるその景、比良連峰を背に、青年らしい環境、こゝに一日の清遊を兼ねた水泳講習を行ひ、十二分の効果を揚げ得て薄暮大津に歸着解散す。當日は特に岡本三等藥劑正殿の御參加あり、種々指導に預かつた。

九月一日 兵營見學

日支紛争の絶間なくなるとなしに非常時

を思はしめる時にあたり、軍隊生活の實際を見學し、第二國民としてその認識を深めた。

十月十日 運動會豫行演習(第一日)

十六日の運動會を目前に控へ、その豫行演習舉行。
同 十五日 運動會豫行演習(第二日)
同 十六日 運動會參加
午前十時より公會堂に於て第三回従業員表彰式あり、終つて同十一時より岡崎グランドに於て印刷文化の第一聲を揚げ、競技に先立ちて京印青年團の閲兵と分列式を舉行。隊伍整然威風堂々たる行進振りは創立未だ日淺きにも拘らず、觀衆等

しく讚嘆の聲を博した。幹部一同は競技委員として又、團員はそれ〴〵所定の位置につき進行の上に多大なる援助をなすところあつた。

同 二十九日 京都市聯合青年團に準加盟認可

創立當初の目的を達成せんがため、結團式に誓へる所期の大目的を着々實施しつゝあつたが、本日付で左の寫し通り準加盟として、認可せられることゝなれり。之れ特別の異例にして我等青年團の門出に際し燦たるものがあつた。

京聯青甲第一一九號(寫)

昭和六年十月二十九日

京都市聯合青年團長 土岐嘉平

京印印刷青年團長殿

加盟各青年團長殿

京印印刷組合青年團加盟申込ニ關スル件標記ノ件理事會ニ於テ向フ一年間準加盟團トシテ取扱フコトニ決定候條御通知申上候

十一月十五日 高雄觀楓行軍

紅葉の季を選び高雄行軍を實施す。當日午前八時北野神社前に集合の上行程約四

里を行軍し、歸途尙ほ元氣旺盛にして颯足行軍をなし、却て古川理事のお叱りを受け、元氣餘てお目玉頂戴とは血氣にはやる青年らしい所があつた。當日の指揮者は渡邊副團長指揮の任にあたり古川理事、増田理事補佐するところあつた。

昭和七年

一月十四日 新年懇談會

御池河原町東入昭和圖書館に於て開催。國歌合唱に次で令旨捧讀、意見發表あり餘興あつて新春の宵を一堂に會して和氣霽々裡に過ごした。

二月十一日 森田市聯合青年團長推戴式參列

三月二十日 臨時總會開催

於仲源寺。午前七時開會。創立以來過渡的經過に進み來た本團も昭和七年度の四月よりは大々的に青年團使命に向つて邁進せんがため、この總會を開催し、今後の方針を決定し、團員等しく遠大な理想に燃える意氣を示した。

四月一日 大阪見學(大阪朝日新聞社、精進)

宿題であつた、大阪の大工場見學を實施す。當日午前八時、新京阪四條大宮驛に

集合する者七十餘名、渡邊副團長、西田大西、古川等の幹部附添ひ出發、快速にて大阪に着、京印團旗高くなびかせて大阪市内を行進する京印青年の意氣發刺たるものあり。大阪印刷新聞社富永記者の斡旋により、精版印刷會社、大阪朝日新聞社の各工場を詳かに見學し、尙大阪城滿蒙博を參觀して、午後六時大阪にて解散。大工場の規模の雄大と秩序整然たる點に得る所多かつた。

六月十九日 宇治行軍

一行は辻本團長の指揮で京津國道を日ノ岡、奈良街道柳ノ辻を経て醍醐に出て、少憩の後六地藏に行進なし、正午宇治に到着、史蹟を見學して古き歴史を誇る宇治の里に一日の清遊を樂しみ、歸路、船に便乘して伏見觀月橋畔に上陸、中書島電車停留所前にて解散す。

七月四日 一周年記念總會開催

昨年七月一日呱呱の聲を上げた本團は其後組合員諸賢の御熱援を得て、日進月歩の發展をしつゝ今日の意義ある日を迎へた。榮え行く京印青年團——七月一日は遂に來た。過ぎし一年を追想して新たなる希

望と喜びを求める日が來た。會場の都合で四日に延期。夕刻高瀬川の流れに涼をとる木屋町御池の民政會館に集ふ。來賓須磨組長、金谷市社會教育課主事等。八時開式、次第左の如し。

- 一、開會の辭 渡邊副團長
- 一、令旨捧讀 一同起立
- 一、團員表彰 内藤副團長

増田特別團員
増田 理事
高田 理事

- 一、團長挨拶
- 一、事業報告
- 一、會計報告
- 一、來賓祝辭

京印印刷組合長 須磨勘兵衛殿
市社會教育課主事 金谷勝太郎殿
大阪印刷新聞社主筆 井坂惣平殿

役員として左の諸氏就任

- 團長 辻本庄一
- 副團長 布部幸三郎
- 副團長 渡邊秀吉
- 經理 石原理三郎
- 理事 西田友次郎
- 理事 夏地富三郎

同 西村悦三
同 音井吉雄
同 富浪彌三郎
同 古川四郎
同 槽谷周太郎
同 増田芳一
同 高田順一
同 辻 正次郎

次の宣言書は總會席上増田理事之を朗讀提案、滿場拍手を以て可決したるものなり。

宣言書

夫れ國家盛衰の基礎は吾等青年の奮闘如何に依る、青年の任亦重からずや、併も人生中最も危険なるは青年時代なり、故に各自心身を修養練磨し以て健全なる國民、善良なる公民の素質を涵養せざる可からず。

然るが故に京都印刷同業組合に於ても昨年四月の大京都市誕生を祝し、組合員各位の御盡力に依り青年團の創立せられしより一年の月日を閲し今日に及べり。惟ふに青年團體は我等青年の修養機關なり、即ち共通の心理に依り培ひし團體にして相互の修養機關たる事を自覺し、尊

き令旨を奉戴し、夕に省み朝に勵み組合員幹部の指導の下に各自修養、心身共に向上を計り自治的發達を遂げんとするものにして、帝國々民としての全人的修養を目的とするものなり。

大正四年内務、文部兩省よりの訓令を由めとして再三我等青年の進路を示され其間大正九年十一月全國青年 明治神宮代參者大會に際し高輪御所に於て畏くも優渥なる令旨を賜り、益々我等青年の任務の重大なるを感じ、協力一致奮つて目的を果さん事を期せり。

爾來、青年訓練所を設立せられ、青年團と相俟つて其の發達實に見るべきものあり、青年團事業の盛衰は實に國家の運命にかゝる重大問題と考へらる、我等茲に本團創立第一周年の記念日を迎ふるに當り、益々團員は其本分を自覺し、組合幹部各位の御援助を得て尊き御旨に副ひ奉らんが爲め一致協力左記要項の實行を期す。

決議

有史以來未曾有の大國難に際し、我等青年は帝國の將來、現下の世態と印刷青年團の現状に鑑み團員の充實を計り

修練もつて勤勞を樂しみ獻身奉公國運進展を期す。

昭和七年七月四日

京都印刷青年團

八月十五日 近江舞子清遊

第二回水泳講習のこの日、天氣は清朗、午前七時三條大橋畔に集合した參加者は三十餘名、一度び集合するや秩序ある團體行動に入る。同九時我等を乗せた白鳥丸は濱大津を後に一路雄松崎へ！東西に連る山岳勇姿を眺めつつ船は北へくと急ぐ。同十一時、雨中を舞子濱に着、杞憂も東の間晴れて絶好の水泳日和、午後一杯を十二分に游泳しお互の親睦を一層増して大津に歸港したのは薄暮七時であつた。

同 二十一日 武藤大將送別會參列

九月六日 幹部講習會參加

同 十五日 比叡アルプス登山

雨の爲め延期中の比叡山縦走も小雨の九月十五日決行、元氣満々たる印青の一行は大津經由にて薄暮歸洛す。

同 十八日 青年大會及武運長久祭參列

午前七時白砂に清められた平安神宮に於て京都市聯合青年團主催の下に莊嚴に舉行さる。本團より副團長以下二十七名參

加す。

滿洲事變一週年記念日に際し未曾有の一大市街戰展開。

午前九時より東西兩軍の火蓋は切つて落された。京印青警備小隊は細手通りに面した新門前以南末吉町に至る間を警備擔當區域として戰塵渦巻く中を重大任務につき經過東進につれ逐次其れに伴ふて實業班大隊集結地、知恩院境内に集合して大隊長及び中隊長の一場の挨拶警備の大任を解かれ行進の隊形に移る。

滿洲事變記念ピラ撒布

正午本團事務所至全團員集合、印刷青年とその名を記した記念ピラには我等國民が齊しく永遠に忘るゝ事の出来ぬ滿洲事變を更に更に想起させた。

午後一時八ヶ班に編成された團員は五萬枚のピラを市内要所々々岡崎公會堂前、祇園石段下、四條京阪前、河原町四條、四條大丸前、新京阪四條大宮驛、新京極三條、京都驛乘降車口、丸物前、大宮風電前、三條京阪前、東山仁王門へ撒布、各班共午後三時半前後には京印青年の存在と廣告を兼ねたピラは京都市民各地方

からの入浴者にまでも普遍的に撒き所期の好成績を収めて記念事業を終了す。

十月十三、十四日 午後七時半辯論部演說練習會開催。

同 十六日 業福本木祭典、卒業員表彰式參加。

同 二十日 警備隊訓練準備會

同 二十二日より五日間 警備隊訓練實施午後七時三十分より開催。場所於知恩院境内。二十二、二十三、二十五、二十六、二十七日の五日間、隊員熱心に受調する處あり。

十一月十六日 御親閱式に代表受閱す

陸軍特別大演習御統監の 聖上陛下地方行幸の第二日、拂曉の雷雨に明けた紅葉曇りに菊花薫る十六日午後二時、近畿二府五縣の若人達が待望の光榮の日、畏くも 天皇陛下の御親臨を仰ぎ奉りてこゝ大阪城東練兵場頭の御盛儀、光榮に浴す青年は京都、大阪、奈良、兵庫、和歌山滋賀、三重の在郷軍人會、青訓、學生、青年團、處女會の各代表者ら約八萬人、陛下の御英姿に接し感激のうちに午後三時三十分湧き起る軍樂隊の「君ヶ代」の奏樂裡に全くこの空前の大盛事を了らせ

らる。

青春の血に燃えて歡喜に浸る晴れの十六日、代表は聖旨に副ひ奉らん事を誓ふ。(參列者、渡邊副團長、西田理事長、古川理事、陪觀者辻本團長)

同 十八日 京都市聯合青年團に正式加盟發團以來、逐日進境にある本團が待望しつゝあつた聯青正式加盟の日を迎へた。

告示

京都市聯合青年團

京都印刷青年團

正加盟承認ノ件

昭和七年十一月十八日ノ代議員會ニ於テ標記青年團正加盟ヲ承認サル右告示ス

記

一、團名 京都印刷青年團
一、事務所 中京區河原町四條上ル 黒川ビル内京都印刷同業組合内
一、通信所 中京區二條通鉄屋町西入 辻本庄一方
一、團長 辻本庄一方

十二月六日 故森田市聯青團長告別式に本團代表參列す。

昭和八年

一月十四日 第二回新年茶話會

市聯合青年團正加盟記念式を兼ねて、第二回新年茶話會を午後七時半より、於昭和圖書館樓上に開催。この日朝來の快晴は記念式日和とも云ひたく、はた茶話會日和とも云ひたき新年初會に相應しき朗らかな氣分を十二分に與えて呉れた。渡邊副團長開會の辭を述べ、團長恭々しく令旨奉讀御親閱記念綬拜授報告。續いて挨拶を述べ京印青益々榮えんと宣言す。來賓比賀江聯青理事はこの日祝辭として青年團の目的に就いて三十分餘の熱辯を振はる。少憩の後茶話會に入る。

劈頭——團員の五分間演説あり、先づ森澤君「意志の必要」と題し、志を立て進めと解き、高橋君「熱ある青年たれ」と青年熱なくんば何事も成就し難しと、本團辯論部の驍將増田理事「我等の理想の人」と題されその理想の人にならんと述べ、高田理事「青年の歩みつゝある途」と題し熱辯を振ひ、最後に井上君「國難來る」と題し、國難に當つてこそ國益々榮えんと、時局に相應しき熱辯を揮はれた。

二月七日 全市青年團愛國運動大會參加

同 八日 聯合青年團懇談會參加

同 十一日 大森團長推戴式並紀元節奉祝式

午後八時より御苑内に於て舉行さる。全市各學區、實業青年團員等約二千名が大宮御所西側に參集、點呼、整列を了へて同五十分から團長推戴式。最初竹上聯合副團長より大森市長推舉の辭を述べ、これに對して新團長時局に鑑み、一層青年の奮起を望む旨の訓示を試み、一町餘に亘る堵列團員を理事長以下役員を従えて開團、かくてラッパを先頭に部隊の位置を建禮門南方に移し、此處で整然たる分列式を展開。——引續き蜿蜒長蛇の列を連ねて一同市中を行進、皇國青年の意氣を示して平安神宮に至り正午解散す。
三月八日 京都府市聯合青年團大會參加
四月一日 辻本團長、京都市聯合青年團警備隊第三大隊北中隊長に就任
同 二日 定期總會開催
午後八時より高瀬の流れも爽やかな木屋町民政會館に於て石原理事司會の下に舉行。
辻本團長令旨を奉讀、挨拶、型の如く進

んで、警備隊員に辭令交附、次いで班長級團員表彰、七年度行動報告、會計報告をなし、後當日の來賓を代表され、内藤組合代議員會副議長祝辭を述べられ、少憩の後役員改選を發表（出席團員、詮考委員附託賛成を得、團長詮考委員指名、委員役員を詮衡）團長役員一同を代表し就任挨拶を述べられ茶話會に入る。

京都市聯合青年團警備隊
京都印刷小隊編成

同 十日 警備隊出動

染織祭當日難香地三條河原町附近に石原副團長（小隊長代理）以下八名出動。

五月一日 宇治川ライン清遊

前夜の雨もカラリと晴れて絶好の行樂日和、三條大橋畔に集合、集ふ者渡邊副團長、石原副團長以下三十八名。
八時半出發、濱大津、石山寺、外畑を経て宇治に着、茶の香りと高き宇治の里若葉青々と水に映じ清遊の興が盡きず、意氣軒昂夕陽西に沈む頃歸洛す。

六月四日 皇陵參拜と史蹟天王山方面探勝

時恰かも近畿聯合健康週間第四日——本團は同週間に適したる行事として、櫻井驛趾、山崎天王山、土御門帝陵參拜の

ピクニックを舉行した。

古川理事を統率者として、一行二十餘名午前八時二十分新京都驛を出發、大山崎驛に下車し、約一軒半を距る大阪府三島郡島本村在の「青葉茂れる櫻井の里の……」の歌に廣々と知られたる建武中興の大偉臣楠公の父子訣別の地を訪ね、更に後鳥羽天皇御造營水無瀬離宮の遺蹟にして、人皇八十二代後鳥羽八十三代土御門、八十四代順徳の三帝を合祀せられる官幣中社水無瀬神宮前に最敬禮を捧げて、山崎天王山戰跡に至る。道なき急峻を開拓しつゝ、大山崎村に下山、西國街道を北進するに軍歌演習を以てし志氣愈々旺盛、下海印寺金ヶ原の第八十三代土御門帝陵に參し武運長久の祈願をこめてコースを長岡天満宮にとる。午後五時三十分新京都驛前にて解散。

同 十日 市聯合青年團懇談會定期總會

午後七時より乾小學校に於て開催、本團より渡邊、石原兩副團長、西田、古川の理事出席。

七月一日 創立二周年記念懇談會

午後七時半より組合事務所に於いて開催す。出席者幹部共に三十餘名。

同 六日 警備隊非常召集

午後八時東本願寺前に召集、諸操作訓練を行ふ。

八月二日 武藤元帥死の凱旋を迎接

關東軍司令官兼駐滿全權大使、武藤信義閣下薨去され、帝都に向ふ靈柩車、京都驛通過に際し、本團代表として増田理事迎送す。

同 六日 府聯合青年大會天橋で開催

辻本團長、湯淺班長出席す。

同 日 琉璃溪探勝

午前六時三十分、二條驛出發、八時十分龜岡驛に着く。驛前八時二十分發、妙見行バスに乗る。篠山街道を西へと走る。愛宕の山は後へくと見えなくなる。佐伯村を過ぎ湯の花停留所にバスを捨て、琉璃溪入口に着、先づ鳴瀑、種々の奇巖其他二十の奇勝を觀賞。觀る物凡て天下の奇勝に酔ふが如し。

同 十五日 第三回近江舞子游泳

午前七時半、三條京阪京津線驛前に集合朝來絶好の快晴、無風乾燥の酷熱は晝間に至れば如何と懸念されるほど、集合前早や全身流汗を見、今日この催しのかへつて相應しきを喜び集ふ者、辻本團長以

下二十九名。

九月十四日 實聯青第一回團體訓練始る

十四日より二十一日まで。本團よりの出席者、辻本團長、渡邊副團長、高田理事湯淺班長、奥村班長、團員夏川、平岩の兩君。

十月一日 組合本木祭典並に表彰式

午前十時より岡崎市公會堂東館に於て厳修さる。

同 十五日 京都市實業聯合青年團結團式參加

本團よりは石原、渡邊兩副團長、西田、小倉、増田の各理事以下二十餘名參列した。

同 二十日 御警備補助員緊急集合

電話を以て緊急召集す、午後七時半渡邊副團長以下全補助員到着辻本中隊長の訓示終つて捕細、警備杖、徽章交付其他の整備を完了。

同 二十一日 御警備豫行演習實施

市聯合青年團補助員千二百名を動員、兩簿御警備聯合豫行演習が實施された。我印刷小隊からは十二名出動した。

○光榮の奉拜者
行幸四日間を通して本團増田理事外四名

は御苑内建禮門前にて特別奉拜の光榮に浴した。

同 二十二日 午後四時二十五分

天皇陛下御着、警備補助員出動、警備擔當區域を鳥丸通り上七條通より下彌小路に至る丸物前、七條大隊沿道中隊第一小隊付て辻本團長(實聯警備北部中隊長)を初め、渡邊副團長(印刷小隊長)以下十名がこの光榮に輝く重任を帯びて以後二十三日、三十日、三十一日の各日無事にその大任を務めた。

十二月二十九日 皇太子殿下御命名奉祝提灯行列参加

市聯青主催で赤誠籠めて、盛大に行はれた。増田理事以下十七名参加す。

昭和九年

一月七日 耐寒夜行軍決行

前夜十一時五十分植物園前集合午前〇時増田理事を引卒者として同所を出發。鞍馬に向ふ。午前二時半鞍馬着。同三時半本尊御開扉、同四時大護摩修法を拜み、後奥の院源義經兵法を學びし古蹟を訪れ山中にて朝食をとり、山又山を越し大原村に出る。建禮門院中宮院、三千院横の順徳、後鳥羽兩帝陵參拜、國家の安泰を

祈り、八瀨に向ふ。

七日午後〇時八瀨着。解散す。

同 十四日 本團主催時局講演會

午後七時半、木屋町民政會館階上大講堂に於て講師陸軍砲兵大尉小野田六郎氏を招聘時局講演會開催。講師小野田氏は滿洲帝政問題、ユダヤ民族の平和攪亂、軍事探偵として實地に見たる露支の情勢、我帝國が滿蒙生命線を礎きたる國際的大芝居、現實滿洲國成立迄の大企圖、日本帝國の皇道大理想、我國民性の他人類に優越せる點、本格的非常時局に際會する國民の覺悟等を力説降壇され滿場氏の熱辯に陶酔す。

二月十一日 市聯青主催建國奉祝式典参加

三月四日 實聯講習會並青年大會に五氏出席

四月十五日 創立三周年記念式舉行

午前八時半、三條蹴上市電終點集合、蹴上大神宮神社に於て舉行。團員表彰、役員詮衡等を行ひ盛會裡閉式。

同日 醍醐行軍

記念式終了後、春雨を備いて一路京津國道を東へ、日の岡を南へ、途中花山稻荷勸修寺、坂上田村麿の墓に詣て醍醐着。

六月一日 市聯青主催聖恩旗拜戴式參列

同 二日 市聯青警備隊京都印刷小隊陣容發表

渡邊小隊長任期滿了勇退されたに付、新たに左の如く編成をなす。

- 小隊長 増田芳一(新)
- 經理係 鈴木茂
- 保安係 湯淺久男
- 同 村居吉三(新)
- 同 堀清太郎(新)
- 同 木村清一(新)
- 同 新川政太郎
- 同 久保田孝彌
- 同 村上次郎
- 同 關正和(新)
- 同 北村啓一
- 同 山根正三郎(新)
- 同 赤根英吉
- 同 通信係 夏川五郎
- 同 衛生係 旭成章(新)
- 同 十七日 保津川ハイキング
- 午前八時二條驛集合、同九時十五分龜岡着。徒歩保津川下りをなす。
- 八月十五、六日 實聯高蒲濱キャンプ生活参加

九月十八日 滿洲事變三周年市聯青主催市內大行進に参加。

十月七日 組合主催木本祭典に參列。

同 二十一日 洛南鴻巣山ハイキング

京都驛より電車にて洛南へ。久津川を基點とするハイキングを舉行。

十一月十八日 事務所移轉に本團警備小隊出動。

昭和十年

一月二十日 新年懇親會を舉行

組合事務所にて開催。

同 二十七日 雄辯大會に高橋君入賞

淳和小學校に於ける雄辯大會に初陣ながら出陣。「親を憶ふ心」の演題を掲げて熱辯を奮ひ、第二等賞に入賞。

二月十一日 市聯青主催建國祭参加

前日の霖雨もからりと霽れて、今日の舉を祝福するかの如く感ぜられた。

三月十六日 王子製紙京都工場見學

午前九時半、一行堂々たる七十餘名の見學隊は蜿蜒列をつくつて一路西へ直進し生氣漲る青野凡て我等に快よい慰安を與へてくれる。製紙會社到着は十一時、工場主任王子製紙會社の沿革から説き起し今日の狀況等、次で製紙工程の全般に就

き分解的に參考品の提示供覽以て十二分の説明を聴取し、あり餘る程の豫備知識を得て後、實際に作業狀況を見學させて貰つたが、我が印刷業とは違ひ工場規模の大なる割合に従業員の數少なく一寸異景と云ふべきであつた。叩解機から製紙斷截に至るまでの全工程を具きに見學し午後一時同社を辭した。

四月二十一日 第四回定時總會開催

規約一部改正を行ひ、役員改選、詮衡委員を擧げ新年度役員推薦、總會に於て役員改選左の通り。

- 名譽團長 須磨勘兵衛
- 團長 辻本庄一
- 副團長 西田友次郎
- 同 小倉庄七
- 同 石原理三郎
- 同 增田芳一
- 同 湯淺久男
- 同 高田順一
- 同 井上尙正
- 同 旭成章
- 五月十八日 市聯青春季定期懇談會に小倉増田出席。
- 六月十六日 笠置山史蹟めぐり

京都驛午前九時四分發。關西線大河原驛下車。下流笠置まで約五軒の間、緑の山容水淺く奇巖怪石の間を縫ひ、木津川の風光を賞しつゝ、六百年の哀史を包む笠置山着。古蹟を探勝の後下山。同午後四時二十二分發列車にて歸洛す。

七月七日 五周年記念事業京都百社參拜會

第一次左京十二社參拜

同 三十一日 同第二次參拜

愛宕神社參拜。八月一日歸洛。

八月四日 同第三次參拜

官幣大社八坂神社、安井神社、若宮八幡宮、地主神社等十二社參拜。

同 十五日 水泳講習

九月八日—十日 實聯青團體訓練受訓九名終了。

十月五日 京都府招魂祭參列

岡崎公園式場にて神式を以て舉行、本團より増田理事長代表參拜す。

同 六日 百社參拜第四次自轉車遠乗會舉行

午前八時半稻荷終點集合、旭理事を隊長として同九時出發。稻荷神社參拜後同境內東丸神社、金札宮、白菊神社、御香宮神社、桃山天滿宮、乃木神社、桃山御陵

に参拜す。少憩後田中神社、飛鳥田神社、石清水八幡宮、三栖神社、眞幡寸神社、吉祥院天満宮等を参拜、長途の遠乗會を終る。

同 十四日 市聯一夜講習受講
十四日夕より十五日に亘つた右講習會に湯淺理事受講。

同 十五日 團勢調査實施
創立以來四年有半、堅實なる發展を遂げつゝ今日に至つたが、今後の青年團運動強化の基礎となし、百般の事業計畫を進める資料を得るため左の種目を五十名につき調査を實施した。結果左の如し。(省略)

同 三十日 老村君入營歡送
福知山歩兵第二十聯隊第五中隊に入營されるに付、本日京都を出發、第五班員一同驛頭に歡送す。

十一月三日 湖南アルプス縦走
京都驛八時四分發列車にて石山に向ふ。瀨田町建部神社に参拜。登山口にかゝる仰ぐ連嶺、峻路を登攀、標高六百米の頂上を望む。太神山不動寺に参詣。寺僧より全山の歴史を聞き、午後二時下山の途につき南郷に出づ。午後五時二十八分發

列車にて京都驛着。

同 十一日 市聯警備隊檢閲式並に奉祝記念式参列
本團警備小隊も増田小隊長以下土井旗手等が受閲す。

昭和十一年
一月二日 兒玉本部隊除隊兵凱旋歡迎
辻本團長、増田理事長、旭理事が京都驛前歡迎式場に参列す。

同 三日 市聯青桃山參陵
恒例に依る市聯代表者の参拜は御香宮に集合、陵前に千代八千代を壽ぎ帝國陸昌を祈願す。團長代理増田理事長参加す。

同 十六日 實聯青伊勢參宮に加はる
全加盟代表百五十有餘名を四ヶ小隊に編成、外宮、内宮に参拜國家の隆盛を祈願午後四時發にて歸洛す。辻本團長は總指揮官、増田理事長は第三小隊長として、石原、小倉の幹部他二十名参加。

二月二日 實聯「猪狩」参加
洛北二ノ瀬山に於て舉行、小倉副團長以下十四名参加す。

同 四日、十一日 百社巡拜第五次、第六次會五周年記念事業の一つである全京都百社巡拜は兩日に亘り、増田理事長を

責任者として官幣中社白峰宮他二十三社に参拜を終る。

同 十一日 市聯建國祭参列
小倉副團長以下参加す。

三月十五日 百社巡拜第七次會舉行
一行は西へ梅津神社、松尾神社を経て嵐山に出で更に高雄口、太秦北野方面の神社を参拜。

四月一日 警備隊新編成(十一年度)
警備隊員の宣誓式を事務所に於て開催、各係を左表の如く分擔、使命遂行に努力せんと誓ふ所あり。

京都印刷警備小隊員氏名
増田 芳一 (小隊長)
湯淺久男、井上尙正、旭成章、關正和、坂本松治、土井通夫、平岩忠雄、野垣正次、今坂一男、吉川安一、初川三郎、野坂清、木村清一、高下三郎、内田虎三、
五月一日 第五回定時總會開催
後任團長詮衡の總會を午後八時より事務所に於て開催。

詮衡委員は識見高潔にして青年指導に多大の手腕ある前副組長福井松之助氏を推挙し、以下それと別記のやうに役員改選結果就任せり。本團歴史上の注目に

値するものがある。

名譽團長 須磨勘兵衛
團長 福井松之助
副團長 小倉庄七
副團長 増田芳一
經理 菅井吉雄
理事 高田順一
理事 湯淺久男
理事 井上尙正
理事 旭成章
同 關正和

同 三日 「輝く日本博」見學
期待の新團長を迎へての第一回の事業、超非常時に適はしきその名も「輝く日本博」見學を舉行す。

同 十七日 自轉車遠乗決行(百社巡拜)
小雨を備いて勇敢なる旭理事角地班長等の一行は山科方面の神社巡拜をなす。

六月二日 團體訓練實施
午後八時岡崎公園に集合、熱心なる訓練は短時間なるも良成績を得て九時半終了

小倉、増田の兩副團長以下二十三名参加

同 七日 團體訓練早朝實施
午前五時半、圓山公園ラヂオ塔前に集合、九條山廣場に於て旭光浴びて清朗の氣養ふ訓練は九時半諸演習を終了す。

同 七日 百社巡拜會舉行
今回は洛北方面に参拜す。

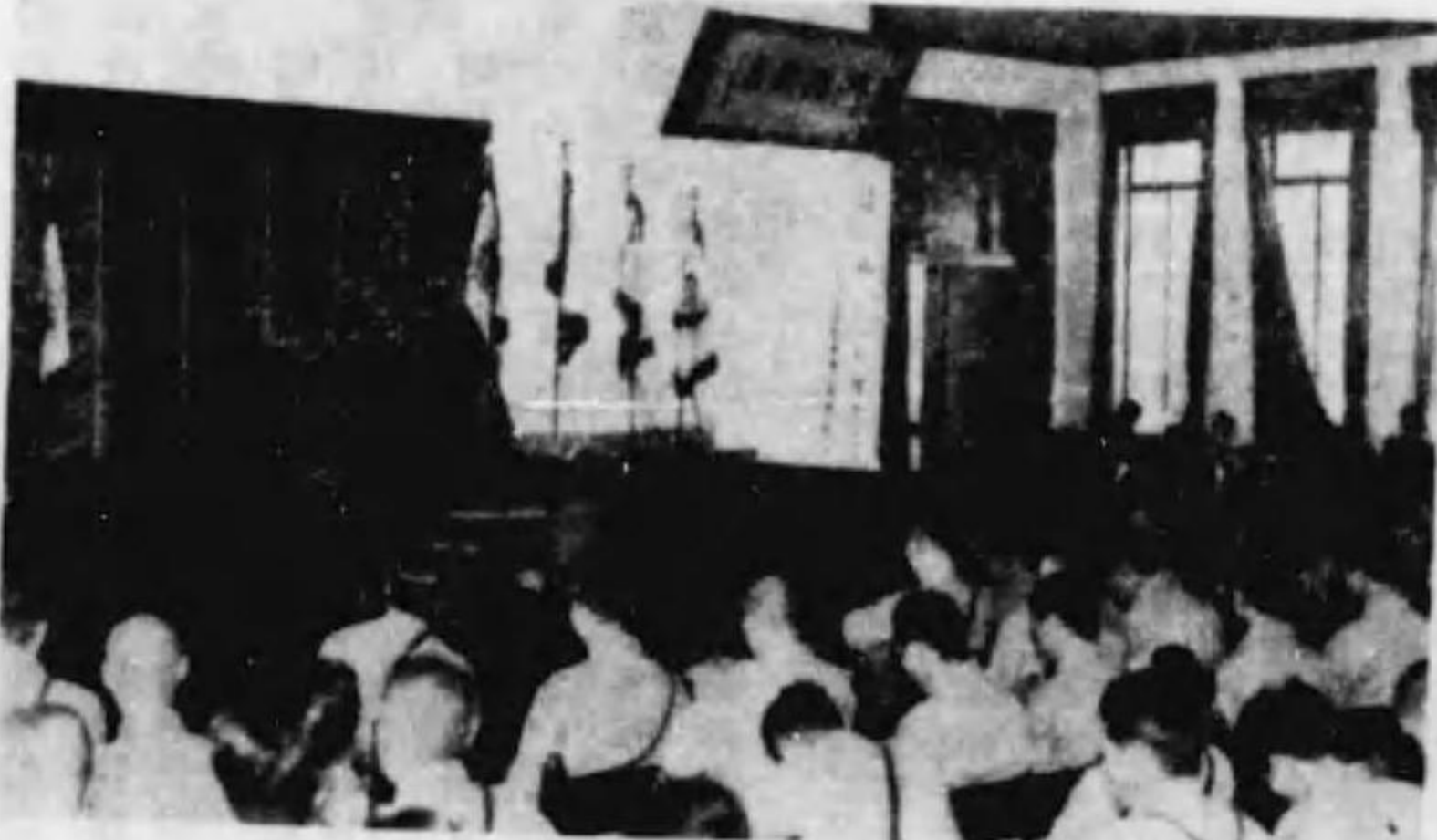
同 七日 桃陵師團凱旋歡迎
北滿警備から輝く郷土への凱旋第一陣、本日京都驛着車營に入るに付き内濱にて歡迎す。

同 十三日 詩吟講習會開講
本日より約二週日毎夜約二時間宛詩吟講習會を開催し、青年意氣の助長に資して旺盛ならしめる。

同 二十日 第二次凱旋歡迎
兒玉本部隊長以下の凱旋を第一次同様七條内濱にて歡迎す。

同 二十四日 詩吟講習野外調聲南禪寺境内にて開催
意氣天を衝く大聲は林間を響して十二分の自信を得て散會。

七月二日、四日 市聯幹部講習受講
於本能校、増田副團長、高田理事長、關理事、湯淺理事、角地班長受講。



青年大會に起つ増田君

文具商工青年團

沿革

大正拾參年貳月拾日、時勢の變遷極みなく思想的方面並に人心の激變も亦著しき折柄特に青年層に於ける品位の低下、精神的動搖もゆるがせになし得ざるを痛感し、茲に青年階級の修養的機關とし將又、店員相互の親睦と體位向上の爲め業界識者間有志に於て之の設立を議せり。

同年三月九日、愈々京都文具商青年團と名稱し第一回創立總會を京都府教育會館に於て開催す。青木虎之助氏を團長に推戴、鈴鹿榮氏を常任顧問に、安田健次氏を副團長に推薦し、設立に參刺したる中堅層を以て幹事とし發足せり、團員九十名餘なり。結成以後組合員諸彦の熱烈なる應援と卸業者各位の後援と相俟つて基礎益々強固となる。次で大正十四年團の事業遂行上是非共基本金の必要を認むると共に淨財應募の爲め最高幹部相寄り大阪業者へ寄附金依頼に至る。本團基本金貳千圓也は當時の尊き結晶なり。

せられ春季は體育部により主として身心の練磨に重點を置き夏季は業界閑散期を利用して、主として文具製造工場の實地見學を行ひ、秋季は社會奉仕部を以て立案せられ團員身を以て賣立會を開催、勞力奉仕、淨財を募集、剩餘金を貧民階級の施米に、熨斗餅の贈與等に當て、いはゆる強健なる身體智識の涵養と自己の職分に精通せしめると社會に對する報恩、奉仕の觀念を持つ事により青年期に於ける確固たる信念培養に重點を置き現在に至る。當時、八坂神社に於ける文具賣立會、京都府社會教育課後援の優良文具紹介、映畫會等賞に目覺しき事業中の白眉なりき。

於て實地指導訓練を受ける等其の事業の點に於て救濟事業奉仕に於ても實に目覺ましき時なり。

昭和五年新たに菱田良太郎氏團長に就任黒川二郎氏副團長に就任す。

昭和八年二月、本年を以て本團創立十週年なるを以て茲に滿十週年紀念、事業を計劃先に得たる本團基本金中より五百圓を以て紀念事業費とし、全團員伊勢神宮參拜をなす。

並に創立以來の團關係功勞者各位の慰勞謝恩會を盛大に開催、次で紀念事業として我々青年の最も崇拜せる乃木神社境内へ鑄鐵庫箱五個を獻納以て境内淨化運動の一端として奉仕す。今以て乃木神社繪馬堂に掲ぐる紀念寫眞は當時を物語り居れり、尙ほ獻納せる庫箱は現存す。

同年文具商工組合の設立を見たるを以て從來文具商青年團の名稱を京都文具商工組合青年團に改稱せり。黒川團長昭和九年就任、翌年七月辭任後現團長、石角伊之助團長に就任、數年前より本團も事業方面に於ても稍々沈滞の氣味有りて消極的となりたる感有り、之も社會狀勢の變移に依り如何とも致し難し。之れより専ら從來よりの定

例行事は勿論一層人心の和を以て團務遂行に全力を注ぎ主として團員の體位向上品性の陶冶、奉仕觀念の確立を主眼とし其の練成に努め以て今日に至れり。幸ひ幹事諸氏の絶大なるスクラムに依り益々確實なる業界青年團として相當の古き歴史を有し業界に不滅の業績とを残し本年を以て約二十年を經過せり。

概況

昭和九年度

二月十一日 本團第十一回總會を左記の通り開催す。

- 一、開會ノ辭 原田 幹事
- 一、君が代 全員 合唱
- 一、令旨奉讀
- 一、議長推薦
- 一、事業及決算豫算報告 石角副團長 柏原會計
- 一、優秀團員表彰
- 一、役員選舉
- 一、團長挨拶
- 一、閉會の辭
- 一、晝食

- 一、餘興 レコードコンサート
- 役員選舉の結果左記の諸氏當選
- 團長 菱田良太郎氏
- 副團長 黒川二郎氏
- 同 石角伊之助氏
- 幹事 原田晋一氏
- 他 十名

當日被表彰者（五ヶ年以上勤続役員たる者） 菱田團長 他五名

四月十日 北海道函館地方大火災による義捐金、寄附募集の上大阪毎日新聞社へ委託手續をなす。

五月十五日 本團春季遠足會開催、保津川下りをなし新緑の河邊奔流の飛沫を浴びつゝ景勝を探る。

同 十七日 繁昌神社に於て大廉賣相談會開催、出品者會開催。

六月一日 滿洲派遣軍慰問資金募集の主意により祇園繪馬堂に於て午前七時より午後九時迄大廉賣會を組合後援のもとに舉行大盛況裡に閉會。

八月十五—十六日 本團夏季遠足會開催。A班、B班に分ち江洲青柳に於てキャンピングを開催盛夏の一日を水泳に舟遊びに十分の歡を盡し午後五時歸着解散、參

加入員三十餘名。

十月五日 九月一日突發的大暴風害の慘事に本市小學校兒童慰問資金寄附募集に關し組合員各位へ依頼狀發送。

同 十日 本日を以て先に依頼せる風害による罹災兒童慰問金の締切をなし總決算をなす。

合計高壹百七拾壹圓參拾錢也

同 十四日 菱田團長募集寄附金壹百七拾壹圓參拾錢也を風害罹災兒童慰問金として市役所へ寄附委託す。

同 十五日 石角副團長大廉賣會に於て得たる純益金五拾圓也を師團司令部に持參し派遣軍慰問の一端として獻金す。

同 二十日 本市聯合青年團の大會に黒川副團長出席。

十一月一日 東北地方早拔大饑饉に際し、本團員行商に依る純益金五拾圓也を大阪毎日新聞社へ慰問金として委託せり。

同 十日 本團副團長黒川二郎氏多年の功勞者として、聯合青年團より模範彰を受く。

附記 本年度秋季遠足會の件は各地方不幸被害續出により經費を全部其の方面へ寄附したる理由により取止

む。
八年度決算、豫算は之を略す。

◆昭和十年度

二月十一日 本日紀元節の佳日とし昭和十年度總會を建國に最も意義深き樺原神宮参拜を以てなす。
夜來の天候氣づかわれたれど當日快晴、京都驛廣場集合奈良電にて目的地着、一同参拜、神前にて心からなる國家の安泰を祈念し國運の進展を祈る。時あたかも御勅使参向にて標を正して拜觀、軍人會青年團の参拜ひきまきらす、實に神國日本の御凌をしのび奉る。

公會堂横に於て一同整列、野外に於て總會開會、緊張裡に事業報告、會計決算、役員選舉等無事全部の順序を終へ最後に團則一部修正案及び本年度より辭任せられたる菱田團長に對し記念品贈呈の件を可決し十二時頃終了、晝食後敵傍御陵に参拜、午後三時過ぎ歸着解散せり。
當日役員選舉の結果左記諸氏本年度役員に當選。

團長 黒川 二郎氏
副團長 石角伊之助氏 原田 晋一氏
幹事 柏原氏(松森商店) 松川氏、

他十名當選。終つて役員互選の結果本年度正副團長左記の諸氏推薦せる。

團長 石角伊之助
副團長 原田 晋一
同 松川 信一

次で本年度總會決議の推薦による多年本團に功勞有りたる前團長菱田良太郎氏を名譽團員に推薦せり。終了後文之助氏の餘興に入り、一同抱腹絶倒和氣瀟々裡に散會午後三時半なり。

五月十五日 本團定期春季遠足會を開催せり。山中越へにて近江路に入り全員二十數名新緑滴る比叡の山腹を縫ひ頂上にて一同晝食實に眺望絶佳、かすむ琵琶湖を隔て、遠く見へる彼岸の景眼下には、大津市の展開せる有り氣持も亦雄大なりき。

徒歩にて坂本に至り日吉神社に参拜。神苑の清流にしばし疲勞を憩ひ汽船にて大津着、午後五時頃三條京津停留場にて散會、一日の清遊楽しく過せり。

六月十四日 本團主催、京都文具商工組合後援のもとに一般需要者各位に業界に於ける代表的商品の製造工程を理解して頂き、且又本業界主接販賣の方々に對し一

熊木氏、中村善氏、中村立氏(水谷)、廣島氏(大新堂)、野澤氏(中要商店)、苗村氏(鈴鹿一飄軒)

二月二十日 本團創立以來より幹事として副團長、團長として多大の功績を残し今回辭任せられし菱田良太郎氏に對し、本團より記念品を贈呈し、一夕の晩餐會を催し慰勞謝恩會を開催せり。

六月三日 春季遠足會を開催、今回は一度通例の型破り桂川河畔に於て一日の歡を催す。一同糸を垂れて魚釣りに興づなかり、思ふ様に釣れず難魚一疋さへかゝらず閉口頓首。

野球戦に角力にはちきれそうな元氣、五月晴れの空に一行の爆笑こだまする。根よき人々未だ魚に餌ばかり與へて自分は疲勞の體なり。これも精神集中の一修養とかにて……
やがて出来る、フライ、カツ、河原に於いての野外料理、あまりの美味が食料品不足、お蔭様にて役員一同晝食抜き空腹にての使ひ歩きには少々弱れり。
青年團ならでは見られぬ料理振りなり。黒川團長のコック振りは又格別の手腕な

解優良商品の認識を深めしめる意義のもとに於て、日出會館に於て大映畫會を開催せり。午前九時開會の豫定の處早や定刻前超満員の盛況にて立錫の餘地なし。午前午後、二回に互りて映寫す。來會觀覽者二千名に達す。午後五時觀覽者各位に十分の満足を得つ、無事終了、大混雑にて會場係汗だくの體なり。さしも右計劃に際しては却々の大事業なりしも幸ひ各製業者並に組合員各位の深甚な御援助により大盛況のうちに意義有る事業を遂行出来得たる事を紙上筆末乍ら謹んで敬意を表す。

八月十五日 本團夏季遠足會開催、近江舞子に一日の快を得、共に身心の鍛錬にもと兼中目的地に向ふ。
濱大津より乗船、船中なか／＼の混雑なりき。團員一同談論風發意氣當るべからず。

白砂青松風光明なる舞江舞子着。午後三時半迄自由解散。水泳に珍野球戦に夏の暑さも物かは、吹飛して若人のエネルギーを思ふ存分發散せり。大量得點の野球戦、算盤なくては計算も出来ず。笑止千萬續々ヒザ坊主すりむく負傷ナイン續

りき。四時一同元氣旺盛軍歌行進にて歸途に就く。
各位にお断り。

◆昭和十一年度

二月十一日 紀元節の佳日とし本團第十三回定期總會を京都驛前奉公館に於て開催す。當日六花粉々として舞ひ積雪二寸餘滿目白晝々、朝陽燦々として氣自ら快なり。午前九時柏原幹事開會の辭を宣し左記の順序に依り總會を開催す。

總會順序 司會者 松川副團長
一、開會之辭 柏原 幹事
一、君が代
一、令旨奉讀
一、團長挨拶
一、議長推薦
一、事業並に會計報告 原田副團長
一、議事
一、役員選舉
一、閉會之辭
一、餘興 以上
上記のプログラムにより正午過ぎ閉會す會計報告及團則修正案等に就き二三應答有りたれども全員異議なく可決。選衛委員制によりて役員選舉に移り、柏原幹事

出何分裸體のチーム、文青ならでは行へず。午後五時十分の名残を惜しみつゝ汽笛一聲薄暮の濱大津着。

十月二十二日 秋季定期遠足會開催。本團多年懸案中の岡部瑠璃溪行を決定せり。秋晴れの一日二條驛集合。來會者三十數名、岡部驛着徒歩にて目的地に向ふ。未だ紅葉には早けれども田舎の風景又加一人の趣有り。元氣一杯進む。目的地迄未だ前途遠し。元氣愈々加はるたゞ進む。瑠璃溪入口の道標に達す。行けども未だ達せず。そろ／＼各人の歩調亂れ始め愈々亂軍の體なり、一抹の苦痛の色さへ加はる。正午目的地にヤット着す。空腹加はりて初めの元氣も何處へやら、晝食後元氣回復。

天下の名勝……實に奇観名勝其の名に恥ぢず。自然の偉大なる力に一同驚歎す。川沿ひに奥瑠璃溪の探勝に至る。奇岩清流岩を噛み滴水銀線を走るかと思れば飛沫となつて散り瀑々として岩に懸る。奔流する水今更乍ら自然の造化の妙に神祕に深く頭を垂る。四時バスに乗車歸路に着く。

十一月二十二日 午後七時より昭和圖書館

に於て村井寅次郎氏を講師として修養會を開催。我々店員として且又青年として最も意義有る一夕の講話を拜聴、一同何物かをしつかり把握しつゝ、有益なる時を費す。以て本團目的の修養會を閉會。

◆昭和十二年度

二月十一日 丸太町東洋亭に於て昭和十二年度第十四回總會を開催す。

午前九時三十分開會、團員出席者四十七名盛會裡に終了せり。本日組合長村山氏臨席有りて一場の訓話あり一同之を拜聴せり。

本年度役員選舉の結果、左の通り決定せり。

- 團長 石角伊之助
- 副團長 原田晋一
- 同 松川信一
- 幹事 熊木賢一
- 同 柏原一二三
- 同 苗村昌一
- 同 廣瀬元三
- 同 熊澤萌生
- 同 中村泰三
- 同 安井康二
- 同 近藤徳治郎

五月十五日 本日春季遠足會開催、午前八時京都驛前集合三十九名、奈良に至りて開化天皇御陵參拜後古梅園製墨工場を見學。若草山登山後あやめ池に至り六時京都驛歸着。

八月十三日 市聯合青年團臨時大會開催の爲め、本團より十一名出席之れに參加せり。

十月十五日 本日午前八時半集合の上國威宣揚皇軍將兵武運長久祈願の爲め石清水八幡宮へ參拜恭しく祈願式を舉行せり。

十月十日 秋季遠足會開催、午前七時四十分京都驛前集合、石山驛下車、建部神社に參拜武運長久を祈願し湖南アルプスに登山す。元氣旺盛午後四時歸着、解散せり。二十八名出席。

十一月十日 市實業聯合青年團結成五週年記念式を伏見稻荷神社に開催さる、本團も役員全部參加出席せり。

十一月十日 本日獨伊防共協定成立並に太原陷落祝賀會大提灯行列に參加せり。

十一月二十一日 本日修養會を變更の上鞍馬寺に於て出征團員諸氏の武運長久祈願を舉行せり。歸途貴船神社に參拜、出席團員署名の上、出征團員並に入營團員十名

に對し國旗を贈呈、現地へ送附せり。

十二月十二日 中川要商店中川要之助氏死去致されたるに就き本團より供花を捧げ弔意を表し會葬、役員全部出席せり。

同日 聯合青年團南京陷落祝賀提灯行列開催に際し、本團より代表出席參加せり。

◆昭和十三年度

一月六日 本團員高橋竹一君吳海兵團入團に際し之を京都驛に歡送せり。

一月十五日 伊勢大廟參拜に參加國威宣揚 出征將士武運長久

我帝國無敵皇軍の輝やく連戰連捷の快報に舉國感激と昂奮の最中に清々しく明け

た昭和十三年、銃後の護りは協力一致團結によつて日進月歩彌々強化され國民精神總動員は趣旨を克く體し、各般に互り敬神崇祖を著々實行されつゝある昨今、我本團は實業聯合青年團に參加して事變下最有意義なる皇祖天照皇大神宮へ參拜した。然も勇壯にして活潑なるブラスパンドの列に配し、その奏曲に歩調を合して一大行進の豪華繪巻を神都伊勢の地に繰り展げた記念すべき日。

一行の來京に付き熊木幹事京都驛へ歡迎す。

二月十一日 京都市聯合青年團建國祭式典舉行(於御苑内)。

同日 第十五回總會を開催す。午前九時平安神宮前に集合、參拜後東洋亭に於て總會を開會。出席者四十七名。無事終了後一同朝榮會館に至りてニュース觀覽後、午後四時前解散せり。

本年度役員氏名左記の通り。

- 團長 石角伊之助
- 副團長 原田晋一
- 同 松川信一
- 幹事 熊木賢一
- 同 苗村昌一
- 同 柏原一二三
- 同 中村立藏
- 同 中村泰三
- 同 高野甚造
- 同 鈴鹿正秋
- 同 熊澤萌生
- 同 安井康二

四月十四日 市實業聯合青年團幹事會、熊木幹事出席す。

五月十五日 春季遠足會開催、午前八時新

京阪電車にて攝津耶馬溪に至る。新緑のハイキングコースを辿りつゝ午後一時目的地着午後五時富田より乗車の上五時半歸京解散せり。

六月二十日 徐州陷落祝賀提灯行列に參加す。

六月十七日 標原神宮二千六百年祭神宮擴張工事勤勞奉仕に安井幹事及團員一名參加す。

七月二十四日 市實業聯合青年團幹事會に熊木幹事出席。

七月二十八日 京都府青年團臺帳調査發送す。大日本聯合青年團宛特殊青年團調査臺帳發送す。

七月三十日 皇陵參拜、大阪西方面十八皇陵巡拜、熊木、高野代拜す。

八月二十四日 三日間 神戸地方大水害復舊勤勞奉仕隊に參加、三日間本團より高野、松川、原田、安井、石角、熊木諸氏參加出席せり。

八月六日 實業聯合青年團團體訓練施行に際し三日間本團も之に參加、十名出席せり。

八月十四日 市實業聯合青年團陸上競技豫選會に熊木審判委員として出席す。

九月一日 實業聯合青年團稻荷神社參拜當番に就き八名出席參拜せり。

九月八日 聯合青年團青谷傷痍軍人療養所建設地開拓作業勤勞奉仕隊に參加、本團より十一名出席、終日作業に従事せり。

十月一日 實業聯合青年團春季稻荷神社代參に付本團幹事十名出席す。

十月十六日 本日午後一時岡崎公園に於けるヒットラリーユーゲント日獨交會會に出席せり。

十月二十二日 本團秋季遠足會開催、午前八時四條大宮嵐電前集合、愛宕山を経て水尾へ至り清和天皇御陵に參拜後嵐山に出で午後四時半歸着せり、參加三十八名

十一月十日 市聯合青年團國民精神作興詔書喚發十五週年青年大會を御所御苑内に於て開催、續いて行進して圓山普樂堂に於て青年大會を開會こゝに於て本團副團長原田晋一氏は市長より模範章を授與され本團の名譽を高めたり。

十一月十八日 修養會を變更の上今回青年團大會に於て秩父宮殿下より賜りたる御言葉傳達式を舉行、桃山御陵、乃木神社に參拜の上午後二時解散せり。

兵庫縣下の水害に

勤勞奉仕團員として

熊木賢一

これは昭和十四年度の事業中大書すべき大事件に付き一つの文作として其の當時書残した愚文を書入れて事業報告の頁と致す次第なり。

猶役員改選ももなつた事なれ共も往年の意氣と機構の轉換に付き青年團の歩みの指針を變へて来た故、屋上屋をかすかの如き事業報告式を省略す。

變り行く、時潮の流れは實に日進月歩ではない。刻々秒々と變化にとんで来ると共に大自然の勃發は實に一瞬にして人間界の大發見大發明をも倒壊してしまふ。而し又之に對する再度の創造力は實に超然と自然に對抗し抗爭して研究される。

此の秋、外には聖戰を進めて皇軍四百餘州を捲巻しあり、内には國民統後の活動に萬全を期し以つて出征將兵をして聊も後顧の憂なからしむる事現下喫緊の要務であり、特に私達青年團は其の發生の歴史に鑑み奮然起つて災害勤勞奉仕し一日も速かに之が復興に協力せなければならぬ。此の時大日本聯合の指令にもとづき京都市實業青年團三百名の勤勞奉仕團派遣となつた。

に見る悲惨事を眺めた瞬間私達は勇然として五體に漲る熱と意氣に「ヤルゾ！」と同胞の爲めに「吾が國の爲めに」と力強く叫んだ。

書籍雜誌商青年團

創立の歴史

大正七年各學區一單位として青年團が組織され、それ迄各町に若業連或は若連中となへ氏神様の祭禮火事場の手傳等其他種々なる仕事に依り其存在を認められて居りし、青年連も青年團として結成し發足し其目的も奉仕的職業と修養的、體育的職業も取入れ順調に發展す、其後京都市に於いても青年團の必要を認め且統制連絡を計る爲事務所を市役所内に置き、京都市聯合青年團の結成を見る、其後京都市より未組織の學區に青年團の結成を命じ、全市學區に殆ど其結成を見、世間より發展を注目するに至る。其頃我が書籍雜誌商組合に於いて前京都市會議員にして京都市功勞者で、我組合の時の組合長東枝吉兵衛氏及結團後初代の團長と成りたる一井利嘉藏氏其他組合幹部數名の初議にて學區青年に對する職業の青年團即ち健全なる第二の組合員の養成店員の修養機關として全國最初の實業青年團の創立を見るに至つた。其の結成式を大正九年十月十八日午前九時三十分、岡崎市

公會堂東館樓上に於て京都書籍雜誌商組合青年團の結成式を舉行せり、その當時の式次が次の通りであつた。

- 開會の辭 組合長 東枝吉兵衛
團則發表 同
役員選舉
此の席上で詮衡委員の水口松之助氏より幹事十名の氏名發表あり、次いで團員の指進とも云ふべき左の規約を定む。
規約
第一條 本團ヲ京都書籍雜誌商組合青年團ト稱ス
第二條 本團ハ組合員ノ家族及店員ヲ以テ組織ス
第三條 本團ノ事務所ヲ京都商業會議所内、京都書籍雜誌商組合内ニ置ク
第四條 本團ノ目的左ノ如シ
一、人格ノ修養
一、智識ノ涵養
一、身體ノ鍛鍊
一、各員ノ親交
第五條 本團ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
一、學識經驗アル名士ヲ招聘シ講話會ヲ開催スル事
一、庭球、野球、其他各種競技、登山遠足等ヲ行フ事
一、右ノ外臨機有益ト認メラレタル事
第六條 本團ヲ二部ニ分テ市部ヲ第一部トシ郡部ヲ第二部トス
第七條 本團第一部團員中滿二十五歳以下ノ者ハ京都市聯合青年團ニ加入スルモノトス
第八條 本團經費ハ寄附金及補助金ニヨリ之ヲ支辨ス
第九條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク
一、團長一名、副團長一名、顧問若干名、幹事若干名
一、幹事ハ團員中ヨリ選舉シ團長及副團長ハ幹事會ニ於テ團員及ビ贊助員中ヨリ之ヲ選ビ顧問ハ組合役員之ニ當ル
第十條 本團役員ノ職務權限左ノ如シ
一、團長ハ團務ヲ統轄シ團ヲ代表ス。
一、副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス
一、顧問ハ團長ヲ補佐シ其諮詢ニ應ジ評議協贊ス
第十一條 組合員ハ本團ノ贊助員トス

第十二條 贊助員ハ本團ノ旨意ヲ賛成シ

事業ノ後援ヲナスモノトス

第十三條 職員ハ名譽職トス任期ハ一年トシ再選ヲ妨グズ、但シ特ニ費用ヲ要スル時ハ實費ヲ給ス

第十四條 毎年一回總會ヲ開ク、但シ團長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時總會ヲ開ク事アルベシ

第十五條 總會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、規約ノ改正變更ニ關スル事

一、庶務會計ニ關スル事

一、其他團長ニ於テ必要ト認メタル事

第十六條 會議ハ團長之ヲ召集シ議長ハ團長之ニ當ル

第十七條 會議ノ決議ハ出席團員ノ過半數ニ依ル可同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十八條 本規約ハ總會ノ決議ヲ經ルニアラサレバ變更スルコトヲ得ズ

毎年團員の鍛錬として盛大なる大運動會を開催せり。大正十二年の東京大震災に對し市聯合青年團事務所市役所より慰問袋を調製發送せよとの通知に、速刻當時の三宅副團長は山中幹事と協力して之が爲に奔走

し五拾圓を得て高島屋より五拾錢の慰問袋作製し百ヶを整へ發送せり、尙關東大震災に困る罹災者にして入洛下車せるものを救護するの目的に關し奔走せり。

翌年顧問より講話を聞き修養なせり。其後の指導方針等總會席上にて盛に論議を交した。越へて昭和四年六月上旬 天皇陛下には關西行幸遊ばざるに就ては大坂に於て青年團等に御親閲遊ばざる其の爲豫行演習を伏見深草練兵場にて行ひたり。

同年六月五日 天皇陛下には大阪城東練兵場に於て在郷軍人、青年團を御親閲遊ばざる。越へて九月に臨時會議を開き内部組織刷新せり。迎へたる十月は本團創立十周年に相等し之が爲め記念式を舉行せり。

同五年一月十一日、本團員一同は伊勢參宮をなせり。

同年十月、東京に於て 天皇陛下全國青年團御親閲遊ばざる。本團より當時役員列席す。次いで事業として記念樹など植へ又青年の修養等々にも年過ぐると共に力を入れた。かくて今年に至り二十年の歴史を有し、且又全國に本組合青年團は京都にのみ存し唯一のものとして君臨してゐる。現在

では舊來の規約にも一部修正を加へ着々と今日では其の方針も新體制下にもとづき本年の奉祝紀元二年六百年には本團事業として國旗の額を掲げるに決し、尙又大政翼贊運動には參加せり、よつて現今に至つてゐる。

歴代團長	一代 一井利喜藏
	二代 山本錦次郎
	三代 高井榮次郎
	四代 桂大槻庄太郎
	五代 大槻庄太郎
歴代副團長	一代 片岡國三郎
	二代 桂中西常次郎
	三代 狩野兵太郎
	四代 大槻庄太郎
	五代 三宅信久
現在幹事	岡 三義
	中山 米藏
	西野 久夫
	清水 弘
	山田 房吉
	松井 兼一
	堀田 佐一郎
	若林 正雄

蠶絲青年團沿革

本團は明治四十一年十月設立したるものにして當時は日露戰役後未だ日淺く且時代の進運に伴ひ思想界經濟界共に混沌たるものあり。

畏くも 明治大帝に於かせられては其の前年十月戊申詔書を賜ひ國民精神の作興を念慮し賜ひし秋なりしを以て、我が京都蠶絲商業界に於ても其の子弟の調育に憂如たり得ず、聖旨に副ひ奉り以て業界の向上發展を計る爲め店員獎勵會なるものを結成したるものなり。爾來歳と共に發展し來り現今に於ては會員四百八十名に及べる狀況なり。

尙大正十二年九月の關東地方大震災の實狀に鑑み同年青年團中に京蠶義勇團なるものを組織し、爾來昭和御大典に屢々の御行幸啓に際し御警衛に奉仕し奉るの外、天災時暴風水害被害等に於ても刮目すべき活動を爲しつゝあり。

事業概要

昭和十一年度

四月二十五日 定期總會並に講演會開催、昭和十年度事業大要、決算及十一年度豫算役員改選報告其他義勇團經費決算等講演歩兵中佐上住良吉殿。

同 二十六日 春期遠足會舉行、南山城笠置舊蹟探勝參加人員百四十三名。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 幹事會開催(講話講習會の件)。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

同 二十三日 市聯合團長總會開催の爲め堀場幹事長格致小學校へ出席なす。

三月二十九日 講話會開催(講師歩兵大佐 佐藤吉雄殿餘興浪花節講談廣澤水月君)

昭和十二年度

五月七日 定期總會開催、昭和十一年度事業大要、決算及昭和十二年度豫算役員改選報告、餘興琵琶竹内旭鈴師。

六月五日 幹事會開催。

同 八月 皇太后陛下奉迎の爲め林幹事出場塔列なす。

同 十二月 講話會開催、講師木村瀧藏氏 餘興レコード演奏。

同 二十日 伊勢參宮舉行、參加會員三〇七名、午前六時半驛前集合、午後六時四十五分歸着解散なす。

八月十九日 大日本青年團計劃飛行機獻納資金及市聯合團計劃出征將兵家族救護資金募集の件に付各會員へ依頼狀發す。

同 二十六日 出征將兵家族救護資金募集の結果精算會開く。

九月十日 實業聯合團へ家族救護資金納入なす。

同 十六日 北支事變慰問義金實業聯合團へ納入なす。

同 二十六日 京都實業組合聯合會主催國威宣揚提灯行列舉行に付參加出場なす。

十月二日 飛行機獻納資料雜誌古新聞等日本青年團へ送付の爲め梅小路驛迄持参す。

同 五日 京都招魂祭舉行に付岡崎平安神宮へ堀場、小島兩幹事、淺田正團員の三名代表として参拜なす。

同 七日 久瀨宮殿下御喪儀御舉行に付藤川副幹事長代表として参列なす。

同 日 講話會開催、講師東本願寺特派 慰問使細川修氏。

同 十七日 三十周年記念式並に出征將兵武運長久祈願祭舉行。北野神社に於て參加者百八十一名。

同 二十四日 三十周年記念功勞者感謝狀贈呈式並に役員物故者追悼會舉行す。

十二月十一日 入營者歡送式並に講話義士會開催。

一月元日 午前九時より十時迄事務所階上に於て新年祝詞交換會開く。出席者二百十三名。

一月二十七日 獨逸青少年團代表シユルツエ氏講演會の爲め堀場、中垣内、村木、各幹事、田村、竹村兩正員堀川女學校へ出席す。

二月十一日 午後一時、今宮神社御前に於

て本會旗新調。

昭和十三年度

四月二十七日 定期總會開催、昭和十二年度事業大要、決算及昭和十三年度豫算役員改選報告、餘興琵琶及滑踏萬歳。

五月一日 幹事一同本會代表して應召會員 歡送なす。

同 二十二日 春期遠足會舉行、參加會員百六十九名、榎原神宮、祓傍御陵、長谷寺参拜、午前七時半集合、午後五時四十五分解散す。

六月二十六日 臨地講演開催、一乘寺圓光寺にて講演參加者五十六名、午前八時集合上加茂神社にて武運長久祈願の後、松ヶ崎を経て一乘寺へ詩仙堂遺跡其他舊蹟探勝午後三時歸所。

七月二十四日 當日より三日間七月二十六日迄神戸地方水害地復興勤勞奉仕の爲め聯合青年團へ參加出場勤務す。

九月一日 午前七時集合、實業聯合團稻荷神社参拜當番の爲め堀場、林、岩谷、村木各幹事伏見稻荷神社へ参拜出場なす。

同 二十一日 風致區變更願書京都府知事へ申請なす。

同 二十二日 講話會開催、講師大西良慶

老師。

同 二十三日 第三十一回陸上運動會審査員會議午後五時より開催す。

十月十一日 午前八時集合伏見稻荷神社臨時祭武運長久祈願参列の爲め代表として堀場、中垣内、廣瀬各幹事参拜出場。

同 十七日 第三十一回陸上競技會岡崎公園グラウンドに於て開催(出場者三百五名)

十一月十日 市聯合團主催國民精神作興詔書發給十五周年式並に御大禮記念奉祝滿十周年式に参列の爲め代表として山本幹事、藤永、福山、清水、田村、山田の五正員出場參加す。

同 十四日 入營者歡送式並に講話會開く(講師松本正男先生)

十二月十七日 講話會並に義士會開催、講師昆尼薩台諒師、餘興、義士會、琵琶竹内旭鈴師。

一月元日 午前九時より十時まで事務所階上に於て新年祝詞交換會開く(出場者百八十二名)

同 二十二日 桃山御陵参拜並に伏見稻荷神社参拜皇軍武運長久祈願(參加者三十八名)

三月三日 實業聯合青年團へ招魂社燈籠獻

納金提出す。

昭和十四年度

四月八日 講演會開催、於天龍寺僧堂。

五月十一日 定期總會開催(昭和十三年度事業大要、同年度經費決算及十四年度豫算、役員報告、餘興、詩吟、劍舞及琵琶)

同 二十日 北滿中支慰問團歸郷歡迎の爲め午前九時代表として堀場、小島、正副幹事長京都驛へ出頭。

同 二十一日 春季遠足會舉行(參加會員百四十八名(西ノ宮廣田神社参拜後、博覽會見學、午前八時集合午後五時解散)

同 二十二日 當日より二十三、二十四、(三日間)京都市より囑託により道路交通情勢調査の爲め午前六時より午後八時迄出場勤務なす(出場者田村、藤永、藤本金井、豊田、福島の各正會員六名)

六月十一日 午前八時集合體位向上團體訓練精神修養の趣旨により徒步行軍舉行。(出場參加者三十八名、山中越大津三井寺参拜、途中神社佛閣舊蹟探勝)

同 十五日 滿蒙渡滿義勇軍歡送の爲め代表として、小島副幹事長京都驛へ出場なす。

七月三日 市聯合青年團より豪帳調査會に

對し回答書送る。

同 十六日 午前七時集合、體位向上團體訓練精神修養主旨により徒步行軍舉行す。(出場者二十六名、龜岡、保津川畔、舊蹟探勝嵯峨迄午後四時十分解散)

八月一日 團長講習會開催の爲め堀場幹事長出席。

同 九日 青年團事業問答の爲め大日本青年團指導部根津氏及市實業青年聯合團長川端氏來所あり。

同 十七日 聯合青年團より團體訓練開催通知來る。

八月二十三日 出征中の各務吉三氏、谷眞一氏兩君歸還に付挨拶に來所。

同 日 青年團經營研究會開催、出席者實聯青年團へ報告書出す。

同 二十七日 夏期臨地講演會開催(午前六時半集合、洛東清水寺朝參後同寺管長大西老師の精神修養談拜聴、朝食後護國神社参拜終了隨意解散、出席者五十三名)

九月二日 支那事變犠牲者慰靈祭舉行に付本會代表として堀場、小島、市田の各幹事岡崎公園祭場へ出場参列なす。

同 二十二日 第三十二回陸上競技會審判員打合會開催す。

- 同 二十六日 興亞青年勤勞報國隊歸還に付歓迎の爲め堀場、外田、小笹各幹事出場なす。
- 同 二十七日 運動場使用の件に付政田事務長市地理課へ出頭なす。
- 同 三十日 興亞奉公日勤勞奉仕の件に付市聯合青年團より通知来る。
- 十月一日 京都市青年團主催榎原神宮勤勞奉仕隊参加員出場なす。
- 同 三日 市運動場借入の件に付政田事務長市地理課へ出頭なす。
- 同 十日 京都市長より岡崎運動場使用許可書来る。
- 同 十八日 第三十二回陸上競技會岡崎公園グラウンドに於て開催(出場者二百八十名)
- 同 二十一日 午後一時より組合事務所に於て第三十二回競技會精算會開く。
- 十一月十六日 入營者歡送式並に修養講演會開く(講師淺岡信道氏)
- 同 日 修養會並に義士會開く(義士會餘興琵琶竹内旭鈴師、講話宮川花月氏)
- 十二月二十八日 市聯合團主催桃山御陵參拜の件通知来る。
- 一月元旦 午前九時より十時まで事務所階

- 上に於て新年祝詞交換會開く(出場者百九十七名)
- 二月五日 幹事會開催(修養會の件、皇紀二千六百年紀元節奉祝式の件)
- 同 十八日 修養會開催(午前八時半集合水無瀬神宮參拜、出場者三十二名)
- 三月五日 幹事會開催(修養會の件、陸軍記念日に關する件)
- 同 十三日 修養會並に見學舉行に付き林副幹事長政田事務長同伴二條離宮及京都放送局へ出頭なす。
- 同 十七日 午前九時半集合二條離宮拜觀舉行なす(出場者六十四名)
- 昭和十四年度
- 京警義勇團事業大要報告●
- 五月二日 午前七時集合市聯合團主催護國神社參拜舉行に参加、出場者十一名、九時半歸團なす。
- 六月一日 午後四時獎勵會々員大塚商店虫鹿光伸君應召出發の爲め出場歡送なす。
- (市田指揮長外八名)
- 同 十三日 午前六時集合、獎勵會員水田商店田村篤君應召出發の爲め出場歡送なす(市田指揮長外十四名)
- 同 十四日 滿蒙義勇軍渡滿部隊歡迎並に

- 壯行會參列出場(市田指揮長外六名)
- 七月八日 入團式舉行(本部階上に於て、第十四期入團員十九名)
- 八月十二日 豫習會開催(京都御所に於て出場者二十二名)
- 同 十八日 京都實聯青年團主催團體訓練參加の爲め午後七時集合、龍池小學校校訓場へ出場(市田指揮長外十四名)
- 同 十九日 同上(市田指揮長外十六名)
- 同 二十五日 午前六時十分集合、獎勵會員帝國燃絲京都支店西尾仙一君應召出發の爲め歡送なす(市田指揮長外十八名)
- 九月一日 午前六時集合、興亞奉公日(第一回)事業遂行、護國神社へ皇軍武運長久祈願の爲め參拜なす(出場者市田指揮長外十八名)
- 同 三日 夏期行軍舉行(午前七時集合、市田指揮長引率にて攝津四條岬神社、成田不動尊參拜の爲め出發、午後四時十分歸團なす、出場者二十五名)
- 同 六日 午前六時集合、獎勵會員中野克己君應召出發の爲め歡送す(市田指揮長外十五名)
- 同 十五日 午前九時集合、獎勵會員廣瀬商店廣瀬義三君應召出發の爲め歡送なす

- (市田指揮長外十四名)
- 十月十八日 午前九時集合、獎勵會第三十二回競技會役員補助員として勤務なす。
- 十一月四日 午前七時半集合、獎勵會員大槻商店小見山四郎君應召出發の爲め歡送なす。
- 同 六日 午後四時集合、獎勵會員田中商店鈴木守義君應召出發の爲め歡送なす、(市田指揮長外八名)
- 同 二十三日 秋期行軍舉行、午前七時半集合、市田指揮長引率にて攝津總持寺、勝尾寺方面舊蹟地探勝午後五時歸團、出場者十五名)
- 一月三日 午前七時半集合、恒例の市聯合團主催桃山御陵參拜引續き實業團稻荷神社參拜後團員授賞式(參加出場者六名)
- 同 二十八日 午前六時集合、聯合團主催炭燒勤勞奉仕の爲め市田指揮長引率にて山科現場へ出場す(參加者十三名)
- 二月十一日 午前六時二十分集合、市聯合團主催建國二千六百年奉祝式典參加の爲め市田指揮長外十名出場なす。

記念史刊行に就て

幹事 大槻庄太郎

皇紀二千六百年を記念するため我實業青年團に於いては記念事業として伏見稻荷神社への獻木及本團の團史の編纂發行と二大事業を行ふ事に決定し前者は既に完了し次で團史發行に取掛る事に成り不肖常務幹事拓植部長の重職を汚す一人として茲に駄文を草する次第である。

御承知の如く本團は昭和八年に結成し其加盟團に於いては三十有餘を算へ形態たるや同業組合商店繁華街工場の青年團と。各種各業を網羅し全國唯一の實業青年團である。各單位團にはそれぞれ古き歴史と特長を有し中には百年餘りの歴史を有して居る團もある。

其單位團の事業たるや勿論、大日本青年團京都市青年團の指示の事柄は縦の事業として參加從事し横の事業としては地區的青年團即ち學區青年團と其趣を異になし善良なる商人即ち完全なる公民の養成を旨とせる職業指導或は販賣の研究又は人格の陶冶の修養的職業等を取入れ職業と青年運動を不離一體の關係に置きて活動致して居る次第である。

實業青年團に於いては結成以來團長幹部及單位團長各位の絶大なる努力に依り發展の一路を辿りつゝも前の團長比賀江氏の辭任に依り昭和十四年一月、川端道一氏の團長就任を願ひて茲に陣容を整へ内容を一新し其名も實業聯合青年團を實業青年團と改稱し川端團長の卓絶せる指導方針と幹部各位の熱心なる御盡力により新體制下の時局に即應の體勢を整へ戦時下青年團運動に邁進なし居る次第である。

新京極青年團 沿革

今や新京極の中樞機關として新京極の發展に幾多の貢獻をなしつつある新京極青年會は之が創立當時を回顧せんか、大正四年秋季畏くも 大正天皇御即位の大典を行はせられ給ひ同年十二月一日より翌五年三月三十一日に至る間、御式場跡の拜觀を一般に許可さるゝに及び、全國より京洛を旨指して集る者三十六萬七千三百五十八人を算し、之等の人々は擧つて新京極に足を運ぶといふ状態にて新京極開通以來未曾有の出入を醸した。従つて新京極各商店の賑ひは全く豫想以上で大繁忙を極め、連日連夜の活動は多くの店員諸君を疲勞せしめた。茲に於て鑑みる處あつた店主側はその勞を謝す意味の下に新京極店員慰勞運動會の開催を企圖し、種々店員等と協議を重ね考究して來た。

之より先、河原國二郎、奥井榮二郎、澤田利三郎、川島清太郎、西田惣太郎、堀部徳太郎、濱口重治、土岐敬三、小川涼吉、池田龜太郎、上田仙の諸君、其他數名の少壯連は青年會の意味にて機會ある毎に集會をなして居た。この會合は時代的覺醒であ

り、頗る合法的な事であると平常から厚意を寄せて居たのが田中辨之助氏である。偶々慰勞會開催の議が巷間に傳へられるや、之等青年派と田中辨之助氏は相語り熟議の結果、御大典記念新京極店員慰勞大運動會と銘打つて之が壯擧を大正五年秋季に東山眞葛ヶ原に於て華々しく決行した。

而して此催しを決行する前夜、某老人は「潜越至極だ若い者のする行動ではない、思想變りする事は未だ早い云々」と之が開催反對意見を持出し、老人派と青年派は相反目するの重大事を惹起するに至つた。この容易ならぬ空氣が慰勞運動會前夜のことに、青年派は極度に緊張し、萬全策を講じ空氣緩和に奔走した。この時、土岐敬三並に田中辨之助兩氏は相語り元老河原國藏氏を訪問して極力諒解に努め「明日の運動會には是非共先輩諸氏の御出席を乞ふ」と懇談に懇談を重ねた結果、老人側に於ても二三の有志と協議の結果「無條件にて明日の運動會に出席する一旨の回答を得た。時恰かも鶏鳴曉の午前四時、かくて一悶着を起した新京極店員慰勞運動會は漸く相互の融和する處となつて開かれたのである。當日の役員は老年、青年兩派から選ばれ、相協調

してその擧を盛んならしめ、且つ田中辨之助氏は萬事を圓滑に斡旋して終始愉快にもも有意義に終らしめた。更にこの日の優勝者には報知新聞より寄贈の銀時計を贈呈した。優勝者は中筋町の井上學憲君であるが運動會終了後新京極各町では君の優勝を祝して祝賀會を催し多大の意義をあらしめた

其後各町より新京極に青年會の組織を翹望するに至り種々考案の結果、各町の贊成を得て思想善導、社會奉仕、體育獎勵、商道研究等の目的を持つて、會則を設定し聯合組合と密接な關係を有する新京極青年會は茲に目出度産聲を完全に揚たのである而して會長に水谷政二郎君を推戴した。之幾多の悩みを経て漸く生れた新京極青年會の創立當時である。引續き法學博士添田壽一先生を迎へ河原町京都俱樂部に於て經濟講演會を開催して歴史の第一頁を印した、かくて京都實業界に新京極に青年會の存在を知らしめたのである。

翌大正六年、報知新聞社員野々山義成、黒澤敬太郎兩氏の盡力で報知新聞社より會旗の寄贈あり、即ち五月二十三日岡崎公園に於て會長土岐敬三君指揮の下に第二回運動會を開催する際之が會旗の入魂式を舉行

した。同時に報知新聞社名義の優勝旗を田中辨之助氏より贈らる。

大正七年には内務省より各都市に青年團を設置する事を京都市當局に通告があつた時の市長安藤鐘助閣下は早速視學嚴西眞乘氏に命じて京都市内に青年團を組織する區内を調査せしめた。然る處完全なる青年會の機能發揮して活躍するものは西陣及び新京極の二團體のみであつた。そこで市社會課では右の青年に對し事業其他會の規約並にその形態を問合し答申を懇請したのである。従つて新京極青年會は右の答申を作製し直ちに上申したことは云ふまでもないこの答申を參考として市當局に於ては各區に青年團の組織を命じた。

爾來京都市より毎年補助金の交付ありて追々とその基礎を固めた。更に大正七・八年の物價暴騰は凡ゆる方面に弊害を及ぼし或地方の如きは遂には米騒動の如き不祥事件を惹起するに至つた。之に鑑みた京都市當局では萬遺憾なきを期すべく、市内各所に外米販賣所を設置して之が販賣方を青年團に依頼した。勿論吾が新京極青年會には安藤市長より出動を命ぜられ數日間數名の團員は、この重大任務に服して精勵よく努

めたのであつた。かくて販賣所閉鎖後はその功績に據り京都市より金參拾四圓の謝禮を受けた。

尙は特筆すべきは大正十年

畏れ多くも東宮殿下より有難き令旨を賜るの光榮に浴した。

以上の如く青年會の活躍は社會より認められ、重要なものと尊重されるに従ひ、一ツには社會施設に貢獻し、一ツには自己を守る上に於て準備金の積立なき新京極青年會は幾多残された事業ありと雖も、手の下し様なく徒手空拳を空しうするのみであつた。自然先輩諸氏に於てもこの現状を捨て置くに忍びず、各町合同組合長は寄り／＼協議をなして居たが、大正十一年各町合同組合長古谷豊吉、小野藤二郎、吉川倉太郎、山崎信吉、奥井庄吉、河原國藏、土岐清兵衛諸氏の議場一致を以て新京極青年會後援會を設立した。依つてこれが會長には奥井庄吉氏が當り會計には小野藤二郎氏が就任することゝなつた。茲に於て聯合組合、青年會は相提携して全く確となつたのである。これに勢ひを得た青年會では同年關東の大震災には大いに活躍し、慰問品を贈呈してその災害の地を見舞つた、爾後

自重奮闘し野球部或は山岳部を設けて體育方面にも力を致し更に城崎丹後方面に於ける大震災、關西方面を襲つた風水害等には災害地において克く青年團たるの使命を全ふした。

以上敘述の如く吾が新京極青年會は大京都市に君臨して今や二十年の星霜を體驗し全き基礎は築かれ赫々たる顯名は國寶的歴史の都大京都市に燦と輝く。

記録

大正十五年五月七日 新京極青年會も過日幹事改選の結果、新進氣鋭の人々を擧げ目下新舊幹事共に店員慰勞運動會の準備及び後援會の組織に奔走し新幹事は

- (仲之町) 土岐、田中、勝本、堀部
- (東側町) 堀部、池垣、池田、陸口
- (中筋町) 船越、濱口、東井、上
- (櫻之町) 速水、鳥居、片山、川島諸氏

五月三十日 新京極青年會第六回陸上大運動會は岡崎グラウンドに於て開催さる、午前十時三百餘名の健兒同グラウンドに集合君ヶ代の合唱をなし副會長堀部鏡之助氏より一場の訓示に次いで優勝旗の返還式あり順次競技を進め午後一時競技を中止

皇太子殿下令旨傳達式を行ふ、幹事竹田鹿尾氏君ケ代の奏樂裡に令旨を奉讀、夫れより後援會發會式に移り、奥井庄吉氏同會を代表して式辭を朗讀し堀部氏の答辭あり巖西市視學一場の祝辭を述べ萬歳聲裡に閉會を告げ再び競技に移る。因に本年青年會の運動會多かりしが君ケ代の合唱を爲し聖代の隆盛を壽ぎ吾人の繁昌を祝したるものなかりしに獨り新東京極年會に此の忠勇の擧ありしは之を新東京極魂を發揮したるもの最も賞讃の聲を惜まざるに價すべし。斯くて競技はいよゝゝ佳境に入り、一回は一回より選手は緊張し觀衆は手に汗を握り應援團は熱狂する殊に新流行の洋傘の下から金切り聲の應援が嬉しい。競技は進みに進みて第四十四回各町對抗リレー、一着池田三郎、林謙、荒木緑、入田重太郎、第四十六回百米突決勝、一着林謙、第四十八回八百米突決勝、一着井上學憲(中筋町)、第五十回二百米突決勝、一着荒木緑(中之町)、第五十二回四百米突決勝、一着林謙と文字山から吹來る風が鐘の音を誘ふ頃となり各町の應援團三百有餘の各選手が鐵脚を撫し、強腕を扼して熱狂する第六十

回八百米突優勝旗競争が開始される。一着井上學憲、二着町田繁次郎櫻之町一分四十五秒、二着荒木店荒木緑となり優勝旗授與式ありて萬歳三唱無事閉會、各應援團を高唱しつゝ、隊伍一糸亂れず堂々として事務所へ引き揚げたり。

七月四日 京都電話局見學會、定刻時間に事務所を集まる者四十有餘名、一糸亂れざる組織振を見せ、隊伍堂々中央電話局に向ふ。九時三十分交換課長の案内をうけて可憐な乙女の交換状態を見學、度數制施行以來は殊に其の複雑さを見せて一度交換局を見學した者なら交換手を電話口に捉へて馬鹿呼ば、りや苦情を持出す勇氣がなくなるは最負目の話でないとなづかせる。此種の見學團の來局を希望するとは交換課長の偽はらざる揚言である、局を後に電車に乗りて四條大宮に下車し砂塵と工場地帯を通る風に一種の悪感をさへ覺える路を製永會社に辿りつき製永状況を見て感心する。休憩と共に畫食、梅津の製絲場見學を變更して花園の高等蠶糸に向ふ、恰度夏蠶の手に忙しい眞つ最中、桑畑の培養法を説明感得される事多くして第一回見學會を閉じた。

此種の第二回を近くまた催したいものだ(陸口修一記)

同日 青年會角力、六日午後一時より新東京三條下ル東入、青年會事務所前廣場に於て華々しく土俵開の式典をあげ、引續き相撲取組を進め好成績を挙げたるより尙十七・二十三・二十六の三回に互り大會舉行。

△青年會相撲部の主任は櫻之町の片山氏で土俵開き當初より御盡力の活動一方ならずして好成績を納めたるが、第二回は二十六日、第三回は九月六日にして第三回當日幹部總出に華々しく打上げ一時閉會式舉行。

△青年會にては從來新しい計畫も少くなかつた、然し地獄の沙汰も何とやらの經費の出所なく思ひのまゝの新事業も實現されなかつたが、今度幹事初め新進の堀部、山口兩氏之を遺憾とし協議を重ねて新發展の途を開拓すべく、其れに先たつて青年諸氏の自覺を促し眞に新らしき新東京極を造る意氣込みで土岐會長初め役員有志集合した。

大正十一年二月二十五日 京都市青年團の制服問題で過般來、巖西理事は東京、大阪、其他の都市に就き比較研究を遂げたが何れも制服に近きものなく隨而、京都市は制服を定めず各自隨意に放置するがよからんかとの議論もあり、又宮内省關係の意見によると青年團の所謂、制服なるものは之を學校生などの制服と同様に取扱はずとの事であるから、御所離宮等の參觀には折角制服なるものを着用するとも宮内省關係は之を一種の事務服と認むとの見解であるから、京都市青年團は制服として公用に用ひられる絶好の形式を發見すれば兎に角、然らざれば制服なるものを別に定めざる方針である。

八月三十一日 京都市聯合青年團に於ては皇太子殿下御入浴の際、東本願寺前に各青年團代表者一千餘名堵列し、其の他は各小學校生徒堵列後部に整列して奉迎申上ぐる準備にて青年團主催提灯行列の際には、錦青年團所屬音樂隊及び富有青年團所屬音樂隊を先頭とする事に決し、又京都市主催なる平安神宮に於ける殿下御奉迎會には市各青年團各會より代表者二十名宛、合計二千七百人を參列之に新東京極青年團も參加す。

九月十一日 東宮殿下御山陵御奉告の爲め京都市行啓に際し新東京極青年團土岐會長は特に品行方正容姿勇壯なる者二十五名を選び五條署と聯絡をとり御道筋たる烏丸松原佛光寺間を御警衛申上ぐるの光榮を得たり。其服装は少年義勇軍と同一服装にて團員、武田軍曹の指揮の下に活動すべく、尙武田軍曹、山口、池垣伍長勤務上等兵は乘馬にて御警衛指揮した。

三月十九日 京都市青年團幹部五百餘名は豫て御所及び二條離宮參拜出願中の處、今回許可の指令に接したる十九日午前御苑内御所西側の御門前に集合、先着順で一團宛拜觀の光榮に浴した。

同日 大英國皇儲殿下を迎へ奉る大宮御所への沿道學生、在郷軍人團、青年團の奉迎のうち特に四條烏丸の南北兩側に於て目立ち皇儲殿下の御目を引いたのは、此程團服を制定したる新東京極青年團御通過に際し最敬禮に對して優渥なる擧手の禮を給ひつゝ、大宮御所へと成らせられた。

△青年團の提灯行列一萬五千の學生を先導に在郷軍人も參加。

五月二十七日 新東京極青年會第七回陸上大會は岡崎運動場に舉行、午前九時第一爆發、會長土岐清兵衛氏開會の辭、竹田幹事長皇太子殿下御令旨を朗讀、一同君ケ代合唱、後援會代表者代理山崎信吉氏一般の訓示、優勝旗返還式を終り審判長

四月十八日 市聯合青年會第四回陸上運動會は午前九時より岡崎公園グラウンドで開催、花曇りに日曜のことゝて壯大なる競技を見んとする群衆詰め其數三萬餘に達した。各青年團より參加するもの八十

競技に關する注意あり、第二爆聲を合圖に直に競技開始、錦之店青年團、五條魚市場青年會、青果青年團、奥村代議士の他數多の花輪の寄贈があり盛觀その極に達した。當日は櫻之町、中筋町、東側町、仲之町の四區町に分轄し中筋町では天下無敵、意氣吞敵の旗を又、東側町には「戦はざる戦時來る悠々たる我選手南無八幡大菩薩」などの文字を並べた旗懸して意氣天に沖し華々しき競技振も見せ觀衆に多大の興味を興へた。

第七月二十一日 京都市聯合青年團臨時總會を午後二時から市議事室に開き左記諸條件を附議した青年團の大會は明年京都で開かれるものであり。當日は加盟青年團長及び幹事等約百五十名出席すべく尙總會前の午後二時から理事會を開き原案を作製す。

一、東京市聯合青年團主催全國青年大會報告
一、大正十二年度全國青年團大會開催に

關する件

一、本國基金管理規約改正
一、大正十年度決算報告
一、青年團振興策
十一月五日 皇后陛下御入洛、御退京の際は市内各青年團から五名宛代表者を選出し奉迎をなすべき旨馬淵市長より命旨あり土岐會長外四名出動した。

大正十二年一月二十八日 新京極青年會にては恒例により、有志相謀かり午後三時より錦の店湖月席に於て新年宴會開催。

三月十六日 大阪商業狀態並に附近視察の爲、午前八時四十分京都發、會長土岐清兵衛、長井留次郎、河原乙三郎、顧問小野藤二郎諸氏外八十五名、吹田驛に下車ビール會社を見學、アラレ、豆等を饗應されてビール熱を唆られつ、大阪に毎日新聞社を見學、心齋橋筋の各商店の店頭裝飾に感嘆しつ、中之島公園にて汽車辨の晝食を喫し大阪城、造幣局を視察して黄昏近く京阪天滿橋場に於て散會。
五月二十六日 恒例の春季陸上大運動會を岡崎公園運動場に於て開催、此の日天気晴朗にして好スポーツシーズン爾來後援者並に幹部連が十二分に體育に對して

留意せられた結果、各町共にリレーにレースに奮闘振りの目覺しき。斯くて日没の頃盛會裡に散會。

九月五日 我國民として忘れる事の出來ない關東地方大震災、大火災の第一回東京全滅の報つたはるや新京極青年團は早速全員召集、慰問品に慰問金に忙殺され折柄西下の避難民の救護等々茲數日間席のあた、まざるを知らなかつた。

大正十三年一月十八日 新京極有志新年會は青年會と共に午後五時より東山線、樹の枝席に於て開催したが例年に見ぬ參加者多數にて土岐會長、速水、竹田諸氏の挨拶があつて堀部鏡之助氏は將來の新京極と新京極の地價問題を論じ終りに青年會と聯合會の融和を望むと結び京報新聞社長田中辨之助氏青年の力説が未だ具體化されないので説き、先輩諸氏の意のあるところを採つて以て事業と計畫の萬全を期して欲しいと述べ宴に入る、河原乙、中川辰、上田徳、速水、川島、龜村市、池田龜諸君の隠し藝等に歡を盡し、同九時速水氏の發聲にて萬歳を三唱散會した。
同 二十二日 午後十一時頃折柄の寒い強

味のある西北風の吹きすさむ最中、素破

！火事よと叫ぶ聲に新京極青年會を始め在郷軍人、消防手等々一早く火元の明治座に駆けつけたる頃は早や内一面の火の海、隣り間に軒を同じくする小町すし店市川繪葉書店をなめ盡し火先は折柄の風に煽られて東隣の眼鏡湯に及び加藤理髮店に移り、更に向ひの巴屋かしわ店の大建物が火の海となる頃には北通りから裏寺町に擴がり尙東に火は延びて立誠校の教育室を残して教室全部を焼き、一方は更にちからやからカフエー彌生を焼き替願寺の客殿庫裡に及び辛うじて本堂を残して火は東に走り裏寺町に移り安樂寺の東北方に延び同寺も一時は危険に瀕した

が消防隊、在郷軍人團、青年團の活動に依り漸く消し止めた東洋亭、京都座の奇蹟的に類焼を免れて全く鎮火したのは二十三日午前三時過ぎであつた。

二月十八日 一月二十二日明治座大火に際し青年會では青年の意氣と青年會の意義とを切實に感ずるところありて今度の火災には遺憾なく大活動を爲したるを上下消防署長の認識すると共に賞讃の辭を惜まずために消防署員と青年會員が懇談

會を催した。

同 二十二日 新京極山岳部、湖南アルプス探勝紀行一行十八名、青年元氣者揃ひで午前五時出發、何がさて茶目連中の金勝山及び狩坂山探勝とて地團と首引で失敗、コマデー、奇行を百出して午後七時頃無事歸京した。

三月一日 新京極青年會では創立十周年と東宮殿下御成婚の御慶事とを記念すべく雑誌青年會報を發行することになり第一號を三月下旬に發行した。

五月二十二日 青年會は笠置、奈良、探勝の爲午前六時四條寺町に八十餘名集合、絶好の探勝日和に笠置山、瓶原、船屋より頂上の行宮遺跡を拜し奈良の猿澤、興福寺、花の寺、春日神社に詣で三笠、二月堂、大佛殿等型の如く行樂を喫し歸洛京都驛前にて京報新聞社長田中辨之助氏の發聲にて萬歳を三唱、和氣氣々裡に散會。

同 三十一日 東宮殿下御成婚祝賀で全國に互つて老若男女を問はず晝夜奉祝踊りに其の赤誠の賀を披瀝した。
七月三日 青年山岳部では午前二時出發、比叡アルプスの七險を突破して七曲り、

無動寺、根本中堂、四明ヶ嶽より雲母坂越にて午後二時歸着。

大正十四年一月九日 幹部東辰男氏は八日市飛行隊へ入營に就て午前十一時十分京都驛を出發、見送人百數十名。同業者百餘名にて萬歳三唱無事入營。
十一月六日 秋季總會を兼ねて笑面から賈塚へ紅葉探勝を試む。

九月十七日 午前五時事務所に集合、立誠在郷軍人分會、先斗町青年團と合同にて大阪市外住吉及附近を探勝した。

十月二日 植物園グラウンドにて開催される府下聯合青年團第二回競技大會に選手出場す。
昭和二年二月九日 北丹後震災地慰問、午後一時役員會を開き各自金品を取集め直に北丹に向つて役員一同急行した。

六月十六日 例年の通り午前〇時より消防演習を施行、金子消防手を始め土岐會長平塚幹事長、竹田軍人分會長、青年團員六十餘名集合、松竹座に於て下消防署長の講話後、五條署員、松竹座、歌舞伎座專屬消防手の注視の中に演習を開始した。假想出火場所と放水迄の作業時間は一仲之町 平塚商店 上一分三十秒

一 東側町 池垣商店 上二分三十七秒
下二分

一 中筋町 龜村商店 上一分十秒
下一分十秒
一 櫻之町 松竹座 上四十七秒
下一分四十秒

参加人員は昨年よりも多く萬事進歩の跡を見せ作業一時間餘、午前三時半、キネマ俱樂部前に於て萬歳を三唱して解散した因に當夜野見式折疊式非常車の實驗を行つたが成績は良好であつた。

昭和三年一月二十七日 青年會山岳部では

伊吹山にスキー競技を行ふ、リーダーは岡本豊岳、連水三次、會計重田伊三郎の諸氏、午六時蛸薬師前に集合同六時四十分京都驛發、同日午後五時十六分長岡發七時三十六分京都驛歸着。

四月五日 富士館出火記念自身番夜一時より六時迄。

十一月十日 御即位式當日立誠校の祝賀式に參列後祝杯を擧ぐ。

昭和四年一月五日 本年度入營者左の諸氏にて餞別として葉書百枚宛を贈呈す。
櫻之町兒島英三、塚本様方倉橋吾五郎、

片山様方藤木隆三、中筋町小野様方戸田二郎、東側町中村様方荒川宗雄、西川良太郎。

五月二十五日 第十一回陸上競技大會は午前十時から岡崎運動場に行ふ。番外餘技として京極劍戟レビュー近藤勇を演じ會員は勿論觀覽者も大喝采。

十一月十八日 秋季遠足見學會、午前七時半京都驛前集合、参加人員六十二名、同八時奈良電車にて出發、法隆寺にて寺内及び寶物拜觀、正午龍田着、晝食、午後一時半奈良に向ふ五時迄自由行動、午後七時頃京都驛無事歸着、解散。

三月十日 陸軍記念日二十五周年記念として全市青年團分列式を平安神宮にて舉行出席者西川氏外十四名。

七月七日 夏季防火演習實施 夜十二時松竹座前に非常召集、浦崎幹事長の訓辭、第一笛を合圖に櫻之町、中筋町、東側町仲之町の順にて放水二時半終了、出席者浦崎副會長外三十八名。

十月二十四日 大觀艦式豫行演習見學 午前八時京阪三條乗場に集合、十時半出發十一時半大阪着 市電にて棧橋に行き徒歩にて第三岸壁に出る。中食を終り一時

蛟龍丸に乗船海上遙かに扇港へ向ふ。
あゝ見ゆる百五十餘のくろがねの城廓――

昭和聖代を護る海國日本の全威容――

十一月二十二日 令旨報告、今朝浦崎副會長平安神宮に出頭し「令旨」を拜受。

昭和六年一月二日 午後三時頃仲之町、龜村饅頭店より出火す。お正月二日の事として大混雑を呈したり、逸早く幹事諸氏現場に出動、山の如き通行者を整理、非常警戒に任す。

昭和七年一月十九日 新京極聯合有志新年宴會、樹の枝に於て開會。

二月二十三日 恒例による春季運動會開催の豫定の處、日支滿蒙事變の折柄、戰捷祈願の爲伊勢神宮參拜を決定。

七月三日 滿洲國使節一行の歡迎會が平安女學院講堂に於いて開催されるに當り我が青年團から記念品として鍔一基宛を使節に贈る、同夜は全員出席し盛會であつた。

九月十四日 滿洲事變記念日に際し京都師團に於いては四條大橋を中心に壯烈な市街戰を展開されるので、この警護のため我が青年團も参加する事となつた。

同 十八日 滿洲事變記念日の本日模擬攻

防戰に参加、警戒の任に當つたが四條大橋々畔附近は空前の人出で混雑整理に多忙な時間を過したが其の間にあつて、機關銃の音、歩兵の突撃、毒ガスの攻撃、タンクの出動、戰闘機の活躍等々團員一同、本格的實戰気分を十二分に味ひ過ぐる當時の有様を忍んだ。

同 二十日 本日我青年團主催の秋季遠足を開催、自動車數十臺に百餘の一行が分乗午前八時蛸薬師前を出發、初秋の風光を賞でつ、八日市飛行聯隊に到着、飛行場を充分見學後折柄の少雨をついて永源寺に詣り附近の景色等を眺望、午後七時一同無事歸洛、萬歳三唱後樂しき一日の行程を終へた。

十月九日 今秋大和平野に於ける陸軍特別大演習に際し畏くも 天皇陛下には關係地青年團を御親臨たまわる御趣きにつき新京極青年團も御親臨に参加の光榮に浴し本日其人選を行ふた。

十二月二十五日 恒例により年末自身番を本日より二十九日まで交代にて行ふ。

昭和八年一月二日 歌舞伎座向側頭屋出火、屋根の一部を焼失幸ひ大事に至らず鎮火した。

二月十七日 京都市實業聯合青年團創立準備員會に出席。

同 二十二日 役員會開催、協議事項、京都市實業聯合青年團へ加盟の件、團則改訂の件。

三月十七日 市實業青年團へ醸出金並に補助金増額請願費納付。

五月二十二日 敵偽原皇陵巡拜會實施、参加人員八十八名、午前七時出發、皇陵巡拜後長谷寺、久米寺、奈良へ、午後八時歸洛解散。

六月五日 第一回防火訓練、放水演習實施

七月八日 市實業聯合青年團々長會議に出席。

九月二十七日 秋季見學會實施、午前六時出發、須磨の史蹟を探勝、神戸湊川神社に參拜、神戸キリンビール會社、大阪毎日新聞社を見學、午後六時歸洛解散、参加人員百二十四名、自動車二十一臺。

十月二十一日 警備自身番施行第一日。

同 二十二日 御所にて行幸奉拜ならびに自身番第二日。

同 二十九日 警備自身番第三日。

同 三十日 警備自身番第四日。

十二月二十九日 皇太子殿下御降臨奉祝提

灯行列實施。

昭和九年一月六日 河原町四條大久保善若器店より出火警備のため出動した。

一月十二日 京都市公會堂に於ける京都驛遭難者慰靈祭に參列參拜して弔意を表す

二月二十六日 皇太子殿下御誕生奉祝武運長久祈願を平安神宮にて行ふ。

三月十三日 春季遠足たる寶塚行舉行、午前八時新京阪四條驛集合、總員百九十九名、同九時發車、浦崎團長引卒の下に寶塚着、團長の一場の訓示と後援會諸氏への挨拶あり終つて各自室内競技をなす者植物園を散策する者等、思ひ／＼に打興じ中食後、歌劇の觀覽をなし同五時發、大阪に迂廻して廻遊し或は直行にて歸京する者等、和氣露々裡に終了した。

四月十一日 北滿出征、京都師團將士を歡送す。

五月五日 午後〇時二十分 四條寺町藤井大丸出火に出動。

九月二十一日 午前八時、空前未曾有の大暴風襲來、新京極通り屋根瓦落下飛散し日覆やテント、看板等、轉落せるため通行不能なれば團員出動、三十メートルの風のうちに取かたづけを行ひ、各戸に火

の用心の注意を喚起して廻り夜自身番を
なす、京洛の社寺院の樹木、堂宇の倒崩
敷れず、新京極に大禍なかりしは不幸
中の幸であつた。

四月十四日 御警衛補助員豫行演習を行ふ

同 十五日 滿洲國皇帝陛下御入洛さる、
尙十五日より十八日まで自身番を行ふ。

五月二十日 午前十時より平安神宮に於て
青年團創立二十周年記念祝賀會舉行。

先づ神前に於て記念祭典が行れ引續き神
前廣場に於て記念祝賀式に移り一同整列
來賓には武内五條署長、比賀江實業青年
團長、各團體代表者、後援會諸名士、多
數參會せられ最初に國歌君ヶ代合唱、の
ち厳やかに團長令旨奉讀、式辭、知事、
市長、署長、實業青年團長、各團體代表
者等の祝辭あり、各功勞者には實業青年
團長比賀江市議より表彰狀、本團長土岐
氏より感謝狀授與あつて川島清太郎氏謝
辭を述べ盛會に式典を閉づ、午後は園遊
會に移る。神苑會場には多數の模擬店が
美しく軒を並べ、餘興場には萬歳各町有
志の方々或は各町幹事諸氏によつて裝を
擬した數々の童話劇、野瀬泰代、谷村ま
さ子さんの舞踊等の餘興があつて神苑の、

隅々迄祝賀氣分横溢せり。祝賀會の最高
潮を過ぎし時浦崎團長によつて一場の
挨拶あり、又招待者各位は誠に今日の
日を満足し、尙歴史ある二十周年記念の
終りに臨んで、市學區功勞者寺村助右衛
門氏發辭によつて萬歳三唱有意義なる記
念式を閉會した。

五月二十八日 山岳部保津川ハイキング決
行。

六月二十九日 前夜來より降りし大雨は
何時止むとも知れず、次第に各河川の増
水を見、遂ひに恐るべき京都市空前の大
洪水が襲來せり。又橋を破壊或は流失し
浸水家は實に萬を算すると云ふ恐るべ
き水禍を生んだ。昨秋の風害に相次ぐ此
の天災しかも此の災禍はむしろ風害より
も甚だしいものがあり、府市當局を初め
目下青年團、在郷軍人會、各學區團體な
ど一齋に救援と慰問に總動員せり、本青
年團に於ては立誠校を屯所として特に加
茂川近き先斗町及び木屋町筋河原町に出
動し夜は夜警に大いに活躍せり。
七月十九日 山岳部近江舞子に水泳決行す
八月二十七日 山岳部大文字山越へ「柳ヶ
崎」行決行す。

九月二十一日 新京極青年團創立二週年記
念事業の一つとして帝國館に於て映畫と
講演の夕を開催す。

一月二十八日 平等講に於て役員總會を開
催、勤続十有七年我が青年團々長として
精勤事に當られたる本團々長土岐清兵衛
氏辭任届提出され、協議の結果辭任を認
め引續き十一年度役員改選を行ひ各町投
票の結果左の諸氏が當選就任された。
團長浦崎松太郎、副團長北村芳五郎會計
山崎祥介、記録奥西二郎
の諸氏に決定して閉會。

二月四日 前夜來よりの猛風雪襲來、節分
にもかゝらず全市商店街は閉店同様の
有様に殊に午後六時頃に至りて停電其
の他電車自動車は勿論通行不能の爲、新
京極筋は全部閉店し、本團に於てはこれ
がため、夜警に當る事を團員に通知し全
員出動して徹宵警戒に當る。

同 六日 八坂神社に於て午後一時より團
長祈禱式を舉行、引續き午後三時より立
誠校に於て推戴式を舉行す、閉會の辭、
國歌合唱、式辭、祝辭、團長浦崎松太郎
氏挨拶、閉會の辭。

京都株式青年團の足跡

大正八年九月 青年會創立す。

主旨 歐洲戰亂後時代潮流に従ひ青年の
知徳を練磨し又健全なる體育を計り以て
有意の商店員を養成する目的を以て青年
會を組織す。

一、役員、會長一名、副會長二名を置く
一、夜學部を設置し二學年制とす。(會員
五十餘名)

第一學年(珠算、書方)
第二學年(簿記、珠算、書方)

一、夜學部教師として京都第一商業學校
京都實習商業學校より各一名の先生を
招聘す。

一、運動部を設置、毎月一回の遠足を催
し會員の體育獎勵を計り春秋二回の運
動會を開催す。

同 九年一月 夜學部の充實を計る爲に左
の學科目を附け加ふ。

附記 本會組織するや市當局者の認むる
所となり毎年獎勵金の下附を受ける事と
なりたり。
同 九月十二日 青會年株を當式市場代理

人會の事業となし同代理人會幹事中心より
青年會係を決定さる。

同 十五日 株式青年會始業式を舉行す。

同 十年 取引所改築の爲、夜學部を一時
休校し圖書室を閉鎖して精神修養並に體
育獎勵に重點をおくことにする。

同 十一年—同 十四年
同 十五年七月七日

一、青年會事業擴張の爲青年團と改名す
一、取引員全店を五部にち班制を布き
各班長を任命す、又記録係もおく。

一、團則を制定す。
一、團服の整備。

昭和二年一月 本會事業として夜學再開の
議起りたるも諸種の事情により不可能と
なりたるにより左記の事項を決定す。

一、毎月一回以上知名の士を聘して精神
教育に關する講演會を開催す。

一、講演會不能の場合は體育行事を行ふ
其他春秋二回の運動大會及夏季水泳
大會を行ふ。

同 八月
一、本團主催の第一回野球大會を開催、
毎月これを一回開催す。

一、庭球部を本團事業の一部に加ふ。

同 三年五月 御大典記念事業として團則
の一部變更、強化をはかり團旗の新調團
員の整理等團の充實をはかる。

同 九月
一、新團旗の入魂式を乃木神社に於て舉
行す。

一、團服の補充。

同 十一月

一、御大典に對し市聯合青年團に依り警
備隊編成せらるゝに付、警備隊第三大
隊(實業團)株式小隊として参加す。

一、平安神宮に於て警備隊旗の入魂式に
参加授與せらる。

同 十二月 御大禮時中、乗客案内として
奉仕したるに付市電運輸課長の名により
感謝狀を受く。

同 四年二月十一日 警備隊の参加に對し
京都府知事の名に依り感謝狀を受く。

同 五年一月 團の充實強化を期する爲、
團則一部の修正、評議員の設置並に團費
徴收の事に決す。

同 十一月 賤豆地方大震災に對し義捐金
を京都日々新聞社に委託す。

同 六年一月 團の運用上新に相談役を設
置強化を計る。

同 八年一月 團の功勞者に對し第一回表彰式を舉行す。

同 十月 天皇陛下北陸地方大演習に付御西下御駐營中警備の任に付く。

同 九年三月

一、天皇陛下昨秋大演習行幸に際し御駐營の御御警備、御警備申上げたるに付長くも御下賜金を賜る。

一、京都府國防協會發會式に参加す。

同 十年四月 滿洲國皇帝陛下御入洛に當り御警備の任に就きたり。

同 十一年八月 市聯合青年團修養會館建設に就き河田本團長建設委員に囑託さる

同 十二年六月

一、實業聯合青年團野球大會に参加優勝。

一、實業團對抗陸上競技大會に優勝。

同 十月

一、益々本團充實、情操教育鼓舞の爲、音楽部を編成す。

一、京都市實業聯合青年團結成五週年記念式典に參列す。

同 十三年六月

一、團員調査の爲團員手帳制とす。

一、團則の一部改正す。

一、表彰規定改正。

一、救護班設置す。

一、修養會をおく。



榎原神宮勤勞奉仕

同 六月十一日 團員手帳授與式舉行す。

同 六月 實業聯合青年團野球大會に本團優勝す。

同 七月

一、神戸水害地復興勤勞奉仕に参加。

一、青谷村陸軍傷痍軍人療養所設立されるに付き奉仕す。

同 九月 青谷村勤勞奉仕に参加。

同 十月

一、新綱領論議式舉行。

一、秩父宮殿下御言葉傳達式舉行。

一、團則諮問並に團體訓練を行ふ。

一、京都市聯合青年團臨時大會に参加。

同 十四年一月 本團の事業を一層意義あらしむる爲め茲に第一回團報を發刊す。

同 三月 榎原神宮聖地勤勞奉仕を行ふ。

同 五月 青年團體力検査實施。

同 六月 取引員大城戸傳次氏より本團へ金一千圓寄附受けたり。

同 七月

一、本團の指導機關整備強化の爲左記の四部制に改む。

訓練部、體育部、修養部、音楽部

一、音楽部改革(樂器購入、部員募集)

一、實業青年團幹部講習會に参加。

一、市青年團主催、山野行軍競走に参加し三等賞に入賞す。

一、先般取引員大城戸傳次氏より本團宛御寄附金の使途に就き豫てより研究中の處團員の體育向上を目的として市場東側空地に相撲土俵設置、土俵開きを

舉行す。

今後本團相撲師範として陣の花開を迎へ、毎年二回以上相撲大會を開催する事に決定す。

一、京都市實業青年團役員として副團長

東山末次郎氏就任さる。

同 九月一日 今回毎月一日を興亞奉公日と定められしに付き第一回興亞奉公日として護國神社及八坂神社に參拜す。今後興亞奉公日には全員もしくは代表を以つて參拜する事に決定す。

同 十月 京都市青年團主催榎原神宮勤勞奉仕に参加す。

同 十五年 代理人會業務多忙の爲、東山末次郎氏實業團幹事を辭任さる。其の後任として副團長平井孝藏氏に囑託さる。

吾青年團の歴史を緝く時、歐洲戰亂後時代の潮流に従ひ誕生、呱呱の聲を上げてより此處に二十有餘年、當時先覺諸氏の熱烈なる指導良しきを得、年と共に内容の充實を見、今日に至りたるは團員等しく過去先覺諸賢に感謝の意を表すと共に現下の非常時局に吾々團員は一致協力以て非常時國家の青年とし其の重任を完ふするはもとより惹いては益々團の向上發展を計る可く進みつゝ有り。以上

建具青年團概況

創立 京都建具業組合は時勢に鑑み青年修養機關の必要を痛感し組合員總會席上

満場一致を以て青年團創立を決議す。

大正十三年十一月十五日キリスト教三條青年會館に於て創立總會を舉行す。

役員幹部左の通り決定す。

團長 佐々木守三

副團長 栗田好之助

支部長 高 惠 一

同 三島正次郎

同 小峠半次郎

同 森下文藏

同 團旗入魂 總會終了後役員一同參列、平宮

神宮に於て團旗入魂式を舉行す。

大正十四年二月十五日 第一回春期總會

六角會館に於て舉行す。

年度決算、事業報告、役員改選等可決。

本年度事業計畫決定す。

五月十三日 月例茶話會 組合事務所に於て舉行す。講師鈴木氏、出席人員八十二名。

同 三十日 銀婚式奉祝提灯行列に参加す

八月一日 夏期旅行 琵琶湖島巡り舉行。

京津電車にて濱大津へ太湖汽船にて一周す。

十月十五日 運動競技會 岡崎市グラウンドに於て開催す。参加人員二百九十三名。

十一月十四日 月例茶話會 組合事務所に於て舉行す。

大正十五年

一月二十日 第二回春期總會 六角會館に於て舉行す。

團服を制定し着用せしむ。

年度決算、事業報告、役員改選等可決。

本年度事業計畫決定す。

役員幹部前年度と同じ。

二月二日 役員總會 組合事務所に於て實施す。

本年度事業の細目打合せ及び團員修養の件に付き協議す。

二月十四日 月例茶話會 組合事務所に於て舉行す。出席人員七十六名。

八月一日 夏期旅行 笠置山見學及び木津川に於て水泳講習會を實施す。参加人員百十名。

九月十四日 役員總會 組合事務所に於て開催す。

第二回運動會に關する準備。

十月十五日 第二回運動競技會 岡崎市グランドに於て舉行す。参加人員二百九十六名。

昭和二年度

二月十六日 第三回春季總會 空也寺に於て舉行す。

八月一日 夏期旅行 近江舞子に於て水泳講習會を實施す。参加人員九十五名。

昭和三年度

二月十一日 第四回春季總會 六角會館に於て舉行す。

三月十五日 春期行軍 四條大宮に集合し嵐山電車にて嵐山下車し愛宕山登山を舉行す。

六月一日 夏期行軍 銀閣寺に集合し比叡登山舉行す。参加人員八十四名。

十一月二十九日 御大禮奉祝提灯行列に参加 紅提灯を先頭に市中を行列す。参加人員九十七名。

昭和四年度

二月十五日 第五回春季總會 丸太町通千本西入建具業組合事務所に於て舉行す。

八月一日 夏期旅行 近江舞子に於て水泳講習會を實施す。参加人員九十五名。

十月十五日 秋期行軍 平安神宮前にて集合、神宮参拜し山科へ行軍を舉行し山科山に於て松茸狩を催す。

昭和五年度

二月十五日 第六回春季總會 組合事務所に於て開催す。

六月一日 體育大會 岡崎市グランドに於て野球の練習を行ふ。参加人員七十三名。

十月一日 講習會開催 組合事務所に於て業務講習會を實施す。

同 二日 前日と同じ講習の續きを夜間行ふ。参加人員九十五名。

十一月一日 秋期行軍 奈良電車にて奈良公園を見學し汽車にて宇治下車、宇治より京阪電車にて解散す。参加人員七十五名。

昭和六年度

一月十四日 第七回春季總會 組合事務所に於て舉行す。

三月十五日 春期行軍 出町柳集合、八瀬行軍なし八瀬遊園地に於て餘興として寶探し出町柳にて解散す。

六月一日 夏期行軍 二條驛集合し龜岡迄乗車、保津川畔を下り嵐山に於て福引を催す。

八月一日 夏期旅行 京阪電車三條終點集合、電車にて大阪へ大毎新聞社を見學す。参加人員百二十八名。

十一月一日 秋期行軍 北野一ノ鳥居前集合、一路周山街道を高尾へ、歸り道に電車にて北野へ、北野解散。

昭和七年度

三月一日 第八回春季總會 丸太町第二社會々館に於て舉行す。

年度決算、事業報告、役員改選等可決。本年度事業計畫決定す。参加人員八十二名。

本年度に於て市聯合青年團に加盟に付き左記の様役員就任。

團長 小峠半次郎
副團長 西村新一郎
同 馬淵育三

八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて大津、濱大津より汽船、柳ヶ崎に於て水泳講習會舉行す。

同 十五日 府聯合青年大會 府下天ノ橋立に於て舉行。代表者三名。

八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて大津驛、濱大津、汽船、柳ヶ崎に於て水泳講習會舉行す。

同 十五日、十六日 實聯近江舞子キャンプ参加。参加者六名。

同 二十五日 市聯幹部訓練参加 成徳校に於て舉行す。参加者四名

役員改選の結果前年の通り決定す。
四月一日 春期行軍 西大谷前集合、清水寺、將軍塚、花山天文臺見學、南禪寺、銀閣寺解散す。参加人員六十名。
六月十一日 市聯一夜講習會参加 竹間校に於て。参加人員十五名。
七月十三日 府聯合青年大會 府下天ノ橋立に於て舉行。代表者三名。
八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて大津驛、濱大津、汽船、柳ヶ崎に於て水泳講習會舉行す。
同 十五日、十六日 實聯近江舞子キャンプ参加。参加者六名。
同 二十五日 市聯幹部訓練参加 成徳校に於て舉行す。参加者四名
九月二十一日 實聯團體訓練 實聯第一回團體訓練を淳風校に於て舉行す。参加人員五十四名。
十月二十三日、二十四日、三十日、三十一日 四日間御警衛奉仕す。参加人員四十二名
十一月一日 秋期運動競技會 植物園グランドに於て舉行す。参加人員全員。

昭和九年度

一月十五日 堀川聯合青年團伊勢参宮に参加。参加人員四十二名。

三月四日 實聯幹部講習會 比叡山延曆寺宿院に於て開催す。代表者四名。
四月一日 第十回春季總會 第二社會々館に於て舉行す。
年度決算、事業報告、役員改選等可決。本年度事業計畫決定す。
副團長馬淵育三氏退職に付き山名松仲氏に決定す。

六月一日 春期行軍 稻荷集合、行軍にて桃山御陵参拜、六地藏、黄檗山、宇治、中書島解散す。参加人員三十五名。
七月一日、二日、六日、七日、十一日 團體訓練 室町校、淳風校に於て舉行。参加者五十七名。

昭和十年度
四月一日 第十一回春季總會 第二社會々館に於て開催す。
左の通り役員改選す。本年度にて參與をおく。小峠半次郎氏。

團長 西村新一郎
副團長 山名松仲
同 吉田七之助
會計長 萩長富三
會計 山名松仲
警備小隊長 柴田幸作

三月十五日 春期行軍 出町柳集合、八瀬行軍なし八瀬遊園地に於て餘興として寶探し出町柳にて解散す。

六月一日 夏期行軍 二條驛集合し龜岡迄乗車、保津川畔を下り嵐山に於て福引を催す。

八月一日 夏期旅行 京阪電車三條終點集合、電車にて大阪へ大毎新聞社を見學す。参加人員百二十八名。

十一月一日 秋期行軍 北野一ノ鳥居前集合、一路周山街道を高尾へ、歸り道に電車にて北野へ、北野解散。

昭和七年度

三月一日 第八回春季總會 丸太町第二社會々館に於て舉行す。

年度決算、事業報告、役員改選等可決。本年度事業計畫決定す。参加人員八十二名。

本年度に於て市聯合青年團に加盟に付き左記の様役員就任。

團長 小峠半次郎
副團長 西村新一郎
同 馬淵育三

八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて大津、濱大津より汽船、柳ヶ崎に於て水泳講習會舉行す。

同 十五日 府聯合青年大會 府下天ノ橋立に於て舉行。代表者三名。

八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて大津驛、濱大津、汽船、柳ヶ崎に於て水泳講習會舉行す。

同 十五日、十六日 實聯近江舞子キャンプ参加。参加者六名。

同 二十五日 市聯幹部訓練参加 成徳校に於て舉行す。参加者四名

九月二十一日 實聯團體訓練 實聯第一回團體訓練を淳風校に於て舉行す。参加人員五十四名。

十月二十三日、二十四日、三十日、三十一日 四日間御警衛奉仕す。参加人員四十二名
十一月一日 秋期運動競技會 植物園グランドに於て舉行す。参加人員全員。

昭和九年度
一月十五日 堀川聯合青年團伊勢参宮に参加。参加人員四十二名。

三月四日 實聯幹部講習會 比叡山延曆寺宿院に於て開催す。代表者四名。
四月一日 第十回春季總會 第二社會々館に於て舉行す。
年度決算、事業報告、役員改選等可決。本年度事業計畫決定す。
副團長馬淵育三氏退職に付き山名松仲氏に決定す。

六月一日 春期行軍 稻荷集合、行軍にて桃山御陵参拜、六地藏、黄檗山、宇治、中書島解散す。参加人員三十五名。
七月一日、二日、六日、七日、十一日 團體訓練 室町校、淳風校に於て舉行。参加者五十七名。

昭和十年度
四月一日 第十一回春季總會 第二社會々館に於て開催す。
左の通り役員改選す。本年度にて參與をおく。小峠半次郎氏。

團長 西村新一郎
副團長 山名松仲
同 吉田七之助
會計長 萩長富三
會計 山名松仲
警備小隊長 柴田幸作

五月一日 春期行軍 北野集合―嵐山へ行軍なし―建築展覽會見學なし―四條大宮解散。参加人員二十六名。

八月一日 夏期旅行 京都驛集合、汽車にて―大津―三井寺参詣行軍にて柳ヶ崎水泳場へ水泳講習會舉行す。参加者六十二名
九月六、七、八日三日間 團體訓練参加 松原商務學校に於て舉行さる。参加人員三十五名。

十一月十日 警備隊の檢閲 御所御苑内に於て舉行す。参加人員十名。
同 十五日 青年大會 昭和會館に於て舉行す。創立滿十週年記念に付き開催す。参加人員百十五名。

同 二十二日 市聯青年大會参加 府立二條高女學校に於て舉行す。参加人員五名
山名松仲氏模範章を受く。

昭和十一年度
一月十六日 實聯伊勢参拜参加 参加人員十二名。
二月十一日 紀元節奉祝式参加 御所苑内に於て舉行す。参加人員七名。
四月一日 第十二回春期總會 第二社會々館に於て舉行す。
六月一日 夏期行軍 北大路大橋西詰集合

行軍―上加茂神社参拜―鞍馬寺参詣―電車にて出町柳―下加茂神社参拜解散す。参加人員三十七名。



金閣寺國民射撃場で實彈射撃

六月十四、十五日 堀川聯合参加一夜講習會 山科の西本願寺別院に於て實施さる

参加人員三十五名。
八月一日 夏期旅行 京津電車三條大橋集合―京津電車にて―濱大津―汽船にて―近江舞子に於て水泳講習會實施す。参加人員百一名。

八月二日 團體訓練参加 商務學校に於て第四回團體訓練が實施さる。
十月十五日 實彈射撃大會 金閣寺國民射撃場に於て實施す。

十一月十日 警備隊檢閲 御所御苑内に於て舉行す。参加人員六名。
同 二十二日 青年大會参加 堀川高等女學校に於て舉行。

昭和十二年度
一月三日 市聯桃山御陵参拜。参加人員四名。
同 七日 御陵巡拜 岡崎市グランド集合 平宮神宮参拜後御陵巡拜す。参加人員三十二名。
二月十一日 紀元節奉祝式々典参加 御所御苑内に於て舉行す。
四月一日 第十三回春期總會 第二社會々館に於て舉行す。
六月一日 夏期行軍 二條驛集合―保津峽―驛下車、清瀧―嵐山へと行軍なし嵐山電

車内にて解散す。参加人員三十八名。

七月三十日 團長應召 西村新二郎團長殿の應召に際し京都驛迄搬送す。

八月二、三日、七、八日、四日間 團體訓練 商務學校に於て舉行す。参加人員二十名
九月一日 秋期行軍 稻荷集合、京阪にて男山八幡宮に参拜なし出征將士の武運長久祈願をなし―桃山御陵参拜―稻荷にて解散す。参加人員二十名。

十月二日 軍用機獻納古雜誌蒐集に参加 (大日本青年團) 古雜誌十六貫、古新聞五貫五百。
慰問袋應召者へ發送す。

同 十七日 實聯青年大會参加 稻荷神社に於て舉行す。代表者五名。
十一月一日 秋期旅行 奈良電車にて―奈良へ、春日神社へ参拜なし武運長久祈願す。参加人員五十六名。

同 十日 警備隊檢閲 御所御苑内に於て
同 十一日 實聯懇談會参加 昭和圖書館に於て實施す。代表者二名。
同 二十一日 市聯青年大會参加 第一商業學校に於て舉行。参加者三名。
同 二十八日 防共協定祝賀會及び提灯行列参加 晝祝賀會出席者五名。夜提灯行

列参加人員十七名。

昭和十三年度
一月三日 桃山御陵参拜。参加人員三名。
同 七日 伊勢参宮 参加者七名。
二月十一日 紀元節式典参加。
三月一日 春期行軍 御陵巡拜をなし出征勇士の武運長久祈願す。参加人員二十名
四月十五日 第十四回春期總會 御室仁和寺に於て舉行す。

仁和寺より―行軍にて―嵐山へ、嵐山にて解散す。
六月十五日 夏期行軍 蹴上集合、牛尾山 觀音参詣―石山驛へ、京都驛解散。参加人員二十名。
七月二十三、二十四、二十五日三日間 水害復舊勤勞奉仕参加 神戸市の水害の復舊に参加す。参加人員二名。

八月六日、七日、八日 實聯團體訓練参加 商務學校に於て舉行す。参加人員九名。
九月一日 秋期行軍 比叡山行軍なし新唐崎より乗船なし大津驛へ、京都驛解散。
同 八日 青谷療養所の奉仕。参加人員七名。
十月十一日 武運長久祈願祭 稻荷神社にて執行。

十一月一日 秋期行軍 北野より―高尾へ行軍を舉行す。嵐山にて解散す。

同 六日 實聯青年大會 稻荷神社に於て舉行。
同 二十二日 市聯青年大會参加。吉田七之助氏へ模範章を受く。

昭和十四年度
一月三日 桃山御陵参拜。稻荷に於て實聯の新任式舉行さる。
二月十一日 紀元節奉祝式典舉行 御所御苑内に於て舉行す。参加人員三名
同 十五日 春期行軍 九條大路西大路集合―櫻井ノ驛趾へ行軍、山崎より西大路驛乗車、西大路解散す。参加人員二十名
四月十五日 第十五回春期總會 京都驛集合なし石山驛下車、汽船にて南郷―立木觀音寺―南郷にて總會開催す。

五月十五日 體育テスト 岡崎市グランドに於て舉行す。
同 二十四日 交通調査参加 烏丸通今出川下ル武者小路調査場へ参加。
六月十五日 夏期行軍 出町柳集合、八瀬迄電車にて三千院見學す、歸り出町柳迄行軍し解散す。

八月一日 夏期旅行濱甲子團行 京都驛集
合汽車にて大阪へ、電車にて濱甲子團に
於て水泳講習會開催す。参加人員六十二
名。
同日 實聯修養會 嵐山天龍寺内に於
て幹部修養會舉行さる。代表者二名。
十一月一日 業務競技會 組合事務所に於

て額枿の競技會を開催す。参加人員十二
名。
同 二十二日 市青年大會参加。代表者二
名。下村君表彰さる。
昭和十五年度
一月三日 桃山御陵參拜、實聯青年大會
大會は稻荷神社にて舉行す。

二月十一日 紀元節式典參加 御所苑内に
於て舉行。参加人員三名。
同 十五日 春期行軍 今熊野集合―大石
神社參拜―醍醐―桃山御陵參拜、市電乘
場にて解散す。

青年團經營の思索

幹事 増田芳一

長年青年團に關係してきて今、過去を顧るに、團
體には凡そ「和」を必須とする事は必然的である。
「和」なくては絶対に圓滑な運営は出来ない、團員相
互の和から惹いては社會を構成する團體間の和。こ
れが青年團經營の第一とせなければならぬ。和が完
全なものとなれば、そこに未來性に富む青少年には
更に理想乃至は希望を與へなければならぬ。従つて
團體の故に度を過ぎた拘束は禁物と思はれる。常に
潑刺たる氣性に遠大なる精神を養ふには彈力、即ち
伸縮性を必要とする。こゝが青年團經營の「コツ」と
でも云はれるか、強化擴充運動も此處に於て初めて
緒につくのである。指導者である幹部は常にかうし

た青年の心理を把握して團體の力の偉大さを悟らし
め、同時に個々の力をもつて出来得ない大きな事も
集團の總力をもつて當れば必ずやなし遂げられると
云ふ事を強く植込む。これが缺けては經營はうまく
行かない。まあ云はゞ經營の「鍵」とも言はれるであ
らう。
國家社會を構成する中堅分子はその國の青年であ
る。青年團がうまく經營出来れば、之れ大政翼贊の
一翼を完うする事が出来たのである。
我等は職に忠實でなければならぬ。職域奉公をも
つて念願とし、個々には甚だ微力であつても集團の
力をもつ時、大東亞共榮圈確立のため國家の求むる
ところに相呼應せんか、必ずや高度國防國家確立は
疑ふ餘地もなく強力な體制は整ふであらう事を信じ
て已まぬ次第である。

木挽町水運青年團起源

慶長十六年、角倉了以に依りて開かれた
る、京都木屋町二條より伏見堀ノ口に達す
る高瀬川に、當時この水運に使用したる舟
數百五十八艘、これに従事したる若者は現
在の木挽町通り八ヶ町一成町、松屋町、西
堺町、西尼崎町、西大文字町、帶屋町、惠
美酒町、八幡町」の住民にして五百餘名な
りき。これに従事する青年を一九として高
瀬川船頭組合を組織し、會所を堀ノ口に設
置す。これをもく、木挽町水運青年團の起
りなり。

これより先、慶長元年四月十一日、時の
征夷大將軍徳川秀忠公の娘、天壽院千姫、
伏見桃山城に誕生せられ、翌二年九月初節
句の御祝として、氏神御倉宮神社「祭神、
神功皇后」へ大神輿一基を寄進せられたる
も、重量殊の外重く其の渡御に奉仕する者
及團體の他になき故、元祿十三年八月二十
五日の祭禮より、この高瀬川船頭組合へ渡
御奉仕を一任せらる。それより文政四年八
月、當時伏見奉行、仙石大和守、重病全快
祝として神社へ大神獅子一對を奉納せられ

たるも是れ又、重量重く一頭の目方、十七



(子獅子の來傳りよ間年政文)

貫を越え、これに奉仕する者なき故、大神
獅子二頭も當組合に奉仕を一任せられ、これ
と同時に祭禮に使用する提灯に、ぶつ通し
の印を許さる。今尙當青年團の使用する高
張提灯、小提灯に残る黒の斜線の十文字の
印は之なり、「注この印の提灯を持せば如
何なる場所へも出入出来しなり。」こゝに於
て當高瀬川船頭組合も木挽町獅子若組と改
稱し、大正十二年まで約三百年間、敬神觀
念を中心に、毎年祭禮の奉仕團體として來
りしなり。

この頃第一次歐洲戰亂の餘波を受け、世
は好景氣に浮かれ、一般青年にも浮遊なる
氣分現れ、體位の低下にともなひ、觀念思
想共に乏しくなり、一年一度の神事の奉仕
さへ遂行困難となり、古き歴史のある團體
も繼續不能となり、正に昔日の面影を失は
んとする時、識者の發議により、時代に適
應したる青年團を組織し、大正十二年十一
月二十五日創立發會式を舉行す。

木挽町青年團事業報告

大正十三年六月 伏見町西南部に於ける河
川流域二十數町に渡り蚤蚊發生し、伏見
住民の苦難甚だしきが爲に我が本團全員
出動し、懸命に撲滅したる故に町長香川

静一氏より感謝状を受ける。

同 十一月一日 御香宮に於て伏見町聯合青年團結團式に参加し加盟す。

昭和二年三月七日 丹後地方大震災の爲本團より救援隊を組織し、十日間に互り防火及び整理に活動す、よつて竹野郡鳥取村長より感謝状を受ける。(出動員廿五名)

大正十四年六月 但馬丹後地方震災及び昭和二年三月奥丹後震災二度に互り義金を寄附す。但馬丹後地方拾四圓拾錢、奥丹後地方百七拾壹圓也寄附す。

昭和三年九月十五日 紀伊郡義勇會發會式に参加す。

同 六年一月三日 伏見市聯合青年團々長より優良團により謝状を受ける。

同 八年十月十日 平安神宮に於ける市聯合青年團警備隊警備小隊旗授與式に参加當警備隊の第三大隊南部中隊木挽町小隊と決定。

同 十月十五日 實業青年團團旗入魂式及結團式に参加す。本日より木挽町水運青年團と稱す。昭和三年及び昭和八年兩年

に互り御親閲の光榮に浴す。

同 十三年 大日本聯合青年團愛國機獻納運動に我が青年團も運動の一部に加り大日本聯合青年團理事長より感謝状を受ける。

同 七月廿四日 兵庫縣神戸市水害の爲復興勤勞奉仕隊に参加第一中隊第一小隊に



編入され奉仕す。

同 九月八日 青谷傷痍軍人療養所建設勤勞奉仕に参加す。(参加奉仕員七名)

同 十四年五月廿二日 三日間に互り伏見區聯合青年團と協力して交通調査を行ふ(派遣團員七名)

同 十月一日 櫻原神宮建國奉仕隊に参加

す。(参加十三名)

同 十二月一日 秩父宮殿下より賜りたる御言葉並に令旨下賜せらる。

同 十五年二月 青年團木炭増産勤勞報國運動に参加す。(参加者三名)

同 六月九日 聖上陛下關西行幸を迎へ奉り六月九日より向ふ四日間、自警團及び奉仕隊員を派遣す。

同 十一月十四日 京都市實業聯合青年團紀元二千六百年記念事業として稻荷神社獻木に奉仕す。毎月七日を期といたし護國の英靈に感謝し並びに皇軍將士武運長久祈願の爲氏神御香宮神社に参拜す、なほ水防組消防組を組織し、水防組には舟三隻を有し消防組に優秀なる「ポンプ」を有し水防の場合には迅速に團庫に集合し活躍を期しつゝあり。

宣眞説明 向て左小は獅子奉納當時より獅子の裏に付きたるものにて奉行仙石大和守の名附なり。向て右は仙石大和守奉納當時我青年團の鼻祖獅子若組の世話役にて有りし當時(紙屋瀬左衛門)現在成町石津江家あり、この奉付及由縁記ありしが明治元年鳥羽伏見の戦に焼失、残りし遺品が此門札一品なり。

京都藥業青年團沿革

一、昭和十三年十二月十一日 船岡山建勳神社前に於て、西陣警察署、京都府藥劑師會、西陣藥業會等の代表者多數参列のもとに結團式を舉行す。

役員左の如く決定す。

顧問 清水良太郎、勝馬廣吉、吉田卯之助

參與 佐々木末二郎、林田喜一郎、奥村幸太郎

團長 谷口廣一

理事 永平廣次、山口數雄、大槻耕太郎、人見信三、野田茂樹

一、昭和十四年四月十六日團旗入魂式を舉行す。

一、昭和十六年二月現在役員

團長 谷口廣一

副團長 佐々木末二郎、遠藤健吉

理事長 山田信三郎

理事 淺野岸郎、大槻耕太郎、萬木覺、野田茂樹、井上義一、宮澤一夫

顧問 勝馬廣吉、吉田卯之助

一、事業の概況

修養 精神修養に資すべく皇陵、神社に参拜し、日本精神の發揚に努むる

外、名士を招聘し修養に關する講演會を開催す、早朝神社参拜(毎月一回)諸式典に参列、「青年」購讀、幹部講習會開催。

産業 藥學講習會の開催、製藥會社、試験所、其他化學工業方面の會社、保健衛生に關する施設等見學並に研究、藥店經營指導等。

體育 體力檢定、ハイキング、登山、行軍、集團訓練の實施(植物、昆蟲

採集等を行ひ臨地講演を併せ行ふ)。

社會奉仕 勤勞奉仕事業に参加、入營應召者歡送、銃後後援事業。

其他 防空演習に際しては團員をして防毒救護作業に當らしめ、一朝有事の際直ちに役立たしむべく、防毒講習會を開催、優良團員の表彰等行ひつゝあり。

京都刺繡青年團

團の創立と其沿革

本團は從來青年會として若干同志相集り刺繡業の發展及保健を目標として努めつゝ、有しが其後京都市聯合青年團へ加盟を動機とし組合の同意を得て全京都市内業者の子徒弟を以て大正八年三月二十二日京都刺繡青年團を創立し規約を設け修養、研究、體育、等の目的を達成し事業遂行を圖り居りしも大正十二年の頃其勢力衰へ團則の示す如き従事を缺き止不得一時中止の情態成しも、同十三年の夏頃より熱心なる有志者相集り相互の意見交換の機關として、月刊「銀針」なる團報紙を發行し全組合員へ發送し以て團員募集に努めし結果、亦再興を得、其間令旨奉戴十周年には洛東黒谷境内に其記念碑を建設し、益々青年の修養、體育振興、業務等に精進し今日に及びたるなり。

團の特種とする所の要項
作品展覽公開 保健上徒歩旅行(業態が座仕事なる故) 野球競技、夏のキャン

ブ、業態上の社会見學等
社会的に活動せる要項

社会的事業として交通道路の整理、防空智識の訓練の授護、其他市の警備班の命令一切遂行及母體組合事業等の後援等

吳服悉皆青年團

大正八年十月 内務大臣訓令の趣旨により青年團設立の必要なるを認めて同業組合役員並に組合員の子弟店員中の有志相集まりて創立の準備に着手す

大正九年四月 創立委員の誠なる努力により創立賛同者多數を得其の後援によりて入團希望者六百餘名を得たり

同 六月 本團創立發團式を岡崎公會堂に於て舉行し團旗入魂式をも併行せり會する者八百名に及ぶ團長は稻垣昌雄氏

同日 發團式後岡崎運動場に於て本團第一回陸上競技大會を舉行す

同 八月 本團山岳部主催のもとに夏季愛宕登山會を催す参加者四十餘名

同 暑中朝起會を設けて團員の體育奨勵法を講す

大正十年三月 講演部主催のもとに桃山御

陵參拜會を催す臨地講演をなす加はる者五十餘名

同 五月 運動部主催第二回陸上競技大會を岡崎運動場に舉行す

同 六月 本團第一回切見本製作品競技大會を商工會議所に於て開催す

同 九月 琵琶湖見學の目的を以て湖上周遊會を行ふ、参加するもの三百五十名

大正十一年三月 役員任期満了に付き改選更迭す

同 五月 本團臨時總會を開會す終了後講演餘興を催す

同 九月 本團第二回切見本製作品競技大會を開催す

大正十二年五月 運動部主催第三回陸上競技大會を岡崎運動場に舉行す

同 六月 本團第三回切見本製作品競技大會を開催す

同 九月 關東大震災に際し救援に従事す

大正十三年五月 運動部主催第四回陸上競技大會を岡崎運動場に於て開催す

同 十月 本團第四回切見本製作品競技大會を商工會議所に開催す

大正十四年五月 運動部主催第五回陸上競技大會を岡崎運動場に開催す

同 十月 本團第五回切見本製作品競技大會を商工會議所に開く

大正十五年五月 運動部主催第六回陸上競技大會を岡崎運動場に開催す

同 六月 本團第六回切見本製作品競技大會を商工會議所に開く

同 六月 御成婚記念廿五年祝典に際し競技大會優秀品廿五葉を皇后陛下御前に獻上し御佳納あらせらる御沙汰書左の如し

一、裾襦袢見本製地 貳拾五葉
右
皇后陛下へ献上被致候ニ付御前へ差上候此段申進候
大正十五年六月廿一日
宮内大臣 一木喜徳郎
京都市吳服悉皆青年團
團長 池田文治郎殿

昭和二年五月 大阪朝日、毎日兩社及ラヂオ放送局見學す

同 九月 本團第七回切見本製作品競技大會を商工會議所に開く

同 八月 役員任期満了全部再選す

昭和三年五月 本團創立十週年記念式を岡崎公會堂に於て舉行す

同 五月 本團第拾週年記念に際し岡崎工藝館に於て第八回切見本製作品競技大會を開催す本團第十週年記念に際し市内商店訪問徒歩競争を行ふ

- 團長 吉竹孝治郎
- 副團長 川村健之
- 幹事長 穂積和三郎
- 幹事 田中富市
- 幹事 小黒綱吉
- 幹事 磯野榮三
- 幹事 清水一雄
- 幹事 白木周一
- 幹事 伊藤芳三

錦店青年團

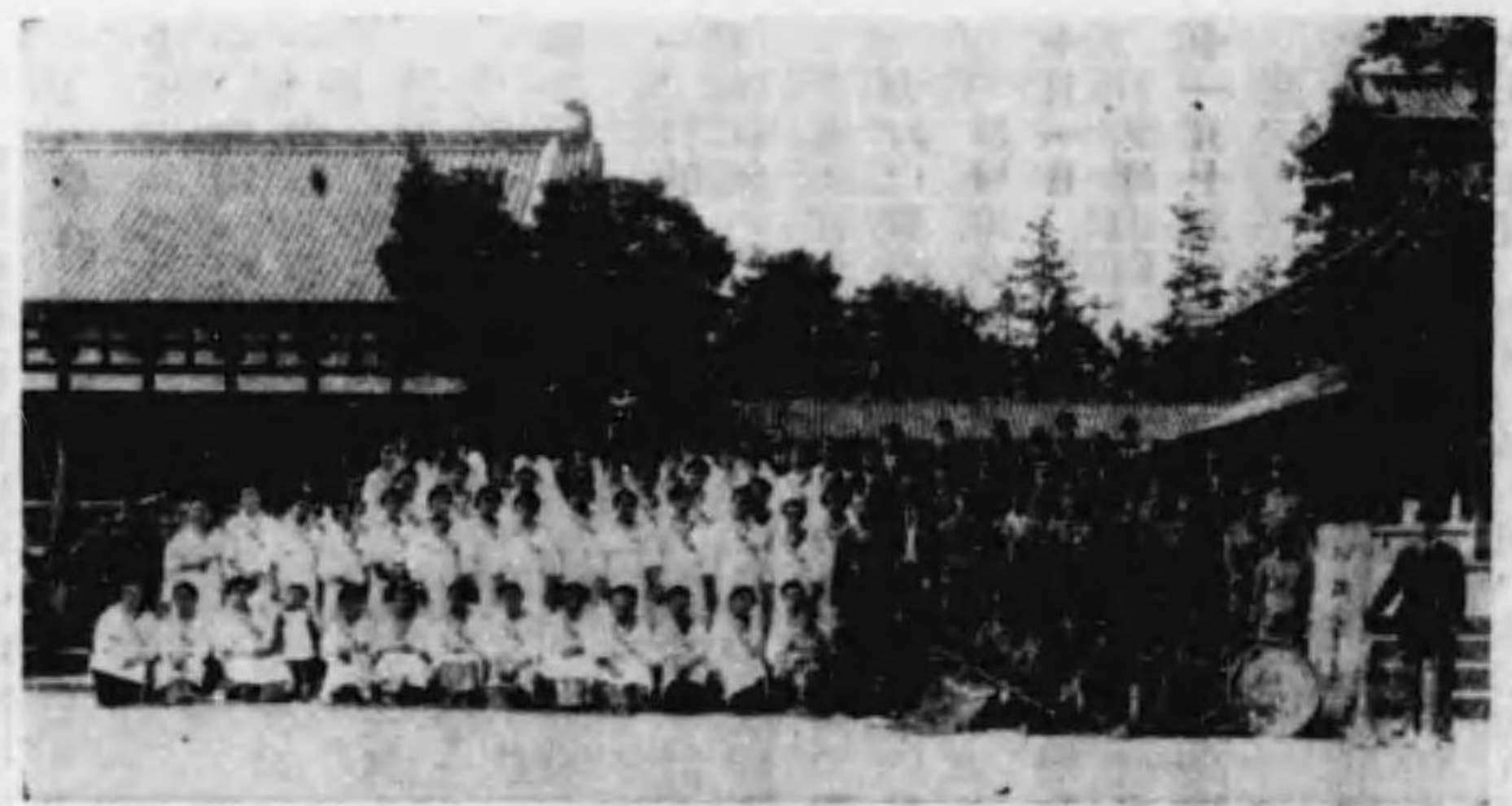
吾が錦青年團は大正四年五月十二日、日露戦役の民力涵養を第一義として全市青年團設立に先立つ事二年前、木村彌太郎氏初代團長として呱呱の聲を上げたのであります。

青年同志の親睦は勿論、一致團結の共同精神の昂揚に人格的陶冶に邁進し來つたのであります。
大正九年には音楽部創設、プラスバンド

の編成を完成したのであります。當時完成されたプラスバンドがなく市及び各團體の行事になくはならぬ存在となり運動會に、音楽會に、その特異性を充分に發揮し以て青年の意氣を唱道し恐れおほくも大正十年今上陛下攝政宮に在はせし時、京都行啓あらせらる砌、二條離宮前にて君が代を吹奏なし、殿下出御遊ばされ無上の光榮に浴せし事もあり、星うつり年かわり、團の行事面目など今に來りて想ひ起さば……

大正十五年十二月、錦青年團義勇團を組織なし五條署にて之が結團式を擧ぐ、當時署長船越氏より懇篤なる訓辭と激勵を受け民衆と警察の中間にありて警察の本質を民衆に理解する事及び警察事務の分掌にあづかり、よく現在の警防團の先驅をなしたるの感あり。

殊に出火に際しての鋭敏なる活動と身を以て防火に盡す業績は屢々上司に聞え、之が表彰も尠からず受く。
昭和二年三月七日、但馬、豊岡方面未曾有の大震災の折には慰問袋の作成は勿論、直に別動隊を派遣致し代表的新聞社たる大朝、大毎はもとより府當局の慰問の届かぬ中に我別動隊の活動は罹災者を驚喜感泣さ



平宮神社に於ける慰問記念

早晚より近畿地方大暴風來り市中被害甚大、吾錦青年團は全員非常召集をなし、被

せたのであります。次に昭和九年九月廿一日の記録を採萃して見る。

害蒙りし附近の後片づけに、交通整理に大に活躍中、當時錦榮會長豊田又一氏青年團の活躍を見聞され、その由、所轄五條署に報告さる。

尙「夕刻に到るも電燈復舊なくば青年團自警團を組織なし警備にあたるものとす」との告示を各戸に配付なし火災、盜難の不詳事件なき様萬全を期す。

静岡大火災にも我等率先して義捐金を募り慰問に全力を盡す、かたじけなくも感状授與さる。昭和十二年暴支膺懲の聖戰遂行されるや幾多の慰問に將又銃後の働きに一段緊張味を見せつ、昭和十三年五月には傷つかれた白衣勇士を慰問する會を平安神宮にて催しました。

婦人會の後援もありて集ふ白衣の勇士百八十名、手品に餘興に歡を盡しての慰問に大に喜ばれたのであります。

又陸軍へ揮一千本を獻納し我々銃後の固き決意の程を示し、遺家族慰問の觀劇會を催した事などもすぎた昔の後日譚となりました。

幾星霜、創立以來二十有餘年の我等が眞剣な態度と堅實なる思想の下に數々の行事を想ひ起せば思新なる感懐が今や我等の胸

に切なるものがあります。

歴史をほこりし吾錦青年團も大政翼賛の協力と若人青年層の不撓の練磨に拍車せられる事となり、今迄の實業青年團を解散致し新めて新形態の發足を見るに至つたものであります。

今後一層我等が青年意氣と熱とで高度國防國家の建設に以つて臣道實踐よくその職責を盡す覺悟が我々青年に與へられた使命でもあります。

因みに當團の代々の團長を擧げて想の稿を終りと致します。

- 初代 木村彌太郎
 - 二代 板倉萬次郎
 - 三代 高田重次郎
 - 四代 青井弘一
 - 五代 稻井勇造
 - 六代 岡本榮次
 - 七代 山本庄一郎
 - 八代 林治一
 - 九代 山本富三
- 青年團規範章受賞者
山本富三以下五名

草鞋青年團

草鞋會創立

大正五年九月十六日創立總會開催

- 一、會場 松本久太郎氏宅
- 一、會長 龜井正吉氏

役員 吉田仙之助、小谷和三郎、松本久太郎、中井 榮一、福島 一郎、伊賀喜一郎、外出席者卅二名

一、目的 山岳遠足を通じて親睦を計る事を申合す、會長の發案に依りて草鞋精神を養ふ言葉を作る即ち、和中協同、勤儉力行、質實剛健此の合言葉を胸にいたいて職域奉公に進む事を誓ふ。

十月一日 第一回遠足會、集合御所辨財天目的地山科、桃山方面、參加者卅三名。

十一月十五日 第二回遠足會 行先高雄方面。

大正六年一月五日 新年總會、會場紅梅湯樓上、會長役員、前年のまゝ。

大正六年度 遠足回数七回、茶話會五回

大正七年度より主なる事業のみ。

五月十九日 一般より參加者を募集して琵琶湖島巡りを舉行す參加人員三百名餘。

十二月六日 京都市聯合青年團創立總會に吉田仙之助氏本會を代表して出席し聯合青年團のすゝめに依り加盟す、會長及び役員、前記のまゝ、會員數四十九名、事務所を今出川新町西入ル上ル吉田仙之助方に置く。

大正八年一月十三日 構和正使西園寺侯爵京都驛通過に付本會を代表して吉田仙之助敬送せり。

四月十六日 市聯合主催運動會に参加。

五月一日より十月末日迄夜學會開設、毎月三、八の日とす。會場松本方、算盤、習字其の他。

七月二、三日 構和締結、提灯行列舉行、參加全會員。

七月十日 市聯主催辯論會出席。

演題 南洋食人鬼の生活 吉田 貞三

大正九年三月五日 草鞋文庫設置、吉田仙之助宅。

十一月十五日 講演會開催、會場小川校。

講師 今朝洞規矩雄氏、演題 體育爲陸鐘を撞く、餘興 筑前琵琶、當日集合者三百名餘。

大正十年二月十日 總會、於小川校、參會

者五十五名。

役員改選

- 小谷善四郎、村田市太郎
- 松本久太郎、松田幸之助
- 中井 榮一、以上當選す



請 婦 奉 仕

本團創立五週年の催を行ふ。
七月十七日 神戸見學、舞子廻り參加者三十三名。

九月九日 臨時總會、於小川校、協議事項

- 一、皇太子殿下御歸朝奉迎。
- 一、日本青年會館設立寄附金募集。

九月十三日 市主催奉迎會參加者吉田仙之助、村田市太郎、松本久太郎、岩間源造、武藤康夫。

九月十一日 提灯行列 參加者八十五名。

大正十一年三月 七週年記念總會盛大に舉行。

八月 記念事業として島めぐりを行ふ。

大正十二年九月一日 關東大震災起り、本團は全力を擧げ救護の誠を盡す。

昭和二年 丹後大震災起り、本會より白石武藤兩氏代表として救護班となり活躍す

昭和四年度 總會にて本會に青年部即ち團を置く、役員改選す、各部を設く。

名譽會長 龜井 正吉

團 長 山田富三郎

副團長 井上義一郎、中村市太郎

見學部 山口隆三、生駒長一郎、武部吉之助

山岳部 高木嘉一郎、西村文三、北村俊藏、小林覺三郎

編輯部 田中太市、住谷喜一郎、半井貞三

辯論部 井上義一郎、村山利久、清水清三郎

會計 中島喜一郎、増田榮次郎
通信部 山根正一、以上決定す。

昭和五年三月 十五週年記念總會開催、於北野櫻井屋。

昭和八年十月 天皇陛下京都行幸に際し本團より北村警備小隊長始め清水清三郎、内田三郎、山口傳造、谷口喜一、卯瀧文三郎、小林與三郎、矢橋直樹、以上七名参加無事大任をはたす。

十一月二十二日 市聯模範章井上副團長受

昭和九年十一月二十二日 市聯模範章北村幹事長受く。

昭和十年四月一日 本會創立廿週年記念總會於上御靈神社々務所參會者六十八名、總會終りて飄亭にて大懇親會を催す。

同 五月十九日 廿週年記念事業の一として奈良、あやめ池方面ピクニックを催す、参加者實に四百二十八名盛大であつた。

同 十一月二十二日 市聯模範章卯瀧文三郎受く。

昭和十一年 府青年團主催男女製作品展覽

加力士四十三名、龜井會長の激勵あり。力士一同大いに頑張る。

七月十六日 市聯合、日出新聞社共催山野行軍八名参加。

八月十八、十九日 實聯團體訓練参加二十二名。

十月一日 樞原神宮勤勞奉仕二十五名。

十二月一日 市聯模範章授賞者水野繁雄。

昭和十五年一月十六日 本會創立當時より現在に至る永い間本會發展の爲努力下された吉田仙之助氏突然死去さる、全會員哀惜の涙にくれる。

四月三日 創立廿五週年記念總會於、上御靈神社。

六月十二日 天皇陛下京都行幸、肉薄御道筋、御警衛、矢橋幹事参加。

六月十三日 御所御苑内清掃奉仕、福島幹事長参加。

六月十八、十九日 大日本青年團中部動員大會参加、福島幹事長。

六月廿二、廿三日 市主催地方中堅幹部練成講習會、石原幹事出席。

七月八日 本會々々長龜井正吉氏死去さる、本會としては先に吉田仙之助氏に逝かれいま又會長に逝かれて廿五週年は實に會

會に本團より出品す、井上進(火鉢)北村倭藏(織物衝立)卯瀧文三郎(織物守袋)内井上進一等賞、北村倭藏佳作賞を受く。

十一月二十二日 市聯模範章古澤久男受く。

昭和十二年三月 本會、青年團長山田富三郎氏一身上の都合に依り辭任さる、後任は井上、北村兩氏其の任に當る。

七月より九月中 北村副團長宅にて珠算講習會を開く、龜井會長毎夜出席さる。

六月 本會機關誌「銀笛」第一號を發刊す、隔月に發行する事を申合す。

八月 國防献金全會員より募集朝日新聞社に委任す(金貳拾五圓〇六錢也)

昭和十二年十一月廿二日 市聯模範章受領者矢橋直樹。

昭和十三年五月廿日 市聯主催徐州陥落祝賀提灯行列参加二十二名。

六月七、八日 吉野、樺原、國民精神總動員講習會に本團より十二名参加。

七月廿四、五、六日 神戸水害復興勤勞奉仕に本團より水野繁雄、伏見良一奉仕す。

九月八日 青谷傷痍軍人療養所勤勞奉仕本團より十名参加。

十一月六日 實聯創立五週年記念大會にて

員一同にとりて奮起する時である。後任會長代理として北村副團長其の任にあたる。

八月卅一日、九月一日 市主催耐熱深夜五十キロ強步行軍、石原友二、山崎参加。

十一月十七日 紀元二千六百年令旨奉戴廿週年記念、京都市青年大會出席五名。

昭和十六年一月三日 市聯動員訓練、桃陵參拜、實聯青年大會於稻荷神社北村副團長表彰さる。

本會は隣組組織にて即ち草鞋會を母體として幼親會、草親會、五人會が以前より生れ、皆故龜井會長の信念に依りての合言葉、和中協同、勤儉力行、質實剛健の誠を體し皆それ益々盛大に職域奉公してゐる。

京都菓業青年團

青年に賜りし令旨に副ひ奉る若者の意氣高し、フレイ菓業!!立てよ菓業若者、進まうよ菓業の青年、と呼び掛けたは昭和七年九月十一日午前十一時、撰て其の呼び掛けた主と云ふのは京都市綾小路富小路東入

井上副團長優良模範章を受く。
十一月十四日 京都市青年大會本會より十五名参加、谷口喜一君表彰さる。



相撲大會

昭和十四年一月三日 稻荷神社實聯川端團長推戴式参加二十八名。
七月一日 相撲大會 於草鞋特設土俵、參

製怡業主 今西政造
京都市松原通り大宮東入
菓子問屋 並木良夫
京都市高倉通丸太町南入
京都菓業新聞社社長 岡崎嘉一

の三氏で二ヶ月間に結成を見るべく組織への一筆を染め初めたのである。心を同じうする若者の集ひに何の困難が有らふ、たち處に順序よく運ばれて五百餘名の團員を以つて昭和七年十一月三日創立
同日 結成式 平安神宮
同日 總會場 京都市公會堂
團長 今西政造
副團長 並木良夫
主席參與 岡崎嘉一
斯くして目ざましい本團の活動は開始された。

一、京都市聯合青年團に加盟
一、昭和八年十月二十二日 聖上陛下行幸に際し 御沿道警衛申上るの光榮をうる
一、市實業聯合青年團に加盟
一、市實業聯合青年團旗入魂式及び

其の結成式に参加(昭和會館)
 一、全國菓業青年團聯盟組織團に加盟
 一、全國菓業青年團聯盟全國大會主催
 右は記録から二、三を抜萃して見たのであり、此の他加盟團として各種事業に参加、又独自の施設を經營して創立本來の目的に進みつゝある。

加藤伍商店青年團

左に歴代團長を記載して本團と商店との關係を報告致します。

一、團長

初代 加藤伍兵衛
 大正八年三月就任
 市内都文學區出身、都文小學校、京一商卒業、正八位勳六等陸軍中尉、紺綬褒章下賜、京都市聯合青年團理事、下京區在郷軍人聯合分會副會長、同都文分會長等ノ要職ヲ兼テ加藤伍商店ヲ經營シテ業界ニ重キヲナシ常ニ澁刺タル意氣ヲ以テ社會公共ノ爲ニ盡ス所洵ニ渺カラズ、世人ノ深キ尊敬ト厚キ信頼ヲ受ケツ、アリシガ情シイ哉大正九年九月二十二日三十六歳ノ壯齡ヲ以テ病ノ爲ニ急逝ス

第二代 淺井 佐一

大正九年十月就任
 歩兵曹長勳八等功七級、大正五年加藤伍商店ニ入り店主ノ輔佐役トシテ厚キ信頼ヲ受ケ、後獨立シテミシン加工業ヲ營ミシガ昭和三年十二月歿ス

第三代 森田 彦治郎

大正十三年一月就任
 市内柳池學區出身、衛生上等兵、明治四十一年加藤伍商店專屬森田友仙工場支配人トシテ工場經營、大正四年三月加藤伍商店ニ入店、常務取締役ニ就任會計及庶務課長トシテ重キヲナシ現在ニ至ル、三代ノ主人ニ仕ヘ格勤精勵勤績二十六年義ニ京都市商組合ヨリ模範店員トシテ表彰セラレ

第四代 福田 楠士

昭和八年一月就任
 岡山縣津山市出身、大正十年三月加藤伍商店ニ入り半樓部主任トシテ重キヲナシ後進ノ指導誘掖ニ盡ス處渺カラズ市實業青年團ヨリ模範章ヲ受ケ、勤績二十年昭和十五年十二月退店獨立營業ヲナス

第五代 定 森 正 視

昭和十六年一月就任

岡山縣勝田郡出身、昭和七年三月加藤伍商店ニ入り昭和十四年六月入營出征、中支戦線ニ從軍、昭和十五年九月歸還除隊歸店、輻重兵上等兵、販賣部ノ重鎮ナリ

一、幹事

榎 友 逸
 滋賀縣滋賀郡出身、陸軍兵長、昭和四年五月加藤伍商店ニ入り多年福田團長ヲ輔ケ商業報國會實踐班長トシテ後進ノ指導ニ努ム、昭和十五年市實業青年團ヨリ模範章ヲ受ケ、昭和十五年十二月別家ヲ許サル

刀根 誠 太郎

京都市上島羽出身、昭和五年三月加藤伍商店ニ入り昭和十四年六月應召、同年九月除隊、現ニ加藤伍商店商業報國會實踐班長トシテ後進ノ指導ニ努ム又百貨店部ノ重鎮、上下ノ信頼殊ニ厚シ

本 多 榮

岡山縣若田郡出身、昭和六年八月加藤伍商店ニ入り昭和十二年八月應召、北支戦線ニ從軍、昭和十二年十月内地歸還除隊歸店、陸軍上等兵、商業報國會實踐班幹部、店吳服部重鎮トシテ後進ノ指導ニ當リ上下ノ信望ヲ集ム

京都浴場聯合青年團

(市内八ツの組合青年團聯合)

創立の事

一、發起人
 山代石次郎(亡)、山口政一(現在聯合組合長、本團名譽團長)、八田永吉、表宣太郎の四名。

二、創立委員

聯合組合長 南 出 榮 作
 同副組合長 坂 本 辰 治 郎(亡)
 七條組合長 杉 村 二 三 郎
 五條組合長 武 林 重 吉
 堀川組合長 定 者 吉 松
 松原組合長 山 村 立 作
 下鴨組合長 甚 田 甚 太 郎
 中立賣組合長 生 水 和 一
 川端組合長 森 長 一
 西陣組合長 須 賀 井 政 治(亡)
 外に 山代石次郎(亡)
 山口 政 一
 八 田 永 吉
 表 宣 太 郎

理事 合計 十四名

森 榮次郎 速水 三次
 村田仁太郎 二本 直吉
 楠田 伊作 榮品 牛助
 森澤 寅吉 西村 繁一
 森井 房吉 西田 正勝
 北山治三郎 村田 仁
 三岩 清松 坂下

三、創立總會

時日 昭和四年六月二十二日
 所 於 市公會堂
 來賓 京都市長、各新聞記者、廣瀬七條警察署長外各署代表者
 出席者
 浴場組合(全市)五百有餘名
 一、開會の辭 田村清太郎
 二、聯合組合長(南出榮作) 挨拶
 三、團則制定
 四、役員決定
 五、團旗授與式 南出名譽團長より 表團長へ
 六、來賓挨拶
 イ、別項の如き京都市長祝辭
 ロ、廣瀬七條署長各署代表して挨拶

七、表新團長の就任挨拶

八、副團長 串 谷 義 一
 幹事長 地 下 中 宗 一
 委員長 中 川 喜 一

右三名の就任挨拶

九、業者の意見発表
 十、閉會の辭 田村副團長
 十一、廣瀬七條署長の發聲で萬歳三唱
 十二、田村副團長發聲で來賓一同の萬歳三唱

特筆 日本全國唯一の浴場業界における組合青年團である。

祝 辭

京都浴場聯合青年團ノ組織成リ本日茲ニ其ノ發會式ヲ舉行セラル、ニ至リマシタコトハ洵ニ慶賀ニ堪エマセヌ
 顧ルニ近時青年團方國民ノ中堅トシテ社會的樞要ノ地トハ近代國家ノ自存自營上自然ノ趨勢ノ然ラシメタ結果デモアリマセウガ一面ニ於テハ青年諸子ノ努力ト自營トノ結晶デアリマス、殊ニ近時青年諸子ニ對シテ國家ノ依頼ト環境ノ期待トガ益々相加ハルニ至リマシタコトハ即チ國家社會ガ青年團ニ對シ社會的責務ヲ賦課シ

タモノデアリマシテ諸君ノ一擧手一投足ハ悉ク國運ノ消長ニ反映スルノデアリマス故ニ諸君ノ責任ヤ重大ナリトイハネバナリマセヌ

今ヤ本市ニ於テハ百數十ヲ算スル堅實ナル青年團ヲ有シ各々特有ノ精神ト目的トニ依リ其活躍見ルベキモノガアリマスコトハ本市ノ爲寔ニ欣慶措ク能ハザルトコ

ロデアリマス、諸君ハ幸ニ本日ノコノ盟約ヲ意義アラシメ自己ノ修養ト練磨ニカメラレ確固タル信念ノ下ニ大同團結以テ時勢ノ推移ニ順應シ組合青年團本來ノ使命ヲ完ウセラルト同時ニ本市ノ爲ニ將又國運進展ノ爲ニ最善ノ努力ヲ竭サレンコトヲ切望シテ已マナイ次第デアリマス一言ヲ述ベテ祝辭ト致シマス

表 覽 一 長 團 代 歴

代 數	姓 名	任 期	就 任 年 月 日	所 屬 組 合
第一代	表 宣太郎	二期間	昭和四年六月二十二日	七條組合
第二代	表 宣太郎	二期間	昭和五年四月十七日	七條組合
第三代	串 谷 義一	一期間	昭和六年四月十八日	堀川組合
第四代	表 宣太郎	三ヶ月間	昭和七年四月十日	七條組合
第五代	丸 次 健次	十一ヶ月間	昭和七年七月	西陣組合
第六代	西 村 繁一	一期間	昭和八年四月二十日	松原組合
第七代	松 本 初 義	一期間	昭和九年四月十七日	堀川組合
第八代	中 野 慎 四 郎	一期間	昭和十年四月二十三日	西陣組合
第九代	二 木 俊 雄	二期間	昭和十一年四月二十一日	下鴨組合
第十代	二 木 俊 雄	二期間	昭和十二年四月十七日	下鴨組合
第十一代	森 澤 寅 吉	一期間	昭和十三年四月三日	松原組合
第十二代	表 宣太郎	一期間	昭和十四年四月三日	七條組合
第十三代	表 宣太郎	現 在	昭和十五年四月三日	七條組合

但し團則に依り浴場聯合組合長は名譽團長に就任す
初代名譽團長は南田榮作氏より現聯合會會長山口政一氏をもつて最終とす
其の間前及六團長は相談役として就任す

昭和四年六月二十二日

京都市長 土岐嘉平

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

本團創立當初より今日迄の事業概要

創立當初は團員の身心練磨及組合行政の改善を叫び活潑なる活動を開始をなしたるも中期に至りもつばら團員の修養専門的事業と化しやゝ意氣消沈せり。

末期に至り時局の餘波を受けて業界未會有の難局に直面(下水道問題)、(浴價改正)(營業の合理化)等の諸問題をひつきぎてよく聯合組合當局と協調し活潑なる活動をなせり、此の間世代の進歩にともなひ役員の改善にも努力し現今に於ては、かつての青年團幹事がほとんど組合首脳部となつた次第なり。

特に團報發行には團員一同深く留意し紙上を通じて業界の啓蒙運動に努めり。

第一次

團 長 表 宣太郎
副團長 田村清太郎
同 串 谷 義一
同 杉 原 薫
會 計 伊 藤 光 一
理事會議長

幹事長 中川喜一
委員長 地下中宗一
書記長 山口政一
同 山代石次郎
指揮者(今の警備隊長)

編輯部長 森澤寅吉
修養部長 伊藤光一
研究部長 杉原薫
體育部長 二木直吉
榮島半助

第二次
團 長 表 宣太郎
副團長 串 谷 義一
同 西 田 又 勝
會 計 杉 原 薫
理事會議長 森 榮次郎
理事會副議長 森 澤 寅 吉
幹事長 中 川 喜 一
書記長 山 代 石 次 郎
指揮者(今の警備隊長)

編輯部長 森澤寅吉
北森勇太郎

第三次
團 長 串 谷 義 一
副團長 中 野 慎 四 郎

副團長 九次健次
會 計 北山治三郎
編輯部長 西田又勝
特別會計 松本初義

第四次
團 長 表 宣太郎
副團長 西村繁一
同 青 山 秀 吉
會 計 松 本 初 義
編輯部長 平 石 吉 松

第五次
團 長 丸 次 健 次
副團長 西 村 繁 一
同 宮 谷 一 男
會 計 村 田 仁
編輯部長 梅田榮太郎

第六次
團 長 西 村 繁 一
副團長 村 田 仁
同 松 本 初 義
會 計 北 出 庄 一
編輯部長 北 森 勇 太 郎

第七次
團 長 松 本 初 義
副團長 山 本 初 吉

副團長 梅田榮太郎
會 計 清水藤一
編輯部長 加納三郎

第八次
團 長 中野慎四郎
副團長 北村一雄
同 南 正 榮
會 計 清 水 藤 一
編輯部長 加 納 三 郎

第九次
團 長 二木俊雄
副團長 西村繁一
同 (後加納三郎)
會 計 梅田榮太郎
編輯部長 村 谷 繁 夫
加 納 三 郎

第十次
團 長 二木俊雄
副團長 梅田榮太郎
同 加 納 三 郎
會 計 村 谷 繁 夫
編輯部長 加 納 三 郎

第十一次
團 長 加納三郎

團長 森澤寅吉

副團長 加納三郎

同 梅田榮太郎

會計 村谷繁夫

警備隊長 辻一才

編輯部長 宣太郎

第十二次 表 宣太郎

團長 表 宣太郎

理事制にして全部署兼務獨裁

(一) 昭和十四年五月京都市實業聯合青年團幹事に就任す

(二) 昭和十四年五月十二日京都府聯合青年團及京都市聯合青年團、商工會議所日出新聞社囑託を受けて中南支及南洋方面の皇軍慰問及商工業視察のため派遣される。

(三) 昭和十四年十二月金澤放送局より現地感銘と題して放送す。

第十三次 團長 表 宣太郎

理事制にして全部署兼務獨裁

(一) 昭和十五年五月京都市青年團騎道隊實業中隊長に就任す。

此の間、確實なる年月日不詳なるも山口政一君の理事會議長及同副議長就任、二本直吉君の特別會計の就任あり。

編纂餘滴

この「京都市實業青年團史」は昨秋紀元二千六百年を奉祝する一つの事業として計畫された。もう一つの献本事業は已に成り、團史發刊のみ後に残り前書記岡村君の手許に於て鋭意準備中の處、半ばにして同氏の轉出となり、その後をうけて本史の編纂を委任され、短時日の間に上梓するの運びに至りました。

過ぎし後を本小史に依つて顧る時、其の感非常に深いものがあります。先輩各位の功績に敬意を表し併せて大政翼贊の一翼を推進する日本青年たるの堅き決意を促し自ら誠め自ら強むるの一助ともなれば幸甚であります。

極端の言葉をもつて言へば單位團の事業概要を集録したやうにも思はれるが、之その團の汗と血をもつて飾られた奮闘史であり、發展歴史と團員相互修養の尊き金文字であります。この意味に於て意義更に大なるものがあると思はれるのであります。

戦事下輝かしき發展史を一つ／＼印しつゝ皇紀二千六百年の佳き年を賀し且つは新生青少年團結成を祝賀記念する本小史の發

刊に就きては各方面から多大なる御支援を賜はり、資料を提供された關係者各位に對し厚く深謝する次第であります。

本團史資料蒐集に就き顧問本田氏に負ふ所多く巻頭の稻荷神社宮司の「勤儉治産」の文字も氏の御努力に依るものであります。

編纂委員として出来るだけ單位團の記録を集めに努めたが、遂に日子其の餘裕を與へず、報告なかつた團に對し甚だ遺憾と思ひます。櫻花正に散らんとする時、本史編纂のペンを擱く。(増田生)

(皇紀二千六百年記念)

京都市實業青年團史

編 增田芳一

委 熊木賢一

員 大槻庄太郎

(順序不同)

豫定が豫定通り遂行する事は平凡な事ではあるが豫定が豫定通りに遂行出来ざると云ふ事が眞理であると云ふ六つかしき事を思ひ浮かべる。此の記念團史も輝しき二千六百年を意義深めんとし、て峠も越せて、やれ／＼と思ふ間もなく青年團の改組問題となり、青少年團の結成となり、完成の終末に解散式の文を挿入と云ふ事になり、二千六百年の記念團史が共に解散記念團史となり、意味深遠な事となり、而し乍ら青年團が消ゆるのでなく、より以上強く生れいづる青少年團を思ふ時、之れ實に發展的解消と云ふべきである。左にその解散式の模様を摘記してみよう。

× × ×

這般の大日本青年團令の改正に依り既設青年團は輝く發展史の幕を閉ぢ解體統合の已むなき事情に至り従て我國特有の存在であつた吾京都市實業青年團も茲に一應發展的解消をなすこととなり、その思出多き團史に終止符を打つ解體式は陽春正に絢爛たる四月三日の神武天皇祭の佳き日、常に特別な加護を享けて來た官幣大社伏見稻荷神社に於て嚴肅の氣漲る中に舉行された。

午前十時半、比賀江初代團長、辻本、本田の兩顧問、市側よりは北尾主事、宮原主事補等來賓として參席、こ

終の美のおさめ

青年團來目的的達成

發展展的的式——京實青

れに各團代表並に川端團長、樹田副團長、大熊幹事長、大槻、浦崎の常任幹事、堀場、熊木、増田、井上、山名、平井等の諸幹事列席して春風碧空の下、式次第は進められた。

先づ宮城並に伊勢神宮遙拜、國歌「君か代」奉唱、次で令旨捧讀、川端團長式辭として京都市青年團運動の濫觴をなしたる實業青年團の特異な輝きと全國に稀なる職業別青年團の組織をもつて來た我國の發展過程を述べ、國是とならば私を減して國に殉ずる固き決意と信念を披瀝し參列者一同に多大の感激を與へて簡にして要を得た言葉をもつて解體及び團員諸君に與へるの挨拶とされた。

又、前團長にして生みの親たる比賀江氏來賓を代表して實業青年團の進展に因縁深き稻荷大神の御神托のあづかつて大なる事を明説、吾人産業人は神國に生れ神國に育つこの惠澤を享け、時代の變移と共に言葉や文字に變遷するも、大神の庇護の下、天職を通じて國家に貢獻する自説信念は依然として一貫せる道に邁進せんと結ばれ、文字に表現し得ざる強き感銘を與へて祝辭とされ、次で若き血潮と汗で寒風肌刺す冬の日或は炎熱鐵

をも溶かすかと思はれる酷暑に、幾千團員の修養の中心となつて来た團旗(額に表具)を神社に奉獻、之に對し鈴木宮司より親しく御禮の言葉と、將來の實業青年の進むべき道を訓へられる所あり、順をえて大日本帝國の萬歳を三唱、京都市青年團運動に先鞭をつけた實業青年團の燦然たる歴史を斯界に印し、右終の美をおさめ意義いと深きこの式典を閉ぢた。

終つて更に團旗額の稻荷神社に對する奉獻の儀が本殿前に於て多數神官奉仕の下に執行された。其の祝詞は次のやうである。

☆ ☆ ☆

掛麻久母畏後稻荷神社乃大前 恐恐恐母白左久京都市實業青年團伊畏加禮村遠祖皇祖宗乃大皇謀登八紘手掩比長字登爲志給布 天皇乃天業手頂奉里國家乃堅作禮制手整前理米年大住經倫乃隨國內等志久青少年團登云布手編成良節々實故謝其賀組織團人良年登今回團手解散事登登登登登登登登久頂住奉禮登 思頼手謝奉里事乃由手告奉良久登今日乃生日乃足日團長川端道一平始米良各母御前村島如須打群禮參列里禮代乃幣帛登御食御酒海川山野乃種々乃味物捧奉良久平介久安介久開食志諾比給比此今由行先各母各母身健全心彌々澆刺久其賀團乃旋守守里指導者乃教導團從比此金剛無缺搖無住皇國乃矜里手繼行加年 若人乃重復責務手自肅自戒良身平練里心平鍛明氏「伊加奈良古登爾阿比氏母多和麻奴波和賀志伎志麻乃也麻登陀麻志比」乃御製高良加爾心一部體力平協其賀團結手鞏固米歩調勇麻志久惟神奈得大道行進々々美氏國運平進展里久不斷努

力皇國乃御隆昌乎天地乎共永久阿奈那比仕奉里氏 天皇乃大御稜威乎天乃壁立極國乃退立新限伊照里輝加志奉良志米給團守恐恐恐母白

譯文 「掛マクモ畏キ稻荷神社ノ大前ニ 恐ミ恐ミモ白シク京都市實業青年團イ畏カレド遠ツ皇祖皇宗ノ大皇謀ト八紘ヲ掩ヒテ字ト爲シ給フ 天皇ノ天業ヲ頂奉リ國家ノ堅キ體制ヲ整ヘ理メム大キ經倫ノ隨ニ國內等シク青少年團ト云フヲ編成ル、ガ故ニ其ガ組織ニ入ラムト今回團ヲ解散ス事トナリニシカバ年普ク頂キ奉レル思頼ヲ謝奉リ事ノ由ヲ告奉ラクト今日ノ生日ノ足日ニ團長川端道一ヲ始メテ各モ各モ御前ニ村島如ス打群レ參列ナリテ禮代ノ幣帛ト御食御酒海川山野ノ種々ノ味物ヲ捧奉ラク平ケク安ケク開食シ諾ヒ給ヒテ今ユ行先各モ各モ身健全ニ心彌々澆刺ク其ガ團ノ旋ヲ守リ指導者ノ教導ニ從ヒテ金剛無缺搖ギ無キ皇國ノ矜リヲ繼ギ行カム若人ノ重キ責務ヲ自肅自戒テ身ヲ練リ心ヲ鍛ヘテ「伊加奈良古登爾阿比氏母多和麻奴波和賀志伎志麻乃也麻登陀麻志比」ノ御製高ラカニ心一ツニ力ヲ協セ共ガ團結ヲ鞏固メ歩調勇マシク惟神ナル大道ニ行進々々テ國運ヲ進展スベク不斷努力テ皇國ノ御隆昌ヲ天地ノ共永久ニ阿奈那比仕奉リテ 天皇ノ大御稜威ヲ天ノ壁立ツ極國ノ退立ツ限伊照リ輝カシ奉ラシメ給ヘト恐ミ恐ミモ白ス」

昭和十六年五月十五日印刷
昭和十六年五月二十日發行

(非賣品)

編纂者 増田芳一
發行者 川端道一
印刷者 福井松之助
印刷所 京都市中京區柳馬場通三條南入榎屋町
株式會社似玉堂
發行所 京都市中京區御池通河原町
京都市役所社會教育課內
京都市實業青年團

411
80

終

